

千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書（其三）

（自二月十一日至同月二十八日）

大正八年三月十五日調

目 次

一、經過一覽

一、經過詳報

一、講和打合會	附波蘭委員會	七
二、最高軍事會議		四三
三、國際聯盟委員會及聯合與國總會議		四九
四、損害補償委員會		七一
五、開戰責任及制裁調查委員會(責任委員會)		八九
六、港灣水路及鐵道二關スル國際研究委員會(交通委員會)		九五
七、財政委員會		一〇一
八、經濟委員會		一一一
九、國際勞動法委員會		一二三

千九百十九年巴里講和會議經過一覽（其三）

月	日	會 議 / 性 質	議	事
二月十一日		經濟委員會（第三次）	經濟委員會ニ關スル取極草案決定 白耳義ノ要求聽取	
二月十二日		講和打合會（第二十次）	（專門委員及交通委員會へ附議決定）	
二月十三日		最高軍事會議	休戰問題 甲、對獨休戰更新條件ヲ埃及ニ對シテモ要求スル 乙、「シリア」問題 丙、女子參政權論ニ關スル件	
		交通委員會第一分科會（第一次）	自由通過協定英國案討議	
		財政委員會（第二次）	講和條約財政問題各國覺書攻究	
		損害補償委員會（第五次）	「ウヰルソン」提出聯盟案討議了ル 甲、委任統治ノ條文修正（牧野男提議） 乙、帝國委員ノ人種的差別撤廢提議 此日迄ノ重要議事 （附宗教ニ關スル規定削除）	
		國際聯盟委員會（第二十二次）	國際聯盟委員會成案報告及討議 甲、和蘭ヲ經テ「ライン」地方ニ兵器糧食輸送ノ件 乙、「プリンセス」島會議ノ件	
二月十四日		聯合與國總會議（第三回）		
		講和打合會（第二十二次）		

損害補償委員會（第六次）

責任委員會（第三次）

講和打合會（第二十三次）

前回ノ續
分科會調查方法打合

甲、「シリア」問題
乙、和蘭ヲ經テ「ライン」地方ニ兵器糧食輸送ノ件
丙、「ブリンセス」島會議ノ件

損害補償委員會（第七次）
損害補償委員會第一分科會（第一次）

前回ノ續
甲、役員決定
乙、調査進行方法討議
附、損害ノ種類ニ關スル帝國ノ覺書

損害補償委員會第二分科會（第二次）
損害補償委員會第一分科會（第一次）

甲、役員選舉
乙、在敵國金銀高及金銀製造品取調
丙、在聯合國敵財產明細表提出ノ件

二月十七日
講和打合會（第二十四次）

甲、休戰期限延長ニ關スル件
乙、「ユーポースラブ」伊國間境界問題
丙、鄰國問題

損害補償委員會（第八次）

前回ノ續

損害補償委員會第一分科會（第二次）

甲、要求シ得ヘキ敵國金銀額計上

損害補償委員會第二分科會（第一次）

乙、要求スヘキ物品並所要額各國ヨリ申出ノ件

財政委員會（第三次）

各國覺書摘要修正

財政委員會（第五次）

「ユーポースラブ」要求聽取

講和打合會（第二十五次）

國際河川協定案討議

損害補償委員會第二分科會（第三次）

賠償ニ當ツヘキ敵國石炭產出額調査
参考、要償方法ニ關スル各國ノ意見ニ付帝國委員ノ觀察

損害補償委員會（第九次）

前回ノ續

財政委員會（第四次）

覺書摘要逐條討議

財政委員會（第五次）

波蘭委員會（第一次）

在佛波蘭師團送還ノ件

講和打合會（第二十六次）

甲、匈牙利人ト羅馬尼人トノ衝突問題

交通委員會第一分科會（第二次）

乙、波蘭承認問題

交通委員會第二分科會（第二次）

丙、講和問題ニ關スル經濟委員會決定事項ノ件

講和打合會（第二十七次）

丁、「シヨレスウヰツヒ」ニ關スル丁抹ノ要求聽取

不
損害補償委員會第二分科會（第四次乃至第八次）

戊、對敵講和豫備條約ノ件

損害補償委員會第二分科會（第二十八次）

己、自由通過協定案及各國修正意見審議

國際河川協定案討議（承前）

甲、損害補償委員會ヘ荷國委員加入
乙、對敵講和豫備條約ノ件

二月二十四日
講和打合會（第二十八次）

甲、埃及公債利息支拂ノ件
乙、對敵講和豫備條約ノ件

財政委員會(第六次)

交通委員會第一分科會(第三次)

損害補償委員會(第三次)

損害補償委員會第二分科會(第九次)

損害補償委員會第三分科會(第一次)

波蘭委員會(第二次)

二月二十五日 講和打合會(第二十九次)

二月二十六日 講和打合會(第三十次)

財政委員會(第七次)

二月二十七日 講和打合會(第三十一次)

二月二十七日 講和打合會(第三十一次)
損害補償委員會第一分科會(第四次)

損害補償委員會第一分科會(第五次)

財政委員會(第八次)

國際勞動法委員會
(第三次以後十數次)

不
明
責
任
委
員
會

自
至二月二十八日
不
明

丙、「アルバニア」要求聽取
丁、在佛波蘭軍派遣ノ件

甲、覺書摘要逐條討議
乙、埃及公債利息支拂ニ關スル電文案

自由通過協定案討議

露國ノ蒙レル損害審議ノ件
損害ノ種要ニ關スル各國覺書表審議

甲、敵國財源報告請求ノ件
乙、佛國委員ノ敵國財產課稅提議
丙、佛國委員ノ敵國財產一部徵求提議
丁、列國ノ要債範圍並帝國委員ノ意見

役員推薦

甲、波蘭獨逸間國境調查委員會設置
長ノ報告
乙、「タクライナ」人妨害事件

甲、舊墳國公債利息支拂ノ件
乙、在佛波蘭兵派遣ノ件
丙、「モロッコ」問題討議

甲、波蘭獨逸間國境調查委員會設置
乙、白耳義委員會ノ權限質問
丙、羅馬尼亞匈牙利間中立地帶設置ノ件
丁、「アルメニア」ノ要求聽取

覺書摘要逐條審議了

甲、敵國々境確定委員會設置
「ザイオニスト」協會ノ希望聽取
損害ノ種類ニ關スル各國覺書表審議(承前)
損害ノ種類ニ關スル各國覺書表審議(承前)
甲、平和條約財政問題一覽表確認
乙、國際聯盟財政部設置問題
甲、英國案討議(二十八日了)
乙、白耳義委員ノ提議
二、日本委員ノ留保宣明
三、讀會ノ順序決定
四、逐條討議了
乙、伊國委員ノ提案(二十四日)
丙、其他ノ参考記事
(就中「ベルン」社會黨大會ト本委員會)
甲、分科會ニ於ケル佛國委員ノ提案並討議
乙、英國委員ノ新案提出
丙、國際裁判所設立問題

一、講和打合會（附波蘭委員會）

○講和ニ關スル二月十二日第二十次打合會

一、日 時 二月十二日自午後六時

一、出席者 五國委員ノ外

白國 委員三名
イ・マ・ン・ス
「ヴァン、ダン、ホイヴェル」

「ヴァン、デルヴェルト」

一、内容、自耳義ノ要求

一、要求ノ要旨（イーマンス陳述、約三時間）

白國現下ノ地位ヲ定ムル條約ハ一八三九年ニ成立シタル條約ニシテ即チ

（一）蘭白兩國ヲ以テ獨佛間ノ緩衝國（「バツファーステート」）トナスコト

（二）白國ヲ永世中立國トナスコト

ノ基礎ノ上ニ成レリ、然ルニ一九一四年開戦當時白國ノ中立ハ直チニ獨逸ノ蹂躪スル所トナリ延テ世界ノ大戰争トナリタルカ右條約ノ當事者タル五大國中普墺兩國ハ敗北シ露國ハ革命ノ爲崩壊シテ今ハ僅ニ英佛ヲ殘スノ有様トナリ其結果白國ノ永世中立ハ事實行ハレサルニ至レリ故ニ此際同國ニ對シ新ナル地位ヲ與フル必要アリ即チ

第一 白國ノ「スケルト」河ノ自由交通及「ゼーランド」要求

理由、「アンウェルス」港自由交通ノ爲ニハ「スケルト」河ノ自由交通ヲ必要トスル處第一八三九年ノ條約ハ之ニ對シ種々ノ制限ヲ定メ同河ノ規則ニ關シテハ蘭國ト種々交渉ヲ要スルコトニナレリ、即チ白國ハ同河ノ爲如何

ニ費用ヲ投スルモ蘭國ノ同意ナクシテハ何事モ爲シ得ス、又蘭國ニ於テ實行ヲ肯セサルコトモアリ同河口ハ地理上白國ニ屬スヘキモノナリ蘭國ハ「フラツシング」港ヲ有スルモ之ハ海ニ面セル港ナルヲ以テ「スケルト」河ニ付テハ同國ハ毫モ利害關係ナク從テ同河ノ改良ヲ重要視セス寧ロ「ロツテルダム」港ノ改善ニ重キヲ置クリ尙軍事上ヨリ見ルモ「スケルト」河カ蘭領ナラサリセハ開戰當時英國ハ直チニ同河ニ依リ援軍ヲ自國ニ送ルコトヲ得タリシナラン要スルニ「スケルト」河ノ自由交通ト「ゼーランド」トヲ白國ニ與ヘラルコト妥當ナリ

第二、白國ノ「リンブルグ」要求

理由、「リンブルグ」ハ白國ノ永世中立ヲ前提トシテ蘭國ニ與ヘラレタル譯ナルモ其ノ蘭領ナル爲白國ハ「アン・ヴェルス」ト「ミウズ」河間ノ直接聯絡ヲ計ルコトヲ得ス同地方ニハ現ニ運河アルモ幅狭ク水深淺ク且凌渫セラレサルヲ以テ其通過ニハ長時間ヲ要ス又同地ノ後方ハ山地ナル爲「ライン」ト「アン・ヴェルス」トノ聯絡ヲ計ル事モ不可能ナリ白國ハ經濟上右聯絡ノ爲是非共「リンブルグ」ヲ通過セサルヘカラサル地位ニ在リ加之「リンブルグ」ハ白國ノ中立維持ノ爲必要ナリトノ理由ニテ蘭國ニ領有セシメラレタルモ一九一四年開戰當時蘭國ハ獨軍ノ侵入ヲ防止スル能ハス自國軍隊ヲ同地方ヨリ撤退シタル爲獨軍ハ同地方ヲ通過シテ「リエージュ」ノ背面ヲ脅カシ至大ノ危險ヲ白國ニ與ヘタリ又休戰條約成立前「リンブルグ」ヲ通過シタル獨逸兵十萬ニ及ヘリ同地方カ白國中立維持ニ利益無キコト右事實ニヨリ明カナリ此如ク一八三九年條約ノ基礎ハ全ク破碎セラレタルヲ以テ「リンブルグ」ハ白國ニ所屬セシメラレタシ、要之今日白國ノ中立保障ニ付テハ僅ニ二國ヲ殘スコトナリタルモ白國ノ現戰爭ニ於ル犠牲協力ニ顧ミ五大國ハ此際右要求ニ支持ヲ與ヘラレンコトヲ希望ス

此時「ウヰルソン」及「バルフォア」ハ白國ノ要求ハ蘭國ニ代償ヲ與ヘシテ如何ニ之ヲ實現シ得ヘキヤヲ質問シタルニ「イーマンス」氏ハ答ヘテ曰ク

右ニ關シテハ既ニ蘭國ニ開談シ居レリ又白國ノ希望ヲ白國皇帝ノ「ブランセル」還御ノ際ニ於ル演說中ニ言明

セラレタルニ付蘭國政府モ承知シ居ルヘキノミナラス同國ニ對シテハ一八三九年條約ノ調印者トシテ當然之ヲ通告セサルヘカラス要スルニ本問題ハ白蘭間ニ於テ談合ヲ爲スコトモ固ヨリ當然ナリ而シテ右代償トシテ「ブルシアン、グルデルン」地方、東「フリーズランド」及「パンタイム」ヲ和蘭ニ與フレハ可ナラン同地方ハ十八世紀頃ニハ獨立セルモ其ノ後獨逸ニ奪ハレタルモノニシテ地方人ハ現ニ獨立運動ヲ爲シ居レリ且同地方ハ軍事上及經濟上樞要ノ地タルノミナラス人種モ和蘭人ニ近似セルヲ以テ之ヲ蘭領トナスコト至當ナリ

第三、自國ノ「ルクサンブルグ」要求

理由、「ルクサンブルグ」ハ從來一中立國トシテ立チタルモ人口僅ニ二十萬列強國ノ間ニ介在シ到底其ノ壓迫ニ堪ヘサルノミナラス既ニ獨軍集中ノ地其先鋒ノ侵入地トナリ且一八六七年ニハ獨逸關稅同盟ニ加入シ又王黨モ獨逸系ナルヲ以テ時ノ形勢ニ應シ或ハ獨逸ニ傾キ或ハ聯合側ニ傾キ白國ノ中立維持ノ爲毫モ貢獻シタルコトナシ同國ハ元來自國人ノ居住セル土地ナリシモ強テ中立トナシタルモノニシテ地方民ハ白國トノ接近ヲ求メ最近同國「グラント・エス」(太公妃)廢セラレ之ニ代レル新政府ハ未タ各國ノ承認ヲ得サルモ免モ角各地方ヲ治メ居レリ

「ランシング」然ラハ「ルクサンブルグ」人ヲシテ人民投票(「ブレピスシット」)ニ依リ自決セシメテハ如何ト問ヘルニ「イ・イマンス」ハ曰ク

現ニ「レフエレンダム」問題ヲ生シ居ルモ右ハ現王室ヲ主權者ト認ムヘキヤ否ヤ決セムトスルモノニシテ同國自體ノ運命ニ付テハ人心尙ホ興奮セル今日「ブレピスシット」ヲ試ムルモ熟慮ヲ遂ケタル國民ノ意思ヲ知ルコト能ハサルヘシ故ニ白國ト「ルクサンブルグ」間ニ自由ニ詰合ヲ著タルヲ適當トスヘシ而シテ本問題締結方法トシテハ一八六七年ノ條約ニ定メタル中立ノ地位ヲ維持セシムルコトハ現戰爭ノ爲不可能トナリ又佛國ハ「ルクサンブルク」ヲ合ルコト好マサルニ付結局白國ニ合併スルノ外ナカラン

第四、白國ノ獨領「マヌメデイ」「モレスネ」等ノ要求

尙右ノ外「マルメディ」「モレスネ」等普國侵略政策ノ結果同國ニ奪ハレタル地方モ此ノ際白國ニ回復セラレタシ
自國ノ要求スル所ハ征服ニ非ス其將來ノ安全ノ擁護ニアルノミナリ

二 決 定

「バルフォア」ヨリ次ノ提議ヲ爲シ可決セリ

- (一) 米、英、佛、伊、日各國代表者二名宛ヨリ成ル専問委員ヲ設ケ
- (イ) 「マルメディ」市及其ノ地方ヲ自國ニ讓渡スルコト
- (ロ) 「モレスネ」市ヲ白國ニ併合スルコト
- (ハ) 「スケルト」河及蘭領「リンブルク」ノ南部ニ對スル主權ニ付白國ノ要求ヲ容ルルコトノ代償トシテ「リュムス」下流ニ於ル蘭獨國境ヲ蘭國ニ有利ナル様變更スルコト
- ノ三問題ヲ講究セシムルコト
- (二) 白國カ平時ニ於ル其權利自由ノ確保ニ必要ナリトシテ提出シ居ル要求即チ
 - (イ) 「スケルト」河全部ノ航行及支配
 - (ロ) 「ガントルヌーゼル」(Gant Torenzuer) 運河
 - (ハ) 「アンヴエルス」「ライン」河及蘭領「リンブルク」間ノ運河及鐵道ニ依ル交通ノ問題ハ國際交通委員會ニ附議スルコト
- 乙、「シリア」問題
 - 米國人「ドクトル、ブリツス」氏ノ陳述ヲ聽取ス
 - (イ) 陳述ノ要領、「シリア」人ハ久シク土耳其ノ虐政ノ爲性格臆病トナリ自説ヲ充分ニ開陳セス「ウヰルソン」十四箇條第十二項並一九一八年十一月二十日英佛ノ主唱ニ依リ「シリア」ヲ解放シテ自治ヲ計リ以テ「シリア」ノ發達ヲ遂ケシムヘシト、宣言モアリ旁々聯合側ハ此際委員ヲ同地ニ派遣シ彼等ノ要望ヲ聽取ルコト最モ望マシク自分ハ一月九日「ベルート」ヲ出發シタルカ尙同地方ニハ新聞郵便ノ檢閱公會ノ制限アリ又巴里旅行希望者タル「ソバネーズ」代表者其他若干ノ外ハ渡歐不可能ナルノ現狀ニ付此際何等カノ方法ヲ講シ彼等ノ希望ヲ披瀝セシムルノ機會ヲ與へ果シテ一國タルヤ數國タルヤ將又委任統治ノ下ニ置クヲ希望セルヤ等其ノ希望ヲ聽取スル爲是非共委員ヲ同地方ヨリ招致セラレタシ
 - (ロ) 「ビション」、彼等カ其ノ意見ヲ述ヘ得サルノ事情アルハ「シリア」ノミノコトナリヤ若ハ「バレスタイン」「メソ

(ハ) 「プリツス」、他地方亦同様ナルヘキモ自分ハ「シリア」ニ生レタル一人トシテ「シリア」丈ノ事ヲ述フルモノナリ

(ニ) 「チエクリ、ガネニ」 Chekri Ganevi (中央「シリア」委員代表者)、「シリア」ハ其ノ地理上及各人ノ宗教上當然一國トシテ自立スヘキモノニシテ「シリア」人ト亞刺比亞人トハ言語宗教ヲ同ジクスルモ同一視スヘキニアラス「シリア」ハ「シリア」トシテ獨立セシムヘク而シテ現今ノ情勢ハ自立或ハ困難ナルヘキニ付之ヲ佛國ノ監督ノ下ニ自立セシムコト最適當トス佛國ハ久シク同地方ニ學校ヲ設ケ同地方基督教徒保護ノ任ニ當リシノミナラス他地方ニ於テモ多數ノ「スラヴ」人ヲ支配スル關係上佛國カ「シリア」ノ後見タルハ最適當トスル所ナリ「シリア」人ノ現戰爭中聯合國ノ爲死セルモノ數萬ニ上リータヒ士耳其ノ苛政ヲ脱シタル今日又其ノ虐政ニ復歸スヘカラストハ彼等ノ念慮シツツアル所ニシテ「シリア」將來ノ運命ノ爲將又自由ノ保障ノ爲本會議ニ於テ充分討議セラレムコトヲ望ム

丙、女子參政權論ニ關スル件

- (イ) 「ウヰルソン」、女權論者ヨリ講和會議ニ於テ女子及子供ノ地位ヲ認メラレタキ意味ノ申出アリ自分ハ婦人參政權論者ニハ同情ヲ表スルモ講和會議ニ本問題ヲ即決スルハ稍々困難ナリト思考ス唯本會議ニ於テ若干ノ委員ヲ選舉シ婦人參政權論者ト意見交換ヲ爲サシムル位ノコトニ致シテハ如何
- (ロ) 「クレマンソウ」、本問題ニ就テハ佛國內ニテモ大ニ議論アル所ナリ
- (ハ) 「ソンニノ」、自分ハ女權論者ノ希望ニ同情スルモ會議ノ問題ト爲スニハ適セス
- (ニ) 「マハラージャー」 (印度事務大臣ノ代理トシテ「シリア」問題ノ爲出席セルモノ)、印度ニ於テモ重要問題ナリ
- (ホ) 松井委員、日本ニ於テモ女權論ヲ唱フルモノアルモ何等重大ノ意味ヲ有セサル現狀ナリ

結局本件ハ其ノ儘ニテ打切り散會セリ

○講和ニ關スル一月十四日第二十二次打合會

一、時 日 二月十四日午後七時

一、出席者 五國委員

一、議題

甲、和蘭ヲ經テ「ライン」地方ニ兵器糧食輸送ノ件

(イ) 「バルフォア」、目下佛國北部及白耳義鐵道破壊ノ儘ニテ「ライン」地方ニ往來スル英國兵及兵器食料等ノ輸送困難ナルヲ以テ和蘭ヲ通過シテ之ヲ行フノ外ナキモ和蘭ニテハ「ライン」地方ニ送ル食料ニ付テハ故障ナキ旨米國へ答ヘタル由ナルカ兵員兵器ヲ該地方ニ送ルノ必要ハ申迄モナキ義ナルニ付之ヲ和蘭ニ迫ルコトニシタシ

(ロ) 決定、列國員中右和蘭トノ交渉ノ成行ヲ詳シク承知スルモノナキ爲更ニ翌日ノ會議ニ於テ議スルコトニ決ス

乙、「プリンセス」島會議ノ件

(イ) 「チャーチル」、「ウヰルソン」大統領出發ニ付英國政府ノ特使トシテ來リシモノ

「プリンセス」島會議ハ明日ニ迫リ過激派政府ハ之ニ出席スヘキモ他ノモノハ出席セサルモノト見テ然ルヘシ果シテ然ラハ此ノ問題ヲ如何ニスヘキヤ

(ロ) 「ウヰルソン」、自分ハ出發間際ノコトトテ特ニ意見ヲ述ヘ難キモ第一、聯合國カ露國ニ派遣シアル兵ハ少數ニテ格別ノ用ヲ爲サス去リトテ大軍ヲ送ルコトハ不可能ナレハ寧ロ之ヲ總テ撤退スルニ若カス 第二、「プリンセス」島會議ハ露國各種ノ分子ヲ糾合スル筈ナルニ過激派ノミ來リテハ同島ニ會議ヲ開クノ要ナシ

- (ハ) 「チャーチル」、聯合側ノ兵ヲ撤退スルトキハ露國ノ潰亂ハ一層甚シクナルヘシ然カモ徵兵ニ依リ募集シタル兵ヲ今更露國ニ送ルコトハ不可能ナリ或ハ義勇兵ト兵器トヲ送リテ露國反過激派ヲ助クルノ外ナカラムカ
 (二) 其ノ他他國員ノ間ニ意見ノ交換ヲ爲シ
- (ホ) 決定、結局翌日ノ會議ニ讓ルコトニ決ス

○講和ニ關スル一月十五日第一十二三次打合會

一、議題

甲、「シリヤ」問題

二三委員ノ陳述聽取

乙、和蘭ヲ經テ「ライン」地方ニ兵器糧食輸送ノ件

- (イ) 米「ブリス」將軍ハ本問題ニ關スル蘭國政府トノ交渉大要ヲ語リ食料ヲ内地ニ送ルコトハ差支ナキモ兵員兵器ヲ送ルコトニハ同意シ居ラスト謂ヒタルニ付

- (ロ) 英「バルフォア」、前日ノ所說ヲ繰返シ兵員物資出入共ニ蘭國ヲ通過スルニアラサレハ聯合軍ノ義務ヲ果シ難シ蘭國ニ於テ之ニ應セサルトキハ平和ノ爲重大ナル責任ヲ負フコトナルヘキニ付此ノ意味ヲ以テ強ク蘭國政府ニ五國公使ヨリ迫ルコトニシタシ

- (ハ) 米「ランシング」及伊「ソンニノ」、軍事上ノ必要ハ尤モナレト之ヲ中立國ニ強ユルハ如何ノモノナルヘキカ

- (二) 英「バルフォア」(?)、和蘭ハ休戦前十萬以上ノ敵兵ヲシテ蘭領ヲ經テ歸國セシメタリ若之ヲ認容セサリシナラハ彼等ハ當然聯合國ノ俘虜トナリタルモノニシテ和蘭ノ失策ナリ和蘭ハ此ノ失策ヲ償ハサルヘカラス而モ今日ノ要

求ハ焦眉ノ急ナリ一日モ猶豫スヘカラス

- (ホ) 牧野男、自分トシテハ直ニ和蘭公使ニ電訓スルノ權能ナキニ付政府ニ申立ツヘシ

- (二) 決定、「バルフォア」ノ意見ノ通決定ス

丙、「プリンセス」島會議ノ件

- (イ) 英「チャーチル」ハ「プリンセス」島案カ實現セラレサルモノナラハ餘リ永ク之ニ拘泥スルノ要ナク他ニ何等カノ案ヲ考ヘサルヘカラス然ラサレハ露國ノ穩健分子モ益々離散シ彼等ニ從屬スル露兵モ益々潰敗スヘキニ付此際過激派政府ノ回答ニ對シ一應辯駁ヲ爲シ尙十日以内ニ爭鬭ヲ止メサルニ於テハ「プリンセス」島案ハ當然廢棄セラレタルモノトスヘキコトヲ聲明スルコトニシテハ如何トシテ一ノ聲明案ヲ提出シ且該十日間ニ露國ニ關スル評議會ヲ組織シ軍事經濟財政ノ各方面ヨリ之ヲ攻究シ差當リ各國ノ軍事會議ヲ組織シ右十日ノ期間ノ後ニ執ルヘキ態度ヲ決定シタシ而シテ右軍事會議到底施スヘキ策無シトスレハ露國ヲシテ自ラ救濟策ヲ講セシムルノ外ナシ由來露國ハ東方ニ在リテ一大重鎮ナリシカ今日ノ有様ニテハ其ノ力ナク茲五年若ハ十年ノ後ハ獨逸ハ大ニ狼臂ヲ露國ニ伸ハスニ至ルヘキハ明ニシテ歐洲諸國ニ取リテハ由々シキ大事ナリト述フ
- (ロ) 佛「クレマンソウ」、自分ハ元來「プリンセス」島案ニハ賛成ナラサリシカ「ロイドジョージ」氏ノ意見モアリ狂ケテ之ニ應シタル次第ナルカ今日此ノ案ヲ支持スルモノ無キニ付是ハ此ノ儘廢棄スルコトトシ簡單ニ其ノ意味ヲ聲明スル丈ニテ足ルヘク而シテ「チャーチル」氏カ露國ニ對シ下シタル觀察ハ至極尤ニシテ露國ヲ自然ノ成行ニ任スコトハ實際已ムヲ得サル所ナリ獨逸ニ對シテハ其ノ周圍ニ墙壁ヲ築クノ政策ヲ採リ我等カ「ライン」河ニ於テ獨逸ニ勝チタルト同様露國ニ於テモ獨逸ヲ挫クノ要アリ
- (ハ) 伊「ソンニノ」、「クレマンソウ」ト同意見ヲ述ヘ十日ノ猶豫ヲ與フルノ要ナシト說ク
- (二) 牧野男、同案ハ西比利亞地方ニテモ反過激派分子ノ歡迎セサリシモノノ如キニ付此ノ後モ此ノ分子ニ對シ何等

(ホ) 其他「バルフォア」ハ「チャーチル」案ヲ辯護シタリシカ
(ヘ) 何等ノ決定ヲ見ルニ至ラス散會

○講和ニ關スル一月十七日第一二十四次打合會

一時 日 二月十七日自午後三時至同五時

一出席者 五國委員

一内容

甲、休戦期限延長ニ關スル件

「フォンシュ元帥ハ十四日午後三時「トレーヴ」ニ於テ獨逸委員ト會見休戦期限延長ニ關スル聯合側ノ提案ヲ示シタルニ獨逸委員ハ直ニ之ニ諾否ヲ回答ヲ爲シ難キ旨ヲ答へ且二十四頁ニ亘ル抗議書ヲ提出シタルモ聯合國政府ノ決定ナレハ元帥ニ於テ取捨スルコト難ク結局期ニ至リテ延長不成立ナルトキハ休戦ハ破ルルモノナリト述ヘタルニ十六日午後五時ニ至リ遂ニ休戦追加條約（該諒文末尾ニ添附シアリ）ニ調印シタル趣同元帥ヨリ口頭報告アリ

乙、「ユーゴースラヴ」伊國間境界問題ノ件

(イ) 議長「クレマンソウ」、「ユーゴースラヴ」ハ伊國トノ問題ヲ米國大統領ノ仲裁ニ附シタルキ旨同大統領ニ申出タル趣本會議ニ通知アリタリト述ヘタルニ

(ロ) 伊國「ソンニノ」、伊國カ現戦争參加ノ條件ト爲シタルモノヲ講和會議ノ存立セルニモ拘ラス仲裁ニ附スルコトニハ同意シ難シト宣言ス

丙、露國問題

(イ) 英國「チャーチル」、大體前回ト同様ノ意見ヲ述フ

(ロ) 米國「ハウス」、米國ハ露國ト戰爭ヲ爲スモノニ非ナルヲ以テ米國兵ハ勿論義勇兵ヲモ同國ニ送ルコト不可能ナリ

(ハ) 伊國「ソンニノ」、米國ハ現ニ兵隊ヲ露國ニ送リ居ルニ非スヤ又若假リニ兵ヲ送ルコト六ヶ敷トモ兵器及材料ヲ送ルコトハ差支ナカルヘシ

(二) 米國「ランシング」、先ツ聯合國ノ露國ニ對スル政策ヲ決定スルノ要アリ

(ホ) 英國「バルフォア」、政策ノ決定ハ勿論結構ナルモ政策ハ實行ノ可能ト否トニ依リテ決セラルヘキモノニシテ兩

者相互ニ關係アルニ付何レヲ先トシテ決定スルコト難シ去リナカラ今茲ニ軍事會議ヲ開キテ之ヲ討議セムカ種々ノ憶測ヲモ生シ却テ面白カラサル影響ヲ及ホスヘキニ付別ニ決議等公ノ手續ヲ爲サス各國軍事委員ニテ相互公然トナク相談シ其ノ結果ヲ各自國ノ全權ニ報告シ其ノ上ニテ更ニ會議ヲ遂クルコトシテハ如何

(ト) フル「クレマンソウ」、吾々カ種々大問題ヲ議スルニ左迄世間ヘノ遠慮ハ無用ナラム然シ會議カ其ノ意見ナラハ狂ケテ同意スヘシ又米國ハ聯盟國（アリエ）ニアラス聯合國（アソシエ）ナリト平常唱フルニ依リ自分モ善ク諒解シ居レルカ「ハウス」大佐ハ露國問題ハ米國ノ關セサル所ナルカ如ク言ハレ「ブリス」將軍ハ四月ニハ「アル・ハングル」地方ノ米國兵撤退スヘシト言ハルカ露國問題ハ歐露巴ニ取リテハ大問題ナリ米國之ニ參加シ討議セラレムコトハ元ヨリ望ム所ナルモ若參加セストセハ他ノ諸國ニテ相談スルモ苦シカラス

(ト) 二三應答ノ後「バルフォア」氏ヨリ日本委員ノ意見ヲ尋ヌ

(チ) 牧野男、「バルフォア」氏ノ意見ニ從ヒ日本軍事委員カ各國ノ同僚ト相談スルコトニハ異存ナシ但シ軍事上何程ノ協力ヲ爲シ得ヘキヤハ自分ノ承知セサル所ナリ

(リ) 結局別ニ決議ノ形ヲ執ラス右ノ趣旨ニテ一同ノ話ヲ纏メ散會セリ

休戦追加條約（譯文）

一八

獨逸人ハ「ボーゼン」或ハ其他一切ノ地方ニ於テ波蘭人ニ對スル攻勢ヲ即時全然終止セサルヘカラス獨逸軍隊ハ左記ノ線ヲ越エヘカラス

「ルイゼンフェルド」ニ達スル迄ノ露國ニ接壤セル元東西普魯西ノ境界線、其ヨリ同點ヲ起點トシ「ルイゼンフェルド」ノ東、「グロス、ノイドルフ」ノ西、「ブロツォーゼ」ノ南、「シュビン」ノ北、「エキシム」ノ北、「サモナン」ノ南、「シヨツドザインゼン」ノ北、「カルネコフ」ノ北、「ミアラ」ノ西、「ビルンバウム」ノ西、「ボイトケン」ノ西、「ウォルスタイン」ノ西、「リツサ」ノ北、「ルヴィルツ」ノ北、「クロトヴィン」ノ南、「オデルナウ」ノ西、「シルドベルグ」ノ西、「イヴエルスルクス」ノ北ヨリ「シレジー」ノ境界ニ至ル線

客年十一月十一日締結セラレタル休戦條約ハ同十二月十三日及ヒ本年一月十六日ノ條約ニ依リ同二月十七日迄延期セラレタル次第ナルカ右ハ今回更ラニ終了期間ヲ定ムルコトナク短時間之ヲ延期スルコトシ聯盟國ハ三日間ノ豫告ヲ爲シテ右終了期日ヲ定ムル權利ヲ留保ス客年十一月十一日ノ條約及ヒ同十二月十三日並ニ本年一月十六日ノ附屬條約規定ニシテ未タ完全ニ實行セラレ居ラサルモノハ聯合國最高司令部ノ命ニ從ヒ休戦延長期間内ニ之ヲ實行セラルヘシ

○講和ニ關スル二月十八日第二十五次打合會

一、時　　日　　二月十八日自午後三時至同六時

一、内　容　　「ユーロースラブ」ノ要求聽取

(イ) 歷史的陳述及統一要求ノ理由

先ツ駐佛塞爾比公使「ベスニツチ」ハ中歐帝國從來ノ政策カ巴爾幹ヲ經由シテ小亞細亞ニ發展スルニ存シ常ニ塞爾比亞

ヲ以テ其ノ邪魔物視シ塞爾比討議ノ運動ヲ劃策シテ怠ラサリシカ遂ニ「ボスニア」「ヘルツエゴヴァイナ」二州ノ併合トナリ巴爾幹戰爭トナリ延テ今回ノ大戰爭トナレリトテ歴史上ノ事實ヲ述ヘ進ンテ塞爾比亞ハ戰爭ノ結果悲慘ナル境遇ニ陥リシモ回天ノ大業ニ努力シ戰地ニ在リテ陣沒シタルモノノ外撫軍ニ徵集セラレタル「ユーロースラヴ」人ニシテ或ハ命令ヲ拒ミ或ハ殊更ニ敵軍ニ投降シテ露國ノ爲ニ戰ヒ或ハ伊國ノ爲ニ戰ヒタルモノ多々アリ蓋シ「ユーロースラヴ」ノ統一ハ舉國一致ノ要求ニシテ右要求ノ理由トスル所ハ

- (一) 同一民族ナルコト
- (二) 各民族ハ各自自由ヲ有スルコト
- (三) 原則ニ依ラントスルニ在ルコトヲ説明シ

(ロ) 領土要求

次ニ國境問題ニ移リ「ベスニツチ」ノ外「スロベーン」代表者トシテ「ツオルゲル」、「クロアチア」代表者トシテ「トルンビツチ」ハ各其ノ代表スル地方各國ト聯絡スル方針ニ於ケル國境ノ改訂問題ニ付其ノ要求ノアル所ヲ説明セシカ（附屬圖参照）要スルニ希臘方面ノ境界ハ大體「ブカレスト」條約ニ定ムル所ニシテ勃牙利トノ境界線ハ「スツルーマ」河(Struma)ノ希勃兩國境ニ交叉スル邊ヨリ同河左岸ニ沿フテ北走シ Mielouta (此ノ地名ハ不明ナリ或ハ Murtana (勃都「ソフィア」ノ西方)ニアラサルカ) 近傍ヨリ北東ニ斜走シ Palgitzna Khan (此ノ地名モ不明ナリ或ハ Berkovitzaiニアラサルカ) ヨリ再ヒ北走シ「スコムリア」河(此ノ河名モ亦不明ナリ)附近ニ於テ「ダニユーブ」ニ會ス之レヨリ羅馬尼トノ境界ハ「ダニユーブ」ニ注ク邊ニ至リテ洪牙利トノ境界線ニ移リ「ダニユーブ」ニ沿ウテ洪牙利國トノ舊境界ヲ守リ Brunjitsa (此ノ地名モ不明ナリ或ハ Basiusel)一名 Baziasニアラサルカ) 附近ニ至ルヤ北折直走シテ「アラツヤ」(Arad)附近ニ進ミ之レヨリ

西折「スゼグデン」(Saggeden) 附近ヲ過キテ所謂「バナト」(Bauat) 地方ノ大部分ヲ包羅シ「ベクス」(Pecs) 一名 Fünf Kirchen) 附近ニ至リテ「ドラヴ」河(Drave) 之近接シ同河ヲ左ニ見テ北西ニ斜走シ「ゴツタハル」(Gothard) 附近ヨリ奥地利。トノ間ノ境界線ヲ更ニ西走シテ Gelagentar (此ノ地名モ亦不明ナリ或ハ Greifenburg ラアラサルカ) 附近ニ於テ伊國國境ニ達ス。伊國トノ境界ハ大體舊塊伊兩國境界線ヲ辿リ「シヴィダール」(Chvidale) 「ヒュード」(Höd) (恐ラク Gorz 一名 Goritza ハ指スモノナラン) 「グラシスカ」(Gradisca) ハ諸市ヲ點綴シテ「アドリアチツク」海ニ出テ同海方面ニ於テ「トリエスト」ヲ含ム「イストリー」全半島、「フューネ」市並ニ「ダルマシア」全沿岸、「ボスニア」「ヘルツエゴヴァイナ」「モンテネグロ」並ニ「アルバニア」ノ北部ヲ包含スルモノニシテ以上「ユーゴースラヴ」代表者ノ眼目トスル所ハ。

境界線内ニ合マレタル一圓ノ領域内ニ居住スル人民カ悉ク同一種人ニ屬スト言フニ在リ尤モ「イストリー」ノ西部ニハ伊太利人居住セルモ「トリエスト」ヲ始メ其ノ他西岸ノ都市ハ其後方「ヒンチルランド」(後背地)ト其ノ運命ヲ共ニスヘキモノニ付同半島全部ヲ新「ユーゴースラヴ」國ニ編入スルヲ適當トス。

(八) 國境委員會附議

○英國代表者「バルフォア」ハ從來境界問題ハ特別委員會ヲシテ之ヲ研究セシムルコトトナリ居レルモ伊國ト協商國トノ間ニハ倫敦條約ノ存在スルアリテ直ニ右ノ方針ニ從ヒ難キモノアルヲ以テ如何ニスヘキヤト議場ニ詰リシニ。

○伊國代表者「ゾンニノ」男ハ伊國トノ國境殊ニ「アドリアチツク」海方面ノ境界問題ヲ五國會議以外ノ特別委員ノ研究ニ任スルコトニ不同意ヲ唱ヘ結局伊國ニ關係ナキ舊塊汎國方面ノ國境改訂問題ハ特別委員會ノ研究ニ委スルモ差支ナキニアラスヤトノ注意モアリ。

○終ニ此ノ方面ノ問題ハ又「バナト」委員會ヲシテ研究セシムルコトトナリ。

(「バナト」問題ニ關シテハ一月三十一日打合會記事參照)

○講和ニ關スル一月二十一日第二十六次打合會

(「クレマンソウ」氏奇禍ノ爲二十日ハ打合會ヲ開カス)

一、日 時 二月二十一日午後三時

一、主宰者 「ビショーン」

一、議題

甲、洪牙利人ト羅馬尼トノ衝突問題

休戰後洪牙利人ノ治下ニ苦シム同族救護ノ名ノ下ニ「トランシルバニヤ」ニ深ク侵入セル羅馬尼兵ト洪牙利人トノ間ニ衝突ヲ惹起セルニ因リ其ノ解決方法ヲ羅馬尼問題委員會ノ研究ニ託シ置ケル處二十一日同委員會長「タルデュ」出席右衝突ハ塊地利休戰ノ際同國ト羅馬尼トノ境界線ニ就キ何等取極ヲ爲サ、リン結果ナルヲ以テ此際最高軍事會議ヲシテ同國軍ノ守ルヘキ境界線ヲ確定セシメ之ヲ雙方ニ通告スルヲ適當トスル旨提議アリテ裁決セラル。

乙、波蘭承認問題

イ 佛國委員ノ報告

在波蘭「コミテーナシヨナルボロネー」(波蘭國民委員會)ヨリ聯合國カ波蘭ノ事件ヲ講和ノ一條件トナスヘシトノ一九一八年六月三日「ペルサイユ」宣言(本項末尾參照)ヲ引用シ「バダレウスキ」カ最近國民ノ信望ヲ得政府ヲ組織セルヲ機會トシテ波蘭政府ノ承認ヲ聯合國政府ニ要望シ來レル旨佛國委員ヨリ報告アリ

ロ 承認決定

ハ 聯合國政府ハ既ニ事實上波蘭政府ヲ承認シ居ルヲ以テ此際右要求ヲ容ル、コトニ決ス

ハ 帝國委員ノ留保

松井委員ヨリ帝國ハ波蘭政府ノ承認ニ毫モ異議アルニ非サルモ未タ波蘭ハ素ヨリ「コニテナシヨナル」(國民委員會)ヲモ承認シ居ラサルニ付本國政府ノ同意ヲ求ムヘシト述ヘ置キタリ

○参考 一九一八年六月三日「ベルサイユ」宣言(波蘭ニ關スル部分)次ノ如シ

ク制度ノ條件ヲ爲ス

(La création d'un état polonais uni et indépendant avec libre accès à la mer constitue une des conditions d'une paix solide et juste et d'un régime de droit en Europe.)

丙、講和會議問題ニ關スル經濟委員會決定事項ノ件

如何ナル問題ヲ講和會議ニ於テ商議スヘキヤ經濟委員會(「ロムニツショノ・ヒヨノマック」)ヲシテ研究セシメ置キタル處同委員會ニ於テハ其第三次會合ニ於テ決定シタルモノ(該會合ノ記事參照)ヲ五國會議ニ廻附シ來リタルニ付其ノ第一條過渡的手段(Transitory measures)ハ之ヲ聯合國最高經濟會議ヲシテ研究セシムルコトトシ第一條以下ノ問題ノ討議方ニ就テハ更ニ右經濟委員會ヲシテ研究セシムルコトニ決ス

丁、「シゴンスウヰヒ」ニ關スル丁抹ノ要求聽取(駐佛丁抹公使陳述)

「シユンスウヰヒ」ハ北部中央部及南部ニ分レ居ル處南部ハ用語モ丁抹語ニ非サル上獨逸人多數ヲ占メ約三十萬ヲ算スベタ之ヲ人口三百萬ノ丁抹ニ合併スルハ好マシカラス反之北部ハ住民モ丁抹人ニシテ全然丁抹語ヲ使用シ常ニ丁抹ニ服セントヲ希望シ居レルヲ以テ人民自決權ニ依リ速ニ其歸復ノ機會ヲ與ヘムコトヲ希望ス、中央部「フレンスブルグ」(Blensburg)ハ獨逸人アルモ丁抹復歸ヲ希望スルモノ尠カラサルヲ以テ之亦自決ノ方法ヲ與ヘラレタシ尙人民投票(「ブレンシット」)ヲ行フ場合ニハ此等地方ヨリ獨逸兵ヲ撤廢シ聯合國委員監視ノ下ニセラレムコトヲ希望ス云々

本問題ハ白耳義問題委員會ヲシテ研究報告セシムルコトニ決ス

戊、對敵講和豫備條約ノ件(「ベルフォア」提議)

「ベルフォア」ヨリ對獨講和豫備條約ヲ可成速ニ討議スルノ必要ヲ述ヘ講和豫備條約ハ海上陸上及空中ニ關スル條件ノ外ニ

一、獨逸將來ノ概略的國境

二、獨逸ニ對シテ課スヘキ財政條件

三、戰後對獨經濟關係

四、戰爭法規違反ニ對スル責任

ノ諸點ヲ包含スヘク而シテ此等ノ問題ヲ研究シ居レル各種委員會ハ二月十五日以後ニ設ケラレタルモノヲ除キ遲クモ三月八日迄ニ五國會議ニ其ノ報告ヲ送付スヘシトノ提案ヲ爲シタルカ二十二日ノ會議ニ於テ之ヲ討議スルコトニ決ス

○講和ニ關スル二月二十一日第二十七次打合會

一、日 時 二月二十一日自午後三時至同五時半
一、内 容

甲、損害補償委員會ヘ葡國委員ヲ加フルノ件

(イ) 「ベルフォア」葡國ヨリ右加入ノ申込ヲ受ケタルコトヲ披露シ同國ノ損害タルヤ本ヨリ小ナリト雖モ尙損害ナリ右申込ヲ如何ニセント議場ニ譲リタルニ

(ロ) 「ビション」

自己モ亦同様ノ申込ヲ受ケタルコトヲ述ヘタルカ目下本委員會ニハ五大國ヨリ各三名都合十五名、六小國ヨリ各二

名都合十二名ノ委員ヲ出シ居レルカ今之ニ葡萄牙ヲ加フル時ハ小國委員ハ都合十四名トナリ此上更ニ一小國ヲ加フル時ハ同委員會ニ於テ大國カ多數ヲ得ルコト能ハサルニ至ルヘシ故ニ此上小國ヲ加ヘサル諒解ノ下ニ葡萄牙ノ加入ヲ許サハ如何ニト注意ス

(ハ) 決定

右諒解ノ下ニ葡國ノ本委員會加入ヲ許スコトニ決セラル

乙、對敵講和豫備條約ノ件

(イ) 「バルフォア」

本件ニ關シ一應ノ説明ヲ加ヘタル後對獨講和條件就中海陸軍ニ關スル條項ハ勿論其ノ他ノ條項ニ付テモ成ルヘク速ニ之レヲ決定スルコト必要ナルヲ以テ本日「クレマンソウ」氏見舞旁同氏ノ所見ヲ叩キタル處氏モ全然同感唯海陸軍條項ト財政其ノ他ノ條項トヲ分割シテ取扱フハ面白カラス成ルヘク一括全體トシテ提出スルヲ可トスルノ意見ナル旨ヲ述フ

(ロ) 「ハウス」

之ニ同意シ軍事條項ト同時ニ他ノ條項ヲモ提出スルハ獨逸ヲシテ他ノ條項ヲ承諾セシムルニ一層容易ナルモノアルヘシト述フ

(ハ) 「ソンニノ」男

對獨軍事條項ヲ決定スルト同時ニ對塊軍事條項ヲモ同様決定セラレタキ希望ハ曩ニ「オルランド」氏ノ提議ニ基キ本會議ノ同意ヲ得タル處ナリ然ルニ今塊國ノ方ヲ外ニシ對獨條項ノミヲ急クハ當ラ得サルノ感アリ講和條約ノ關スル處種々複雜錯綜セル問題アリ例ヲ對塊問題ニ取ラムニ一部ハ敵國ニ對シ一部ハ味方ニ關ス又土耳其問題アリ對露國問題ノ殘レルアリ此際對獨問題ノミヲ處理シ復員セムカ伊國ハ單獨塊國方面ヨリノ威壓ヲ受クルコトアル可シ要ス

ルニ講和問題ニハ諸方各般ノ問題互ニ纏綿ス對獨條項ノミヲ先決問題トスルハ同意スルコトヲ得スト述フルヤ

(二) 「ランシング」氏「ハウス」氏

「ランシング」氏ハ然ラハ對獨問題ノミナラス此際對塊洪國問題ヲモ同時ニ決定セハ可ナラスヤト注意シ「ハウス」氏モ又同趣旨ニテ獨塊勃牙利土耳其ニ對スル問題ヲモ同時ニ處理ス可シト唱フルヤ

(ホ) 「バルフォア」氏

至極尤モノ說ナレトモ何分問題複雜ニシテ之ヲ同時ニ處理スルハ事實上不可能ナリ而シテ對獨問題ノ決定ヲ急クハ最モ必要ノコトニシテ又一旦對獨問題ヲ解決セハ他ハ之ニ從テ解決シ「ソンニノ」男ノ述ヘラルルカ如キコトナカル可シト述ヘシカ

(ヘ) 「ソンニノ」男

極力自說ヲ主張シ對獨問題ノミヲ先決トシ對塊問題ヲ後廻シトセンカ伊國人ハ不平ノ極革命ヲ起スヤモ計ラレスト云ヒ

(ト) 「バルフォア」氏

亦自說ヲ固持シテ讓ラス互ニ論戰ノ花ヲ咲カセ其結果種々ノ折衷案モ生シタルカ

(チ) 結局

「バルフォア」氏提案ノ趣旨ノ決議案ヲ獨塊勃土西國ニ關シ夫レ々一通宛作製スルコトトナリ

(リ) 牧野男

右決議案ニ所謂獨國將來ノ概略的國境ノ文句ハ果シテ獨國殖民地乃至其ノ租借地ヲ含ムモノナリヤ否ヤ明瞭ナラスルヲ以テ此點ニ關シ會議ノ注意ヲ喚起シタルニ

(ヌ) 「バルフォア」氏

字義稍廣キニ過クルモ殖民地ノ問題ヲモ包含スル積ナリト答ヘシカ

(ル) 「ランシング」氏

然ラハ右文句ニ獨國領土權ノ拋棄ノ文字ヲ附加セハ可ナラムトノ注意アリタルヲ以テ

(オ) 松井大使

獨國領土權ノ内ニ(脱)在リ此等ノ權利ヲモ拋棄スルノ意ナリヤト反問セシニ

(ワ) 「ランシング」氏

詳細ニ記述スルハ稍困難ナルモ決議文中ニ諸問題就中ノ文字ヲ挿入セハ可ナルヘシト答ヘ

(カ) 「バルフオア」氏

(不明)問題等ヲモ之レニ包含セシムル積ナリト述ヘ

(ヨ) 結局

本件決議文ハ更ニ書記局ニ於テ作製ノ上之ヲ明後日ノ會議ニ附スルコトナリ閉會

○講和ニ關スル一月二十四日第二十八次打合會

一、日 時 二月二十四日自午後三時

一、出席者 五大國委員

一、内容

甲、塊國公債利息支拂ノ件

(イ) 英國「バルフオア」氏、英國大藏省ノ希望ニ依リ同氏ハ述ヘテ曰ク三月一日支拂期限ノ到來スヘキ塊國公債利息ヲ勸告セシメ同時ニ次回二期限到来スヘキ分ノ處分ハ別問題ナルコト茲舊塊國各地方ノ同國公債分擔問題ヲ此際決定スルノ趣旨ニハアラサルコトヲ説明セシムヘシト提議シタリ

(ロ) 伊國交通大臣「クレスビー」氏、自分ハ財政委員會ニ於テ塊國ニハ右公債利息支拂ノ資金アルコトヲ説ケリ「バルフオア」氏ノ言ノ如ク將來ノ事ハ兎モ角差向キノ支拂ハ之ヲ實行セシメサレハ由々敷事態ヲ招クヘシ尙本日ノ財政委員會ニ出席シ本問題ニ關スル意見ヲ聽キ他日更ニ之ヲ議スルコトトシ度シト述ヘタリ

乙、對敵講和豫備條約ノ件

○二月二十二日「バルフオア」氏ノ提出セル決議案ニ基キ敵國側四國ニ對スル案ニ付審議ス

(イ) 獨逸ニ對スル分ハ(一、獨逸將來ノ概略的國境)ノ次ニ(殖民地及歐洲以外ニ於ケル領土權ノ拋棄)ナル一項ヲ加フ

(ロ) 塊國ニハ殖民地ナキ爲斯カル項ヲ設ケサリシカ「ソニニノ」男ヨリ支那ニハ塊國居留地ノ問題モアルニ付領土權ナル句ノミ加ヘタシト述ヘ其ノ通可決ス

(ハ) 勃牙利及土耳其ニ對シテハ提案ノ通

○「ミルナー」卿 ハ右決議ヲ爲スモ別ニ陸海軍事條件ヲ提出スルヲ妨ケサルヘシト述ヘ右ハ既ニ前日ノ會議ニモ上リタルコトニテ無論差支ナシト決シ

○「フォツシユ」元帥 ハ先ツ軍事條件ヲ提出シニ三箇月後ニ至リ他ノ條件ヲ出スコトトセハ獨逸ハ其ノ間如何ナル準備ヲ爲スヤモ計ラレス提出期ノ前後アルモ妨ケナカルヘキモ其ノ間ニ餘リ距離アルハ不可ナラムト述ブ丙、「アルバニヤ」要求ノ聽取(「チユルカムバシャ」ノ陳述要旨)

柏林條約及一九一三年ノ條約ニ依リ「アルバニヤ」ノ領土侵害セラレ居ルニ付此際之ヲ匡正セラレタシト述ヘ尙土耳其

ノ虐政希臘ノ暴行等ニ付附言セリ

丁、在佛波蘭軍派遣ノ件

(イ) 波蘭委員會ノ報告

在「ワルソー」聯合國委員ヨリ在佛波蘭軍ノ派遣方ヲ提議シ來リ當地ニ於ル波蘭問題委員會ニ於テ審議ノ結果委員長「カンボン」氏ヨリ報告アリ、其要旨次ノ如シ

波蘭軍ノ派遣ハ「ダンチヒ」ヨリスルヲ要シ「ダンチヒ」「トルン」間及「ダンチヒ」「ムラバ」間ノ鐵道線並「ヴィスクユラ」河ノ占領ヲ必要トスル處其カ爲メニハ獨逸兵ヲ同地方ヨリ撤去セシメ又「ダンチヒ」ヲ根據地トセサルヘカラス然ルニ(不明)ノ東方境界線未タ確定セス右實行ハ大問題ナルニ付與國會議ニ報告シテ其決定ヲ見ルノ外ナシ尙本問題ハ同時ニ輸送ノ關係アルヲ以テ海運問題委員ト相談ノ上ニ非サレハ實行スルヲ得ス

(ロ) 「フォツシユ」元帥ノ意見

於是「フォツシユ」元帥ノ意見ヲ微シタルニ同元帥ハ波蘭問題委員ノ說ヲ容レス以テ獨逸ノ或占領地ニ於ル交通ノ自由ヲ確定シ得ルニ非サレハ波蘭軍ノ輸送ハ困難ナリト述ヘタリ

(ハ) 「バルフォア」

氏ハ本問題ハ既ニ十一月ノ休戰條約ニ依リ主義上決定シ居リ本日ハ唯之カ實行ノ問題ヲ殘スノミト述ヘタルニ

(ニ) 「フォツシユ」元帥

何分實際ノ問題トシテ獨逸兵ヲ前記地方ヨリ撤退セシメ且根據地ヲ「ダンチヒ」ニ設クルノ要アルノミナラス獨逸ハ我要求ニ應シ汽車ノ用達ヲ爲ササルヘシ要スルニ獨逸ノ或占領點ニ於テ自由交通ヲ得ルニ非サレハ波蘭兵ノ輸送ハ困難ナリト繰返セリ

(ホ) 「バルフォア」

然ラハ聯合軍ヨリ少數ノ兵ヲ出シ波蘭軍ト共ニ鐵道ヲ守備セハ實行可能ナリヤト尋ネタルニ

(ヘ) 「フォツシユ」元帥

ハ聯合軍派遣ノ場合ニ於テハ獨逸若シ之ニ反抗セハ西方ヨリノ壓迫ヲ招クノ虞アルヲ以テ獨逸ハ我要求ヲ應諾スルヤモ知レス波蘭兵ノミノ派遣ニテハ目的ヲ達シ得スト答ヘ

(ト) 「ハウス」

氏ハ本日ハ「ブリス」將軍不在ニ付自分ハ本問題ニ付意見ヲ述フルヲ得ス何レ同將軍ノ意見ヲ徵スルコト・スヘク尤輸送問題ニ關シテハ當該委員トノ相談ヲ要スルモ出來得レハ明日迄ニ何分ノ意見ヲ纏ムル様試ムヘシト述ヘタリ

○講和ニ關スル一月二十九日第二十九次打合會

一、日 時 二月二十五日自午後三時

一、議 題

甲、舊塊國公債利子支拂ノ件

伊國「クレスビー」氏ハ財政委員會ノ決議ヲ齎シ塊國ニハ現ニ二億八千萬「クローネ」ノ正貨アリ三月一日滿期ノ塊國公債利子ノ支拂ヲ爲スニ充分ナルヲ以テ二月二十四日ノ打合會ニ於テ陳述シタル通ノ趣旨ニテ聯合會議ヨリ維納ニ打電シ然ルヘキ旨ヲ述ヘ其ノ提議採用セラル

乙、在佛波蘭兵ヲ波蘭ニ派遣スルノ件

(イ) 「ウエーガン」將軍 實行方面ノ説明トシテ現ニ佛國ニ約四箇師團ノ波蘭兵アリ送兵ノ爲運送船二十隻十萬噸ヲ以テセハ三個月ニ十七隻ヲ以テセハ二箇月ヲ要スヘク先方ニ軍馬アラハ送兵餘程容易ナルヘシト説キタルニ

(ロ) 「ビション」氏 本件實行問題ノ攻克モ然ルコトナカラ先ツ送兵ニ關スル主義上ノ問題ヲ決スルノ要アリト述ヘ

(ハ) 「フォツシユ」元帥 亦之ニ贊同シ根據ナクシテ露國ニ兵ヲ送リ失敗シタルコトハ已ニ歴史ノ證明スル處ナルカ
今日トテモ同様ニシテ其上一方ニハ「ボルシエウヰキ」ニ對抗スルノ必要モアルヘキニ付成ルヘク附近ノ地方ニテ例
ヘハ芬蘭人波蘭人羅馬尼人等ヲ糾合シ訓練足ラサルモ相當數ノ兵員ニ武器ヲ給スレハ先ツ相當ノ效果ヲ收メ得ヘク
一方聯合側ノ對獨方針ハ西方諸問題ノ解決ヲ第一トシ西方ニ於ル國境確定償金問題ノ解決ト講和豫備條項ヲ確定シ
然ル後初メテ東方問題ニ及フヲ適當ト爲スヘシ今日ニ於テ聯合側ノ波蘭派兵ノ如キハ多額ノ出費ヲ要スルノミナラ
ス國民亦多ク之ヲ喜ハサルヘシト述ヘタルニ

(二) 「バルフォア」氏 ハ今直チニ西方問題ヲ決スルハ極メテ困難ナルノミナラス露國方面ニ於テ兵力ヲ糾合シ「ボ
ルシエウヰキ」ニ對抗スルコトハ自ラ今日ノ問題トハ別ナルヘシト云ヒ

(ホ) 數次應答ノ末結局「フォツシユ」元帥ヨリ一應獨逸ニ對シ西方ヨリノ派兵ニ關シ獨逸ヲシテ鐵道交通等ニ關シ便
宜ヲ與フルコトヲ要求スルコトニ決定セラル

丙、摩洛哥問題討議

(イ) 佛國委員「ペレツチード、ロツカ」ノ「アルゼシラス」條約等破棄要求

氏ハ「アルゼシラス」條約「コンゴー」一部ト摩洛哥ノ利權交換等摩洛哥ニ關スル佛獨關係ノ來歷並摩洛哥ニ關シ獨逸
カ或ハ列國會議ヲ開催セシメ或ハ西班牙國内ニ於テ對佛土人ノ叛亂(レヴォルト)ヲ煽動セルコト等ヲ述ヘタル後
將來同地方ニ於ケル獨逸ノ僭稱的主張(ブレタントンション)ヲ差止メ摩洛哥ノ國務ニ干渉スルコトヲ許サ・ル様充分
ノ保障ヲ得ムカ爲メ「アルゼシラス」條約其他關係條約ヲ破棄スルノ要アリ佛國ハ是カ爲メ敢テ摩洛哥ノ利權ヲ獨占
セムトスルモノニ非スシテ其ノ門戶ヲ開放シ各國ノ機會均等ヲ認ムヘキニ付列國ニ於テモ敢テ異存無カルヘキヲ信
スト述ヘタルニ

(ロ) 米「ヘンリー、ホワイト」ノ賛成

氏ハ「アルゼシラス」條約調印者ノ一人トシテ佛國ノ主張ヲ承認シ米國トシテハ利害關係モ少ク門戶開放ノ保障アラ
ハ何等異議ヲ述フヘキ所無シト云ヒ

(ハ) 英「バルフォア」

氏モ亦英國ノ關スル限り何等異議ノ餘地無キモ「アルゼシラス」條約ニハ現交戰國以外ノ小國モ加入シ居リ本會議ニ
於テ之カ廢棄ヲ實行シ得ヘキヤ否ヤ殊ニ西班牙ハ本件ニ關シ重大ノ利害ヲ有スルノミナラス佛西兩國間ノ條約モア
リ旁々詳細ニ審議ノ要アルヘシト述ヘタルニ

(ニ) 佛「ペレツチード」氏亦之ヲ是認シ尙二三應答ノ末

(ホ) 本問題ニ關シ決議案作成ノ上更ニ會議ニ附スルコト、ナシ散會

○ 請和ニ關スル一月二十六日第三十次打合會

一、日 時 二月二十六日自午後三時至同六時

甲、波蘭獨逸間國境調查委員會設置

波蘭ト獨逸トノ國境問題ニ關シ「バルフォア」氏ハ之ヲ調查委員會設置ニ關スル一案ヲ提出シ會議ノ採用スル處トナル

乙、白耳義問題委員會ノ權限質問

(イ) 「タルヂュ」氏(同委員會長)ノ質問
白國カ其ノ要求スル「エスコウ」「リンブルグ」等ノ蘭領ヲ與ヘラルルコトアル場合其ノ代價地トシテ指示セル「ゲル
デルン」「フリーズランド」ニ關シ委員會ハ之ニ對スル蘭國ノ意図ヲ徵セムト欲スルモ是レ委員會ノ權限ヲ超越スル

ノ感アリ又委員會ハ本問題ニ關シ如何ナル程度迄調査スルノ權限ヲ有スルヤモ不明ナルニ付此等ノ點ニ關スル五國會議ノ意見ヲ聽カムコトヲ希望ス

(ロ) 「バルフオア」答辯

吾人ハ中立國領土ヲ他國ニ與フルコトヲ決スルヲ得サルノミナラス又其ノ代償地ヲモ決定スルコトヲ得ス代償地ノ可否ハニ蘭國ノ決定スヘキ處然カモ其ノ土地タルヤ獨國領域内ニ在リ頭日在英蘭國公使本國政府ノ命ニ依リテ巴里ニ來リ余ニ面會シ會議ニ於テ白耳義ノ主張アリトノコトナルカ蘭國トシテハ假令寸土ト雖之カ讓渡ニハ斷然反對セサルヘカラスト述ヘタルニ付余ハ會議ニ於テ蘭國ニ諮ルコトナクスル決定ニ出ツルコトナキハ勿論ナリト答へ置キタリ

(バ) 「ビション」答辯

余モ亦在佛蘭國公使ヨリ同様ノコトヲ聞キ又同様ノ趣意ヲ以テ蘭白間ノ問題ヲ會議ニ於テ擅ニ決定スル筈ナシト答へ置キタリ

(ニ) 「タルデュ」

然ラハ委員會トシテハ其ノ有スル材料ニ依リ調査ノ步ヲ進ムルノ外ナシト云ヒ

(ホ) 結局

只タ本委員會ノ所持スル材料ニヨリ兎モ角調査ヲ續行シ何等カ有益ノ材料アラハ之ヲ五國會議ニ報告スヘキコトニ決セラル

丙、羅馬尼洪牙利間中立地帶設置ノ件

「トランシルバニア」ニ於ケル「ルーマニア」人ト洪牙利人トノ衝突ヲ避ケムカ爲ニ一定ノ中立地帶ヲ設クルノ件（二月廿一日講和打合會參照）ニ付之ヲ「ベルサイユ」軍事委員會ニ諮ル處アリシカ同委員會ヨリ右中立地帶ヲ設ケ活動地帶

ノ秩序靜ヲ維持スル爲メ聯合軍ヨリ約二個大隊ノ兵ヲ送リ其ノ重要地點ヲ占領セシムルノ適當ナルコトヲ報告シ來リ其通リ採用セラル（中立地帶ノ名稱略ス）

丁、「アルメニア」ノ要求聽取（同委員陳述）

(イ) 國情陳述

(一) 「アルメニア」カ戰爭前ヨリ長ク士國ノ虐政ニ苦シミ戰爭中一層其虐殺ヲ受ケタルコト

(二) 「アルメニア」人ニシテ自ラ進ンテ露國兵ト共ニ土耳古ト戰ヒシモノ其ノ數十八萬ヲ超ユル處其目的ハ專ラ

「アルメニア」ノ獨立ヲ計ルニ在リシコト

(三) 「ケレンスキ」氏政權ヲ取ルヤ「アルメニア」ハ其ノ同情ヲ得シモ不幸露國崩壊シテ「ブレスト、リトウスク」條約トナリ露領高架索地方ヲ土耳其ニ與ヘタルモノアリシカ「アルメニア」人ハ之ニ屈セス兵ヲ養ヒ自ラ軍資ヲ調達シテ聯合軍ヲ助ケ「バレスターイン」ニ戰ヒ或ハ在「チフリス」（高架索ノ都市）佛國領事ヲ通シテ聯合軍ノ援助ヲ求メ其獨立ヲ承認セラレムカ爲メ手當ヲ盡シ歐洲各國ノ同情ヲ仰キ（脱）續シ來レルコト

(四) 其間「タタール」族ヲ初メ附近民族ノ怨ヲ買ヒ其ノ攻撃ヲ受ケ又「ボルセウヰキ」ノ攻撃ニ遇ヒシモノ之ヲ善ク排除シ今日ニ至ル迄冤モ角「アルメニア」ハ其ノ領土及秩序ヲ維持シ來リ聯合軍ノ勝利ト共ニ事實上土耳其ノ虐政ヲ脱スルニ至レルコト

(五) 「アルメニア」ハ總人口約四百萬内土耳其ニ虐殺セラレタルモノノ數約百萬ヲ算シ凡ソ一國ノ獨立ノ爲戰ヒシモノノ中「アルメニア」程比較的大ナル犠牲ヲ拂ヒシモノナキコト等ヲ述べ

(ロ) 要求

而シテ此際「アルメニア」ノ獨立ヲ承認シ講和會議ニ參列ヲ許サレムコトヲ求メシカ要スルニ同委員ノ目的トスル處

八

- (一) 今ヤ既成事實タル土國虐政ヨリノ離脱ヲ全ウスルコト
- (二) 聯合國共同保護ノ下ニ獨立スルコト但共同保護トハ所謂政治上ノ干渉ヲ意味スルモノニ非シテ外部ヨリノ侵略ニ對スル保護ヲ意味スルコト

- (三) 國際聯盟ニ依リ「アルメニア」ヲ盟聯一國タル(受任統治國)ノ下ニ置クヘシトノ說ハ「アルメニア」ノ歡迎スル所ナルコト

ノ三點ニ歸スル旨ヲ述ヘ

(八) 領域

其ノ領域トシテ北東「アルメニアコウカサス」及黒海沿岸ヨリ南西「タツリスアルメニア」地方ヲ追ウテ「アレキサンドレツト」灣及「アダナ」地方ニ至ル不等邊長方形ヲナス一帶ノ地方ヲ要求シ此ノ邊一帶ハ「アルメニア」人居住地方ニシテ天然ノ地形一體ヲ爲シ不可分ノ物タルコトヲ指摘シ此ノ理由ヲ以テ右「アレキサンドレツト」灣及「アダナ」地方ニ對スル「シリア」ノ主張ノ不當ナルコトヲ說ケリ

○講和ニ關スル二月二十七日第三十二次會合

一、日 時 二月二十七日自午後三時至同五時

一、議題

甲、敵國々境確定委員會設置

米國全權ノ提議ニ依リ敵國々境確定ニ關スル事務促進ノ爲メ一委員會ヲ設ケ五大國ハ左記綱領ヲ參考トシテ各一名ノ

委員ヲ任命スヘキコトニ決議セラレタリ

イ、既ニ任命セラレ若クハ今後任命セラルヘキ領土ニ關スル各委員會ノ提議ヲ基礎トセル國境ヲ確立シテ之ヲ五國會議ノ考査ニ附スルコト

ロ、未タ何レノ委員會ノ範圍ニモ屬セサル敵國々境ノ各部分ニ付提案スルコト但シ利害關係國カ始々ヨリ五國會議ノ討議ニ留保セムトスルカ如キ國境問題ハ之ヲ除外ス

乙、猶太民族協會(「ザイオニスト」協會)ノ希望聽取

〔ナーム・ソコロウ〕 Nahm Sokolow

希望陳述者〔「オハイム・ウアイツ・ヴァン」 Ohaim Weizmann 〕 「ザイオニスト」協會代表者

〔アンドレ・スピル〕 Andre Spir

佛國「ザイオニスト」協會代表者

(イ) 一般的事項

猶太民族カ暴力ニ依リテ「バレスタイン」ヲ迫ハレタル歴史ヲ述ヘタル後現在世界各地ニ散在セル猶太人ハ其數一千四百萬ヲ超ヘ居ル處彼等ハ到ル處侮蔑ト迫害トヲ以テ迎ヘラレ就中露西亞及中歐帝國ニ在住スルモノハ最憐憫スキ狀態ニ在リ而モ彼等ハ何レノ甘カ「バレスタイン」ニ歸還シテ故國ノ再興ヲ見ムトスルノ希望ハ常ニ之ヲ失ハス今ヤ國土ノ大部分ハ荒廢ニ歸シ以テ直チニ散在セル猶太人全部ヲ歸還セシムル能ハスト雖先ツ基礎強固ニシテ開明的ナル政府ヲ樹立シテ年々五六萬宛ノ國民ヲ送還シテ國土開發ニ當ラシメ以テ猶太民族百年ノ(脫)ス故ニ茲ニ講和會議ノ決議考量ヲ得タキハ

- (一) 締約國ニ於テ「バレスタイン」ニ對スル猶太民族ノ歴史的權限並故國再建ノ權利ヲ承認セラレタキコト

- (二) 「バレスタイン」ノ統治權ハ之ヲ國際聯盟ニ委ネ英國ハ聯盟ノ受任國(Mandatory)トシテ之ヲ統治スルコト

- (三) 受任國ノ權限ハ別ニ規定セラルヘキモ「バレスタイン」ハ畢竟猶太國ノ建設而シテ自治共和政府ノ樹立ヲ確

保シ得ヘキ政治行政及經濟上ノ條件ノ下ニ置カルヘク從テ現ニ「バレスタイン」ニ存在スル猶太人以外ノ部落ノ軍事上並政治上ノ權利又ハ「バレスタイン」以外在住ノ猶太人既得ノ政治上ノ權利ヲ妨害スルカ如キ何等ノ措置ヲ採ラサルコト

(四) 受任國ハ猶太人ノ「バレスタイン」移住ヲ獎勵スルコト

(五) 受任國ハ上記措置ヲ採ルニ當リテハ「バレスタイン」及世界ニ於ケル猶太人ノ代表者會議ノ協力ヲ受クルコト

(六) 受任國ハ右代表者會議ノ私利ヲ營ムモノニ非サルコトヲ認メタルトキハ公共自治又ハ富源開發ニ對シ同會議ニ優先權ヲ與フルコト

(七) 受任國ハ地方ノ狀勢ニ從ヒ完全ナル自治制ヲ助成スルコト

等ノ諸點ニシテ

(ロ) 領域

右「バレスタイン」ノ境界ハ
北ハ「シドン」(Sidon)ノ南方地中海ノ一點ヨリ發シ「レバノン」(Lebanon)山麓ノ分水嶺ニ沿ウテ「ジスル、エル、カラーン」(Jisr el Karan)コハ「エル、ビ」(El Bire)ニ至リ更ニ「ワヂ、エル、コー」(Wadi el Korn)及「ワヂ、エル、ラース」(Wadi el Teise (Tayn ハ誤ナラム))ニ流域ノ境界線ニ沿ヒ南ニ向ヒテ「ヘルモン」(Hermon)東西斜面ノ分界線ニ說ヒテ「ベート・ラム」(Beit Jemm)ノ南ニ達シ更ニ東シテ「ヘヂアズ」(Hedjaz)鐵道ノ西、之ニ近接シテ「ナール、ムガミナ」(Nahr Mughaminae (Mughamniyeh ノ誤ナラム))ノ北方分水線ニ依リ
東ハ「ヘヂアズ」(Hedjaz)鐵道ノ西之ニ近接シテ「アカバ」(Gulf of Akaba)ニ終ル一線ニヨリ
南ハ埃及政府ト協定済ノ國境ニ依リ

西ハ地中海ヲ以テ限ル

但シ詳細ハ特別委員ニ依テ決定セラルヘキヲ説明シ

(ハ) 右猶太人ノ希望ハ既ニ英佛兩國政府ニ於テハ承認セラレタル處ナルニ依リ講和會議ニ於テ他ノ列強モ之ヲ承認セラレムコトヲ切望スル旨附言シタリ

(ニ) 佛國學者「シリバン、レビー」氏ノ主張

氏ハ右「ザイオニスト」協會代表者ト同趣旨ノ說ヲ述ヘテ前者ノ言ニ裏書シタルカ同氏ハ特ニ「バレスタイン」ニ於ル猶太人移民ニ付最モ功勞アリタルハ「ロスチャイルド」男ニシテ同男カ何等政治上ノ目的ヲ有セス單ニ慈善的ニ該移民事業ニ費シタル私財莫大ナルモノアリ其ノ殖民地ノ數モ亦今日甚タ多キコトヲ力説シ敢テ「バレスタイン」ヲ英國ノ保護ノ下ニ置クニ反對スルニ非ナルモ佛國モ亦之ニ容縫シ得可キ因縁アルノ意ヲ示シタリ

○波蘭委員會第一次會合

(註) 二月十二日ノ五國會議ニ於テ波蘭事情調査ノ爲五國ヨリ一名ツツノ委員ヲ以テ委員會ヲ組織スルニ
決シ各國ノ委員左ノ如ク決定シタリ

日 落 合

米	「ボーナム」(Bowman)
英	「サー、ティレン」(Sir Tyrell)
佛	「ジュール、カンボン」(Jules Cambon)
伊	侯爵 (氏名不明)

一、日 時 二月二十日

一、議 長 「カンボン」

一、内 容 在佛波蘭師團送還ノ件

波蘭事情調査ノ爲「フルソー」ニ派遣セラレタル委員ヨリ四通ノ需報達シ之ニ付五國會議ヨリ意見ヲ徵セラレタリ該電報ニ於テ派遣委員長「ヌーランス」ハ目下佛國ニ留マリ「ハレンノ」將軍 (General Halleno) 指揮下ニアル波蘭師團ヲ速ニ波蘭ニ送ルシトノ意見ヲ申來リタルコト及ヒ波蘭人ト「ルユーティ」人ト「ガリシア」ニ於テ爭鬭シ之ニ付争鬭ヲ止メシムル為取リタル措置ニ付報告シ來リタリト述ヘ調査委員會ハ之ニ付討議ノ上在佛波蘭師團ヲ波蘭ニ置クヲ可トスルコト其上陸地點ハ「ダンツィヒ」ノ外ナク輸送線路ハ同地ヨリ「トラン」及「ムラバ」ニ至ル鐵道ニテ此線路安全ヲ保障スル必要アルコト等ヲ決議セリ而シテ右ハ二十四日ノ五國會議ニ報告セラレタリ

○波蘭問題委員會第一次會合

一、日 時 二月二十四日(五國會議ニ報告ノ爲委員ノ集マリタルヲ利用シテ會合)

一、内 容

(一) 委員長「カンボン」氏ノ報告

イ、波蘭政府承認ノ件

本件ハ英米伊トモ之ヲ行ヒ佛國モ最近「ワルグテル」委員長ニ電訓シテ承認ノ旨波蘭政府ニ通セシメタリ
ロ、「チエツク」ノ「テツシエン」撤退ノ件

「チエツク」人ハ「テツシエン」ヨリ撤退スヘキ旨五國會議ニテ決定シタルニ拘ラス之ヲ實行セサル爲メ困難ヲ生シ且
現場ニ來リタル下級官吏カ訓令範園ヲ超エ右ノ決定ヲ問題ト爲サムトスルモノノ如クナルニ付聯合國委員ハ之ヲ注
意シタルコト

ハ、獨逸ニ關スル分

一、獨逸ハ休戰條約ニ違反シ「ボーゼン」地方ノ波蘭國境ニ毎日攻撃ヲ行フコト及右ニ關シ波蘭政府ノ抗議シタル旨
報告シ來リタルコト

二、在柏林「デュボント」(DuPont)將軍ヨリ獨逸ト露國「ボルシウヰキ」ハ波蘭ニ反對シテ相互ノ間益々密接ナル意思

疏通行ハレ居ルコト及「ヴィースチユラ」地方ノ波蘭人ニ對シ獨逸政府カ亂暴ナル措置ヲ執レル旨電報アリタルコト

(二) 「ウクライナ」人妨害事件

「ウクライナ」人カ「レンベルグ」ヲ攻撃シ現場ニ派遣セラレタル(脱)委員ノ目的到着ヲ妨害シタルコトニ關シテハ
「ワルソー」ヨリノ確報ヲ俟チテ措置ヲ講スルコトニ決ス

附記 二月十五日本委員會委員一同ハ前日ニ引續キ報告ノ爲メ五國會議ニ出席シタリ

(二) 最高軍事會議

○二月十二日最高軍事會議

一、日 時 二月十二日自午前十時至午後六時

一、議 題 休職問題(午前ノ部)

一、休戦條約不履行問題ニ付委員會ノ報告

十日ノ最高軍事會議(同日ノ議題甲参照)ニ於テ決定セラレタル委員會ノ報告アリ次ノ如シ

(一) 獨逸ノ休戦條約不履行事實

イ、獨逸ハ休戦條約第三條ニ依リ同國軍ニ在ル「アルサス、ローレン」入ヲ歸國セシメサルコト

ロ、「ボーランド」ニ於ケル獨逸ノ行動ヲ見ルニ或バ「ヒンデルブルク」元帥指揮ノ下ニ「ケーニヒスベルヒ」「ボスナニー」方面ヘ重要ナル軍隊ヲ集中シ或ハ「ウクレーン」方面ヨリ歸國スル獨逸兵カ「ウイルナ」「ビンスク」方面ニ於テ「ボルシェウヰキ」ニ對スル「ボーランド」人ノ行動ヲ妨害スル等休戦條約第十二、十三、十四及十五條ニ對シ違反セルコト

ハ、休戦條約第十六條ニ違反シ「ボーランド」ノ補給ヲ許ササルコト

ニ、露國俘虜歸還ニスル一九一九年一月十六日ノ更新休戦條約第四條ヲ履行セサルコト

ホ、潜水艇二十二對スル乗組員ヲ供給セス或ハ潜水艇數隻ヲ引渡テシテ破壊スルコト或ハ潜水艇二十一ニ對スル曳船不足ヲ唱フル等右一月十六日ノ條約ニ背クコト

ヘ、人員輸送船ハ免モ角荷物船ハ多數引渡シ居ルニ付此點ハ條約違反ト認メ難シ

ト、財政ニ關スル一九一八年十二月十三日條約第二及第四項ヲ履行セサルコト

(二) 休戦條約履行強制方ニ關スル委員會ノ意見

イ、經濟手段トシテハ或ハ食料ノ補給ヲ差止メ又ハ遲延シ又ハ向後補給ヲナササルコトヲ豫告シ又ハ嚴重封鎖ヲ行フコト

但現在以上ニ封鎖ヲ有效ニ實行スルコトハ事實上困難ナルヘシ

ロ、軍事手段トシテハ獨逸ノ兵力ヲ東部戰線ニ五師團西部戰線ニ五師團南部ニ五師團及內部豫備トシテ十師團合計歩兵二十五師團ト騎兵五師團ニ制限シ凡テノ兵器ヲ制限シ之ヲ監視スルコト竝「ボーランド」ニ於テ「ドイツ」「ボーランド」兵ノ衝突ヲ避ケシメ「ダンチヒ」「トルン」鐵道ヲ占領スルコト

若シ獨逸ニシテ之ヲ承諾セサルトキハ休戦條約ハ破棄セラレ聯合軍ハ自由行動ヲ取ルコト

尙獨逸ヲシテ絶エス故障ヲ起ササラシムルタメ更ニ委員會ヲ設ケ陸海軍ニ關スル講和條項ヲ速ニ安定スヘシ

二、論議

○「バルフォア」

要スルニ問題ハ別レテ一トナル一ハ不履行ノ休戦條約條規ヲ如何ニシテ履行セシムヘキヤニ存ス他ハ休戦期間ノ更新ヲ如何ニスヘキヤノ大體問題ニ關ス即チ月ノ變更毎ニ逐次大局ニ關係ナキ新ナル小條件ヲ加ヘテ休戦期間ノ更新ヲ行フヲ可トスルカ或ハ一時ニ講和條約ノ軍事條項トモ成ルヘキモノヲ提出スルヲ可トスヘキカ大ニ考究ヲ要スヘキモノアリ

○「ウヰルソン」休戦無期限延長說

毎月更新毎ニ新ニ小條件ヲ提出シ之カ不履行ノ故ヲ以テ直チニ休戦條約ヲ破棄シ再ヒ戰端ヲ開クハ面白カラサルノミナラス更新毎ニ小條件ヲ議スルハ聯合國ノ威信ニ關ス寧ロ或ル期間休戦ヲ延長シ同時ニ軍事上ノ諸條項ヲ提出シ不承諾ノ場合始メテ休戦條約ヲ破棄シ再ヒ戰爭ニ移ルトモ何等不當ノコトナカルヘシ

○「クレマンソウ」反駁

抑モ講和條約ナルモノハ軍事經濟財政各般ノ條項相倚リ相援ケテ不可分ノ一體ヲ爲スモノナリ國際聯盟成立シ實際平和ノ保障セラレタル曉トモナラハ兎モ角今日講和條約ノ一部ヲ爲スヘキ軍事條約ヲ他ヨリ分離シテ豫メ決定セムトスルハ不可能ニ屬ス

又大局ニ關係ナキ小條件ト云フモ戰爭ノ慘害ニ苦シミタル佛國民ニ取リテハ重大事件ナリ例ヘハ獨逸カ北佛ノ家畜ヲ奪掠シタルニ對シ休戦條約(脱)ノ今日佛國農民カ獨境ヲ越エテ其牛馬ノ返還ヲ要求スルカ如キハ正當ナルヘク之レヲ講和ノ大局ヨリ云フモ正ニ理ノ當然ナリ

又右ノ如ク漸次小條件ヲ提出スルハ却テ獨國人ヲ刺戟スヘシトノ說アルモ而モ吾人ハ之レト見解ヲ異ニス獨人側ヨリ云ヘハ如斯會議遷延進行セサルカ如キ感アルハ聯合國間内部ノ不統一ニ因ルト考フルナラムモ而モ本會議今日迄ノ成績ハ十分ナリ

尙「ウヰルソン」氏ハ右ノ如ク漸次小條件ヲ要求スルハ聯合側ノ弱點ヲ示スモノト思考スルモ吾人ハ我要求ノ正當ナルヲ信シ之カ貫徹ニ當リテハ一步ノ讓歩スル所無キヲ期シ吾人ハ今日ニ至ル迄ノ休戦延長方法ヲ踏襲シテ支差無キニ非スヤ

獨逸ハ國民議會ヲ開キタリト云フモ其首腦ハ帝政當時同政府ノ機關トシテ活動セシ「エベルト」「シャイダマン」ニ非スヤ

「ウヰルソン」氏ハ休戦期間不定ノ延長ヲ唱フルモ英國ト云ヒ米國ト云ヒ復員ノ結果其兵員ハ漸次歸還シ而シヲ一方獨逸ノ態度ハ再ヒ傲慢ニ返リツツアリ此際講和條(脱)ニ休戦期間ヲ延長スルノミニテハ甚タ不安ナリ

(ク) 氏ハ右陳述ニ於テ滔々數千言語調激越屢々理想的夢想的精神的等ノ語ヲ用ヒ激シテ「ウヰルソン」氏ヲ諷刺セリ但シ通譯ハ大部分之等激烈ナル文字ヲ省略シタルヲ以テ「ウヰルソン」氏ノ受ケタル印象ハ左程痛切ナラサ

リシャモ知レスト雖免ニ角右「クレマンソウ」氏ノ論調ヨリ推スニ兩政治家ノ間單ニ言葉ノ行違ヒ以上何等ノ仔細アルニアラサルヤヲ思ハシメタリ)

○「バルフォア」ノ調停

「クレマンソウ」氏モ「ウヰルソン」氏モ其考ノ根本ニ於テ異ルニアラス又自身ハ曩ニ北佛農業者ノ家畜ニ關スル要求等ノ存スルコトヲ承知セス爲メニ此等ヲ小事項ト看做シタルカ如ク思ハシメタラムモ實ハ然ラス之等ハ當然回復要求條項中ノ一ヲ爲スモノナリ余ハ休戦更新問題ニ關シ自身一案ヲ卿セム但シ時間不足ニ付之ヲ午後ノ會議ニ諮ラムトス

休戦問題（午後ノ部）

(一) 論議

イ、「ウヰルソン」

午前ノ會議ニ於ケル「クレマンソウ」氏ノ所言ハ一々尤モナリ要スルニ「ウレマンソウ」氏ト言ニ「バルフォア」氏ト言ヒ自身ト言ヒ考ハ同一ナリシモ意見ノ疏通不充分ナリ自己ノ主旨トスル處ハ各國軍ノ存在スル間に出來得ルタケ軍事ニ關スル條項ヲ決定セムトスルニアリ思フニ此際聯合軍ハ獨逸兵力ヲ其ノ必要トスル限度ニ減少セムコトヲ要求スルノ權利アルヘシ凡ソ兵力ヲ備フルハ一方國內ノ安全ヲ保持シ他方國際的ノ義務ヲ充タスカ爲メノ二目的ニ出ツルモノナルカ之ヲ獨國ニ微スルニ第一國內ノ安全ノ爲ニハ其ノ兵力ヲ養フノ權利アラムモ第二ノ目的ノ爲ニハ其ノ權利アルコトナシ既ニ獨國ニ於テ軍事上ノ要求事項ニ就テハ陸海軍ニ對シ其ノ研究ヲ重ネ大凡右條項成リ居レルモ今直ニ之ヲ決定スルハ餘リニ早計タルヲ免レス但シ可成短期間ニ之ヲ決定シ獨國ヲシテ之ヲ承服セシメ置クノ必要アリ若シ右ノ

措置ニ出ツルコトナク講和條約締結ノ時ニ當リテ聯合各國軍隊復員歸還セルニ獨軍却テ整備シ而シテ當方ノ要求ニ對シ同國ノ不承服ヲ來サムカ真ニ由々敷大事ナリ宜シク今日ヨリシテ我軍事條項ヲ決定シ置クノ要アリ

ロ、「クレマンソウ」

「ウヰルソン」氏ノ所言ハ至極尤モナルモ右軍事條項ノ決定ニ要スヘキ所謂長カラサル期限ニ關シ「ウヰルソン」氏ハ不日出發歸米スヘク休戦條約更新ノ時期ハ四五日ノ間ニ迫レリ其ノ間ニ之ヲ決定スルハ甚タ困難ナリ

ハ、「ウヰルソン」

元ヨリ今直ニ之ヲ決定スルハ困難ナルヘント雖モ「ハウス」氏自分ニ代リ尙其ノ他ニ當局者ノ殘留セルアリ其レト十分ノ研究ヲ重ネテ然ル可キニ非スヤ自分ハ歸米後三月四日迄ハ是非滯在セサルヘカラサレトモ其ノ以後ハ爾餘ノ重大事件起ラサル限り翌日ニモ出發シ得ヘク從テ三月十四五日ニハ歸佛スルヲ得ヘキナリ重要事件ヲ前ニシタル此ノ際自分ハ可成速ニ歸佛セムコトヲ欲スルモノナリ

ニ、「オルランド」

陸軍當局ノ意見ニ依レハ獨（不明）間ノ安全ヲ保持スルニハ二十五師團ノ兵數ヲ要スト言フモ之レ伊國戰前ノ兵數ニ當ル之等ハ果シテ意ヲ安ンスヘキコトナリヤ

ホ、「ソンニノ」

二十五師團ノ兵數ヲ如何ニシテ監視セムトスルカ

ヘ、「ウヰルソン」

此等ハ結局軍事専門家ノ管掌ニ非スヤ今日吾人ノ決定スヘキハ休戦期間ヲ從來ノ如ク一箇月毎ニ延長スルカ將又或ル不定期間之ヲ延長シ同時ニ軍事條項ヲ提出シ不承服ノ場合再戦ノ舉ニ出ツヘキヤニ在リ但シ軍事條項中陸軍ノ二十五師團問題ト言ヒ海軍ノ「キール」監視問題ト云ヒ自分ハ未タ委員會ノ報告ヲ熟讀セサルモ此等ノ問題ハ咄嗟ノ間ニ決

定シ得ヘキニ非ス

ト、引續キ二三ノ討議アリ

(二) 決定

イ、波蘭ニ於ケル獨逸兵ト波蘭兵トノ衝突問題ハ當面ノ重大事ナルヲ以テ本件ハ休戦條約更新ノ際「フォツシユ」元帥ニ於テ獨逸ヲシテ波蘭ニ對シ攻勢ヲ執ルヘカラナルコトヲ約セシム

ロ、獨逸トノ休戦條約ハ短期間更新ス但シ同期間ハ聯合軍ニ於テ三日ノ豫告期間ヲ以テ終了スルコトヲ得

ハ、陸海軍並ニ航空隊ニ關スル條件ニ付テハ「フォツシユ」元帥主宰ノ下ニ在ル委員會ヲシテ詳細之ヲ調査セシメ其ノ結果ヲ最高軍事會議ニ提出セシメ同會議承認ノ上ハ之ヲ獨逸ニ提示シテ之ニ調印セシム而シテ同時ニ此態度カ即チ聯合軍ノ政策ナルコトヲ獨逸ニ通告ス

ニ、此等ノ豫備條件調印セラレタル上ハ獨逸ニ一定量ノ食物工業原料ノ輸入ヲ許可スヘシ但シ聯合國ハ此等ノ供給ニ付キ優先權ヲ有スルニ顧ミ將又獨逸カ殊更聯合國工業ニ損害ヲ加ヘタル事實ニ鑑ミ適當ト思考スル分量ヲ與フルコシムルコトトシ該委員ハ直ニ事務ニ著手ス

ホ、右分量ニ付テハ經濟評議會ヲシテ之ヲ調査報告セシム

(三) 實行委員ノ任命

以上諸項決定ノ後午後五時「フォツシユ」將軍始々各國司令官ヲ會議室ニ招キ右(一)ノ「イ」乃至「ハ」ニ至ル迄ノ決定ヲ語リ二三質問ノ末此等條項ノ實行ニ付早速委員ノ任命ヲ遂ケ日本ヨリハ竹下奈良兩中將及永井大佐ヲ同委員ニ加ハラシムルコトトシ該委員ハ直ニ事務ニ著手ス

(二) 國際聯盟委員會及聯合與國總會議

○國際聯盟委員會

甲、委任統治ノ條項修正(牧野男提議)

二月八日「クリヨン」會合ニ於テ「ウヰルソン」提出ノ聯盟案第十七條(講和調書其二第三〇頁參照)ヲ後揭第十九條(本調書第六七頁參照)ノ通修正シタル處當日英國委員ノ提出シタル案ニハ右第十九條第六項中 *as integral portions* (構成部分トシテ) *as* *if* *integral portions* (恰モ構成部分ノ如クニ)ト爲セルニ付牧野全權ヨリ五國會議ニ於テ討議セル案文中ニハ「ノ文字ナク從テ聯盟委員會ニ於テ索リニ斯ノ如キ文字ヲ插入スヘキ筋合ニ非スト抗議セリ之ニ對シ「ウヰルソン」大統領ハ「ヲ加ヘサルトキハ單純ナル併合(Annexation)ト區別スルコトヲ得ナルニ非ヤト述ヘタルヲ以テ牧野全權ハ更ニ委任(Mandate)ニハ一定ノ條件ヲ附スルノミナラス受任國(Mandatory state)ハ毎年報告ヲ爲ス義務アリテ單純ナル併合ノ場合ト全然同一ニ非ス加之五國會議ニ於ル委任統治ニ關スル規定ハ一種ノ妥協ニ依リ成立セルモノニシテ其ノ後委員會ニ於テ變更シ得ヘキモノニ非スト述ヘ英國委員ニ同意ヲ表シ大統領モ遂ニ「ノ文字ヲ削ルコトトナリタリ右ニ付英國委員「スマット」將軍ノ牧野全權ニ對スル祕密ソ内話ニ依レハ英國委員ハ五國會議定案ヲ其ノ儘插入スル積リナリシニ大統領ハ特ニ「(恰モ一ノ如クニ)ヲ加ヘムコトヲ主張シタル結果同文字ヲ加ヘタル修正案ヲ提出スルニ至リタル趣ナリ

乙、人種的差別撤廢交渉經過(附宗教ニ關スル規定削除)

國際聯盟ニ付具體的提案成立スヘキ形勢ヲ見ルニ至ラハ人種的偏見ヨリ生スルコト有ルヘキ帝國ノ不利ヲ除去セムカ爲事情ノ許ス限り適當ナル保障ノ方法ヲ講スルニ努ムヘキ旨豫テ訓令ノ次第アリタル處(講和ニ對スル方針)中米國大統

領ノ發案ニ係ル講和諸條件ニ關スル件、大正七年十一月十九日外交調査會決定參照) 右ノ如キ提案成立スルノ形勢トナリタルヲ以テ帝國全權委員ハ該保障ヲ得ヘキ方法ニ付熟慮ノ上左ノ通列國ト内交渉スル所アリタリ

一、米英トノ内交渉

(イ) 米國ノ好意

本問題ニ付テハ先ツ英米側ト内談ヲ遂ケ置クヲ必要ト認メタル處我希望ノ貫徹ニ故障トナルヘキハ主トシテ米國側ニ在ルヘキハ問題ノ性質上推斷ニ難カラサルヲ以テ帝國領權委員ハ先ツ米國委員ト妥協ヲ遂クルノ必要ヲ感シ此目的ノ爲ニハ成ル可ク速ニ「ハウス」大佐ト談合スルヲ最モ有效ト認メタルモ同氏病餘休養中ナリシ爲止ムヲ得ス珍田委員ハ牧野委員ノ旨ヲ受ケ單ニ瀕踏ノ目的ヲ以テ千九百十九年一月二十六日國務卿(「ランシング」氏)ヲ往訪シ國際聯盟ニ關スル我態度ヲ抽象的ニ說示シ米國側ノ意図探知ヲ試ミタルニ同卿ノ應答ハ極メテ首肯的ナリシモ實際ニ瓦リ何等捕捉スヘキ點ヲ示ス不得要領ニ終リタルカ唯會談中國國際聯盟問題ニ關シ大統領ニ於テハ貴下ト會見ヲ希望シ居レリ云々ト申述ヘタルニ付何時ニテモ參趨スヘキ旨答へ置キタリ翻テ一月二十二日講和打合會ニ於ケル大統領ノ態度(大統領カ日本ハ十四ヶ條ヲ承諾シ休戰會議ノ基礎トスルニ同意セルニ非スヤト述ヘタルコト、同日ノ議題國際聯盟問題參照) ト右希望トヲ綜合スルトキハ大統領ニ於テ右問題ニ關シ我態度ニ尠カラス不安ヲ懷キ何トカ妥協ノ途ヲ講セムトスルノ底意ヲ有スルニ非スヤト想像スヘキ節無キニ非ナルカ故ニ我講和委員等ハ益々對米内交渉ノ必要及得策ヲ感スルニ至レリ然ルニ爾後大統領ハ劇務ニ忙殺サレ居ル模様ニテ會見ノ時日ヲ指定シ來ラサルヲ以テ「一月二日牧野珍田兩全權ハ「ハウス」大佐ヲ往訪シ先ツ大體ニ於テ本問題ニ對スル我態度ヲ說示シタルニ意外ニモ同大佐ハ頗ル同情的所見ヲ披瀝シ依然トシテ大正七年七月頃石井大使ト會見當時ノ態度(本項末尾參照)ヲ持續シ居ルコト明瞭トナリタルヲ以テ帝國委員側ニ於テモ政府訓令ノ要領ヲ内詰シ妥協ノ爲一月四日試ニ甲乙兩案中左記甲案ヲ提出セリ

Equality of nations being a basic principle of the League, the High Contracting Parties agree that concerning to treatments and rights to be accorded to aliens in their territories, they will not discriminate, either in law or in fact, against any person or persons, on account of his or their race or nationality.

(譯文、各國民均等ノ主義ハ聯盟ノ基本的綱領ナルニ依リ締約國ハ其ノ領域内ニ在外國人ニ附與ベキ待遇及權利ニ關シテハ法律上並事實上何人ニ對シテモ人種或ハ國籍如何ニ依リ差別ヲ設ケナムトヲ約ベ)

然ルニ大佐ハ之ニ對シテハ「一體ノ下ニ反對シタルヲ以テ更ニ左記乙案ヲ提出シタリ

Equality of nations being a basic principle of the League of Nations, the High Contracting Parties agree that concerning the treatment of aliens in their territories, they will accord them as far as it lies in their legitimate powers equal treatment and rights in law and in fact without making distinctions on account of race or nationality.

(譯文、各國民均等ノ主義ハ國際聯盟ノ基本的綱領ナルニ依リ締約國ハ各自其ノ領域ニ於ケル外國人ニ對シ法律上並事實上正當權力内ニ於テ爲シ得ル限り均等ノ待遇及權利ヲ與ヘ人種或ハ國籍如何ニ依リ差別ヲ設ケナムトヲ約ス)

然ルニ該案ニ對シテハ大佐ハ唯一個ノ私見トシテ贊成ノ言ヲ表シタルノ「ナラス大統領ニ於テモ同意ヲ表スルナラン我方ノ希望ノ如何ニ依リテハ是ヲ大統領ノ提案トシテ委員會ニ提出ベルモ可ナリトノ意見ヲ附言シタリ右提出方法ハ自ラ得失アル問題ナルモ結局提案ノ通過ヲ計ルノ見地ヨリスルトキハ之ヲ利用スルコト得策ナリト認メランタルヲ以テ帝國委員等ハ同大佐ノ提言ニ同意シ其ノ配慮ヲ依頼シタリ

翌五日ニ至リ「ハウス」大佐ハ大統領ト協議ノ結果右案文中“as far as it lies in their legitimate powers”(正當權力内ニ於テ爲シ得ル限り)トアルテ “as soon and as far as practicable”(成ル可ク速ニ且ツ出來得ル限り)ト大統領

自身改竄ヲ加ヘ之ヲ國際聯盟規約中ニ挿入スルコトヲ大統領提案トスヘキコトニ異存ナシト言明シタル趣並ニ英國側ニ内交渉ヲ試ミタルニ意外ニモ大體ニ於テ不同意無キ旨ヲ述ヘタルモ右ハ卽座ノ答ナレハ或ハ熟慮ノ末反対ニ出ツルセモ計リ難シト語ラレタリ

(ロ) 英國ノ反対

從テ英國側ニ對シテハ我ヨリ直接ノ交渉ヲ避ケ先ツ英米間内談ノ結果ヲ俟シコトトシタルモ「レーヴニオン」ヨリノ反対アリタル爲ニヤ爾來英國側ノ反対追々其ノ鋒鋩ヲ顯ハスニ至リ「ハウス」大佐トモ協議ノ結果我ニ於テモ直接交渉ヲ試ムルノ必要ヲ認メ本問題ノ主任タル「セシル」卿並「バルフォア」氏ト累次會見ヲ遂ケ出來得ル限り提案ヲ軟化シテ切ニ其ノ互讓ヲ求メタルニ拘ラス何分我希望ニ應スルノ困難ヲ訴ヘタリ兩氏ノ應答ヲ約言スレハ個人トシテ充分我方ノ立場ヲ諒トスルモ問題頗ル重大ニシテ全然訓令ノ範圍ヲ超越スルノミナラス元來國際聯盟ノ規約ニ於テ信教ノ自由及ヒ人種ノ對等ト云フカ如キ問題ヲ規定スルハ頗ル妥當ヲ缺クノ措置ナリトノ意見ヲ固持シ(別電ニハ「人種問題ハ國際聯盟ト直接ノ關係ナク從テ之ニ關スル規定ハ聯盟ノ規約中ニ掲クヘキモノニアラストノ理由ヲ以テ我希望ニ應スルコトヲ肯セス」トアリ)加之「セシル」卿ノ如キハ斯ノ如キ重要問題ハ多數ヲ以テ決スヘキモノニ非ストノ意見ヲ把持セリ

二、國際聯盟委員會へ提議

(イ) 牧野男ノ提議陳述

形勢右ノ如クナルヲ以テ硬軟如何ニ拘ハラス本案ヲ通過セシメテ我希望ヲ貫徹スルコトノ困難ナルハ殆ト明瞭トナリタルモ成否ハ兎モ角此ノ際本問題ニ對スル我主張ヲ宣明スルコト將來ノ爲極メテ緊要ノ儀ト信セルヲ以テ前記大統領トノ協定案ニ修正ヲ加ヘタル上二月十三日午後ノ國際聯盟委員會ニ於テ國際聯盟案第二十一條(「ウヰルソン」)提出案第十九條カ其後訂正ヲ經テ第二十一條トナリシモノノノ規定即チ

The High Contracting Parties agree that they will not prohibit or interfere with free exercise of any creed of religion or belief whose practices are not inconsistent with public peace or public morals, and that person or persons within their respective jurisdiction shall not be molested in life, liberty or pursuit of happiness by reason of his adherence to any such creed of religion or belief.

(譯文、締約國ハ宗教上ノ信條或ハ信念ノ如何ヲ問バス其ノ進行ノ結果公共ノ平和及ヒ道徳ヲ亂ササル限り自由之ヲ實行スルコトヲ禁止シ又之ニ干渉ベルコトナク且ツ何人ト雖モ締約國各自法權範圍内ニ於テ宗教上ノ信條又ハ信念ヲ遂行セルカ爲其生命自由ノ安全或ハ幸福ノ追求ヲ妨ケサルコトヲ約ベ)

ノ次キニ

Equality of nations being a basic principle of the League of Nations, the High Contracting Parties agree to accord as soon as possible to all alien nationals of states, members of the League, equal and just treatment in every respect making no distinction either in law or in fact, on account of their race or nationality.

(譯文、各國民均等ノ主義ハ國際聯盟ノ基本的綱領ナルニ依リ締約國ハ成ルヘク速リ聯盟員タル國家ニ於ケル一切ノ外國人ニ對シ如何ナル點ニ付テモ均等公正ノ待遇ヲ與ヘ人種或ハ國籍如何ニ依リ法律上或ハ事實上何等差別ヲ設ケサルコトヲ約ス)

ノ一項ヲ加ヘムコトヲ提議シ牧野委員ヨリ次ノ如ク陳述シテ議案ノ通過ニ努メタリ

『余ノ茲ニ提議セムトスル附屬條項ハ正ニ第二十一條ノ規定中ニ包含セラルヘキモノト認ム從來人種上並ニ宗教上ノ怨恨カ屢々各國民間ノ紛糾並戰爭ノ原因トナリ往々痛嘆スヘキ極端ナル結果ヲ齎シタルコト史上其ノ例アシカラサルコトハ敢テ茲ニ多言ヲ要セス本條項ハ本案文ノ示ス通り國際關係ヨリ宗教的爭鬭ノ原因ヲ除去セムコトヲ期スルモノナルカ人種問題モ將來何時緊急且ツ危險ノ問題トナルヤモ計テ難キ常時ノ難問ナルニ付本規約中ニ本件處理

ニ關スル條項ヲ設ケラレムコトヲ希望ス宗教及ヒ人種問題ハ合シテ共ニ處理シ得ル問題ナリト認メラル、ニ付余ハ敢テ本條項ニ次ノ一節ヲ添加セムコトヲ欲ス

「各國民均等ノ主義ハ國際聯盟ノ基本的綱領ナルニ依リ締盟國ハ成ルヘク速ニ聯盟員タル國家ニ於ケル一切ノ外國人ニ對シ如何ナル點ニ付テモ均等公正ノ待遇ヲ與へ人種或ハ國籍ノ如何ニ依リ法律上或ハ事實上何等差別ヲ設ケサルコトヲ約ス」

(不明)法律上並ニ事實上人種間差別待遇ノ尙行ハレ居ルコトハ疑ハレサル事實ナリ茲ニハ單ニ斯ル事實ノ存在セルコトヲ陳述スレハ足レリ余ハ右附屬條項ニ包含セラレタル主義ハ實行上困難ナル事情少ナカラサルコトヲ知悉スト雖モ國民間ノ容易ナラサル誤解カ遂ニ制止シ得サル程度ニ達スルコトアルヘキコトニ重キヲ置キ慎重ニ考慮スル處アラムカ此等困難モ亦排除シ得サルコトナシト信ス依テ本件ハ目下ノ如キ機會ニ於テ之ヲ處理セラレムコトヲ希望ス

曩ニ不可能ト認メラレタルコトニシテ今ヤ已完ノ域ニ達セリ過去數代ニ亘リ世界ノ識者カ努力シテ尙完成シ得サリシ國際聯盟カ今日創設セラルカ如キ最モ顯著ナル例證ナリ該組織ニシテ本問題解決ノ途ヲ開キ得ムカ聯盟事業ノ範圍ハ愈々擴大セラレ現在ヨリ尙多數ノ世界人類ノ同情ヲ集ムルコトヲ得ヘシ

之ト同時ニ人種的偏見ノ問題ハ人類深刻ナル情緒ノ發動ニ基キ頗ル微妙ニシテ且複雜ナル問題ナルニ付最モ慎重ナル處理ヲ要スルコトハ之ヲ認メサルヲ得ス右ノ觀念ハ從來實際的見地ニ基キ何等尠却セナレザリシ處ニシテ必ラスシモ此際各國民均等待遇ニ關スル理想ノ即時實現ヲ提倡スルモノニ非ス右附加條項ハ單ニ均等主義ヲ闡明シ其實際運用ハ輿論ノ趨勢ヲ注視シテ怠ルコトナキ聯盟員タル國家ノ責任者ノ手ニ一任セムトス
本附加條項ハ云ハハ關係政府及ヒ人民ニ對シ本件ヲ一層精密ニ且ツ眞面目ニ審議シ今ヤ各國民間ニ於テ進退谷マレル本件解決上何等カ妥當ノ方法ヲ案出セムコトヲ懲懲スル案内狀ト認ムルヲ得ヘシ

今次戰爭ノ結果トシテ國民的並ニ民本的思潮ノ波ハ世界ノ邊隅ニ迄及ヒ各國民ノ熱望達成ニ對シ新タナル衝動力ヲ與ヘタリ右衝動力ニシテ世界的運動ノ一部トシテ更新セル力ヲ以テ發動スルコトアラムカ到底之ヲ抑壓スルコト能ハス從テ斯ル兆候ヲ輕視スルハ不謹慎ノ極ト云フヘシ此外尙多少本件ニ直接ノ關係ヲ有シ大ニ熟慮ニ價スル點ナキニ非ス將來國際聯盟員タル國家ハ各種人類ヲ包有シツノ大國民團ヲ構成スルコトトナリ或ル意味ニ於テハ攻撃或ハ戰爭ニ對スル世界的保險ノ組織ナリト云フヲ得ヘシ一聯盟員ノ獨立乃至政治的廉寧ニシテ第三國ノ爲危殆ニ瀕セシメラルコトアラムカ(脫)適當ノ地位ニ在ル國民ハ之ニ對シ武力ニ訴フルニ準備ナカルヘカラス尙ホ亦武力援助ヲ伴フ如キ共同責務ヲ負擔セサルヘカラサル場合モアリ
此等ハ實ニ重大ナル責務ニシテ聯盟員タル各國家ハ相互ニ其ノ能力ニ從ヒ同胞國民ノ爲メ此等責務ノ遂行ヲ誓ヒ且ツ之レカ遂行ノ準備ナカルヘカラス即チ各國市民ト共同ノ目的ノ爲ニハ各自軍費ヲ負擔シ必要アラハ身ヲ以テ他國民ヲ防衛スルノ覺悟ナカルヘカラス如斯聯盟加入ノ結果國民各自ニ對シ此等新規ノ義務發生スル次第ナルニ付キ國民各自ハ身ヲ以テ防衛セムトスル國民ト均等ノ立場ニ置カレムコトヲ欲シ且ツ之レヲ要求スル次第ナリ
今次戰爭ニ於テ各種ノ人種ハ共同ノ目的貫徹ノ爲メ戰場ニ暫滞ニ且ツハ公海ニ於テ協同戰鬪シ人種ノ差異ヲ論セス相助ケ不具廢疾者ニ援助ヲ與ヘ其ノ他ノ同胞ノ生命ヲ救助セルコト不尠其ノ結果生シ來レル同情感謝ノ念カ相互ノ連鎖ヲ堅メタルコトハ從來嘗テ見サル處ナリ
斯ノ如ク吾人ハ共同辛苦ノ後互ニ自由ヲ獲得セル次第ニ付キ此際少クトモ國民間ニ均等ノ主義ヲ認メ之レヲ以テ將來國際交通ノ基礎トナスコトハ正ニ公正ノコトナリト信ス」

(ロ) 論議(「ウヰルソン」大統領ハ五大國會議ニ出席ノ爲メ委員會ヲ缺席セリ)○

○議長英國委員「ロバート、セシル」卿反對
卿ハ本件ハ種々ノ方面ニ影響アル極メテ困難ノ問題ニシテ激烈ナル論争ノ目的物タリ從テ本件規定ヲ聯盟規約中

ニ加フルコトハ之ヲ避ケタキ旨ヲ力説シ

○希臘委員「ヴエニゼロス」ノ尙早論

氏ハ人種的區別ノ問題ハ今次戰爭ノ結果其ノ解決ヲ早ムヘキハ勿論ナルモ直チニ之ヲ解決セムコトハ困難ナルヘシ但シ宗教ニ關スル事項ヲ規定スル以上人種ニ關スル規定ヲ挿入スルコトヲ拒ムノ理無ク寧ロ兩者ニ關スル規定ハ共ニ之ヲ設ケサルコト然ルヘシト述ヘ

○白耳義委員「イーマンス」反對

氏ハ最初ハ兩者共ニ削ルカ又ハ兩者共ニ存スルノ外ナカルヘク尤モ日本委員提案ノ如キ案文ニテハ考物ナリト述ヘタルカ後ニ至リ日本ノ案ニハ反対スト明言セリ

○伯刺西爾、羅馬尼及「チエツク、スロー・ヴァク」各委員賛成

此等三國委員ハ人種ニ關スル規定ヲ設クルハ必シモ不當ニ非ストノ意見ヲ述ヘ

○佛國委員反對

佛國委員ハ兩問題ハ互ニ關聯シ居リ宗教ニ關スル規定ヲ置クトスレハ人種ニ關スル規定ヲモ加フルコト或ハ然ルヘキモ此際兩者トモ削除シタシト述ヘ

○支那委員賛成

支那委員ハ本件ニハ支那モ利害關係ヲ有シ從テ日本ノ提案ニハ同情ヲ表スル次第ナルニ依リ意見ヲ述フルコトハ後日ニ留保スト述ヘタリ

(ハ) 否決

茲ニ於テ「セシル」卿ハ第二十一條ヲ削除スルノ案ニ付キ會議ノ意見ヲ問ヒ多數之ニ賛成セリ然ルニ「ハウス」大佐ハ宗教法規定ハ「ウヰルソン」大統領ノ重キヲ置ケル箇條ナルヲ以テ之ヲ削除スルニハ一應大統領ノ意見ヲ確メタク

三、聯合與國總會議ニ於ケル牧野男ノ留保演說
二月十四日聯合與國總會議ニ於テ大統領ヨリ國際聯盟ノ成案ヲ提出シテ一場ノ演說ヲ爲シ「セシル」卿「オルランダ」氏「ブルジア」氏等交々慶賀又ハ希望ヲ述ヘタルヲ以テ我ニ於テモ此機會ヲ捉ヘ本案再提出ノ素地ヲ作リ置クトコト必要ト認メ牧野委員モ規約案ノ成立ニ付祝意ヲ述フルト同時ニ後日會議ニ提出スヘキ提案有ルニ付好意ヲ以テ慎重考量セラレムコトヲ希望スル旨ヲ附言シ我地歩ヲ留保シ置キタリ(牧野男ノ演說ハ二月十四日第三回總會議ノ記事中ニアリ)

四、帝國委員將來ノ方針

英國側反對原動力ノ殖民在首相ニ在ルハ推斷ニ難カラサルヲ以テ此上ハ「ヒューズ」「ボルデン」兩氏ニ對シ極力誘説ヲ努ムヘキ心算ナルモ目的ノ貫徹ハ至極ノ業ニシテ十中ノ九迄成功ノ見込ナク愈々不成功ニ終ル場合ニ於テハ單ニ我主張ヲ宣明スルノ趣旨ヲ以テ適當ノ機會ニ於テ更ニ國際聯盟委員會ニ提出シタル案ヲ再ヒ提出スルノ覺悟ナリ

参考 大正七年七月「ハウス」大佐ト石井大使トノ交談要領

七月四日 Fair-haven ニ於テ中濱博士刀劍寄贈式舉行ノ爲(脱)先以テ大統領ハ幾多ノ機會ニ於テ國際正義(インター
ナショナルデヤステース)ヲ以テ將來ノ國際關係ヲ律スヘキ唯一ノ綱領トスヘキヲ言明シ米國民亦熾ニ之ヲ唱道セシカ右國際正義ニ關シ何人モ異議又ハ疑惑ナカルヘキハ勿論ナルモ國際正義ノ解釋ハ頗ル問題タルヘシ例之ハ今回ノ戰爭前ノ狀態ハ國際正義ノ基礎トシテ動カスヘカラサルモノト主張スルモノアリ同時ニ内國政策ニ對シテハ外國ノ干涉スヘキ限りニアラナルヲ理由トシテ露國ノ如キモ廣漠タル西比利亞ヲ米國流ニ移民禁止ノ狀態ニ置クノ態度ニ出ルコトナキヲ保セス右ハ全ク假定ニ過キサルモ若シ各國ニ於テ此例ニ倣フセバ我國民ノ如キハ宇宙間呼吸ノ場所ヲ得サ

ルコトトナルヘシスカル状態ヲ國際正義ト看做スニ至ラハ我國民ハ國際正義ノ名如何ニ美ナリトスルモ之ヲ是認スルコト能ハサルヘシ貴見如何ト尋ネタル處「ハウス」大佐ハ其ノ點ハ恰モ余カ宿昔考量シツツアリシ所ナリ日本カ既住ニ於テ如何ニ公正ナル態度ヲ保持シ來リシカハ世界各國ノ認ムル所ナリ活動進取ノ氣性ニ富メル日本國民ノ前途ヲ妨ケムトスルカ如キハ自然ニ反スル愚策ト謂ハサルヘカラス余ハ深ク信ス日本ハ今ヤ其ノ將來ヲ獨逸ノ如キ純然タル軍國タラシメ永ク軍備ノ重荷ニ苦ムヘキカ又ハ英米ト提携シテ世界ニ軍國ノ路ヲ絶チ平和ヲ樂ムノ策ヲ執ルヘキカヲ決シ得ル(脱)吾人ト提携スルニ於テハ(彼又日獨接近ヲ怖レツツアルコト明カニ見エタリ)日本カ將來活動ノ範囲ヲ廣メムトスルニ當リ米國ノ反對ヲ受ケサルノミナラス却テ米國ノ援助ノ下ニ頗ル遙カナル程度迄進ミ得ヘキハ余ノ確信スル所ナリ余カ大戰開始後始メテ英國ニ渡リ特外相「サー、エーワード、グレー」ト會談中余ヨリ日本ノ將來ニ關シ満足ヲ與フルノ必要ヲ說出シタルニ外相ハ手ヲ打チテ之ヲ喜ヒ熱心ニ余ノ說ヲ追加敷衍セリ貴大使ノ憂フル所誠ニ尤モノ次第ニテ余ノ満幅ノ賛成ヲ客マサル所ナリ大統領ニ於テハ亦全然同感ナルコトヲ斷言シ得米國ハ此點ニ對スル日本ノ(脱)其ノ國民ニ說クニ止マラス歐洲諸國ニ對シテモ之ヲ説明スルノ勞ヲ客ムモノニアラスト答ヘタリ

○二月十四日第三回聯合與國總會議

一、日 時 二月十四日自午後三時半至午後七時

一、會 場 前回ニ同シ

一、出席者 各國代表者

甲、内 容 國際聯盟問題

甲、委員長「ウヰルソン」ノ報告

「ウ氏」ハ委員會ノ成案ハ委員會一致ノ賛成ヲ得タルモノナル事ヲ前置シテ委員會原案(本調書第六一頁以下ニアリ)ヲ朗讀シタル後大要左ノ通附言セリ

國際聯盟ハ戰爭ヲ目的トシテ成立スルモノニ非ス先ツ道義上ノ力(モーラル、フォース)ヲ以テ國際間ノ紛爭ヲ解決シ已ムヲ得スムハ實力ヲ以テ決裁セムトスルモノナリ

然レトモ總テノ場合ヲ本案ニ列記スル事不可能ナレハ本案ニ依リテ力ト且(脱)力アル機關ヲ創造セム事ヲ期シ而シテ此力ハ時ト場合ニ應シ伸縮自由ナルヘクスクリシテ攻撃(アグレッション)ニ對スル一大保障ヲ築キ得ヘシ本案ハ單ニ平和維持ノ爲メ國民ノ聯合ヲ目的トスルノミナラス又國際的ニ利害關係アル大問題ニ關シテ其ノ協力ヲ目的トスルモノニシテ勞働ニ關スル國際的法制ヲ立案シタル如キ其ノ一端ナリ而シテ祕密條約廢止小弱國民ノ保護モ亦重ヌル信用ヲ增加スルヲ得ヘシヲ置ク處ナリ云々

乙、討議

○英「ロバート、セシル」卿、國際聯盟ノ精神ヲ略述シタル後在ノ如ク演説セリ

國際聯盟ハ決シテ内政干涉ヲ行フ趣旨ニ非ス勞働ニ關スル規定モ亦固ヨリ此ノ精神ニ戾ルモノニ非ス而シテ聯盟ノ活動スル場合ハ其ノ加入者一致ノ同意アル場合ニ限ルモノニシテ從テ行動ノ敏活ヲ殺クヘキモ據テ又此ノ主義ニ對スル信用ヲ增加スルヲ得ヘシ

○伊「オルランド」、贊成演説ヲナス

○佛「レオン、ブルジョア」、

國際聯盟ハ其大綱ニ於テ一致ノ同意ヲ得タルカ如キモ其ノ精神ヲ貫徹セシムルカ爲ニハ尙國際的組織(オルガニゼーション)ヲ必要トスルモノ多シ而シテ佛自兩國塞爾比ノ如ク中央帝國ニ接近シアル諸國ノ爲ミニハ列國ノ軍備制限ノ約束カ單ニ一ノ約束タルニ止マラス實際之レカ履行ヲ監視スル爲ミニ有力ナル永久的ノ組織(オルガニゼーション)

ヨン」ヲ作ル必要アリ又敵國側ノ暗黙ノ攻撃ヲ豫防スル爲メ本條約ニ依リテ課セラレタル各種義務ノ履行ヲ確保スル目的ヲ以テ軍事上ノ保護ヲ與フル必要アリ之カ爲ミニハ永久的ナル組織「オルガニゼーション」ヲ設定スルノ要アルヘシ云々

○牧野委員、左ノ如ク陳述セリ

「余ハ茲ニ人力ニ依リ編纂セラレタル文書中恐ラク最モ重要ナルモノ完成セラレタニ際シ各員ノ述ヘラレタル祝辭ニ共鳴シ一言スル處アラムトス

世界各国ノ復讐セル政治上ノ諸問題ヲ包含セル運動ト同一體トナレル大先覺者ハ忠誠ナル意圖ヲ以テ今ヤ平和維持ニ關スル最モ有力ナル機關設立ノ事業ヲ完成ノ域ニ導キタリ右ハ感謝括ク能ハナル處ニシテ此等先覺者ノ氏名ハ史上ニ記載セラレテ永ク忘ラルコトアラナルヘシ之レ現代茲ニ將來ニ於ケル人類カ其ノ恩人ニ對シテ負ヘル感謝

ノ誠意ヲ表現スル方法タルヘシ

今日モ草案條文ニ關シ尙審議ヲ繼續セラルコトト了解シ居ルニ付キ余ハ此ノ上多言セサルヘシ唯何レ本會議ニ附議シ本日茲ニ會合セラレタル各國著名ノ代表者ノ慎重ニシテ面モ余輩ニ取り滿足ナルヘキ考慮ヲ乞ハントスル提案アレトモ右ハ本草案討議一層ノ進行ヲ見タル上提議スヘキコトヲ留保シ置カムトス」

○英「バーンズ」、武器製造ヲ監視スルノ要及國際的武力ヲ備ヘテ國際聯盟ノ決定ヲ實行スル必要ナル旨ヲ述ヘタリ

○希「グエニゼロス」、國際聯盟カ必要ニ應シ使用シ得ヘキ兵力ノ最小限度ノ數ニテモ定メ置クノ必要ヲ説キ

○支顧維鈞、國際聯盟ノ成立ヲ祝スル意ヲ述フ

○「ヘヂアフ」代表者、第一九條ノ委任統治ナル語ノ曖昧ナルヲ指摘シ委任統治ノ下ニ置カルル國民ハ自由ニ其ノ委任權ノ行使者ヲ選擇スルノ自由アルヘキコトヲ主張シ尙土地處分ニ關シテ其ノ地方ノ人民ニ關フコトナク秘密條約ノ締結セラレタルコトアルヲ知ルカ右條約ハ今尙有效ナルヘキヤ否ヤヲ知ラムコトヲ希望スト述ヘタリ

○支顧維鈞、國際聯盟ノ成立ヲ祝スル意ヲ述フ

○濱「ヒュース」、何時草案ノ討議ニ入ルヘキヤヲ質問シ

○議長ハ之ニ對シ成ル可ク速ニ全參列國代表者ノ意見ヲ徵スルノ機會ヲ與フヘキ旨ヲ答フ

右ニテ國際聯盟ニ關スル議事ヲ終リ次ニ議長ヨリ第一回及第二回總會議ノ議事錄ヲ附載シタルニ一同異議ナカリキ

○國際聯盟規約案(一月十四日聯合與國總會議ニ提出セラレタル國際聯盟委員會成案)

前文

本盟約ノ記名各國ハ戰爭ニ訴ヘサル責務ヲ承認シ各國民間ニ於ケル公開正當且名譽アル關係ヲ保持シ國際法ヲ以テ各政府間ニ於ケル行動ノ實際的規則トスヘキ了解ヲ確立シ組織アル人民ノ相互間ニ於ケル交渉上正義並總ノ條約上ノ義務ニ對スル絕對尊重ノ念ヲ維持シ以テ國際協調ノ進歩ヲ計リ併セラ國際間ノ平和及安寧ヲ確保セムカ爲茲ニ左記國際聯盟ノ規約ヲ可決ス

第一條 本盟約ノ條件ニ基ク締盟國ノ行動ハ締盟國ヲ代表スル使節團會議及一層頻繁ニ開催セラルヘキ執行委員會ノ會議並聯盟ノ所在地ニ設置セラルヘキ常設國際書記局ニ依リ行ハルヘキモノトス

第二條 使節團會議ハ定期若ハ必要ニ應シテ隨時開催セラルヘキモノニシテ聯盟ノ行動ノ範圍内ニ於ケル事項ヲ處理スルヲ以テ目的トス使節團會議ハ聯盟ノ所在地又ハ便宜ト認メラル場合ニ於テ之ヲ開催シ締盟國ノ代表者ヲ以テ組織セラルヘシ

締盟國ハ各々一票ヲ有スヘシ但各國代表者ノ數ハ三名ヲ越ユルコトヲ得ス

第三條 執行委員會ハ米國、英帝國、佛國伊國及日本國ノ代表者並聯盟員タル他四國代表者ヲ以テ之ヲ組織スヘシ右四國ノ選擇ハ使節團ニ於テ適當ト認ムル主義及方法ニ依リ行ハルヘシ前記四國代表者ノ任命アル迄ハ——ノ代表者ヲ

以テ執行委員會ノ委員トスヘシ執行委員會ノ會議ハ必要ニ應シ隨時而シテ少クトモ年一回何レカ所定ノ場所又ハ斯カル決定ヲ爲シ得サリシ場合ニハ聯盟ノ所在地ニ於テ之ヲ開催スヘシ聯盟ノ行動ノ範囲内ニ屬シ若ハ世界ノ平和ニ關係アル事項ハ何レモ斯カル會議ニ於テ處理セラレ得ルモノトス

如何ナル國ト雖モ其ノ利害ニ直接影響アル事項ヲ執行委員會ニ於テ討議スハ場合ニハ其國ニ對シ委員會ノ會議ニ出席スヘキ旨ノ招請ヲ發セラルヘシ招講ヲ受ケナル國ニ對シテハ如何ナル會議ニ於テ執ラレタル決定ト雖モ總ナ拘束力ヲ有セサルヘシ

第四條 使節團會議又ハ執行委員會會議ノ手續ニ關スル一切ノ事項並特別事項ノ調査ヲ目的トスル委員ノ任命ハ使節團若ハ執行委員會ニ於テ之ヲ審査シ該會議ニ代表セラレタル國ノ多數決ニ依リ決セラレ得ヘキモノトス

使節團及執行委員會ノ第一回會議ハ北米合衆國大統領ニ依リ召集セラルヘシ

第五條 聯盟ノ常設書記局ハ聯盟ノ所在地タルヘキノニ設置セラルヘシ書記局ハ執行委員會ノ選任スル書記官長ノ指揮及監督下ニ屬スル必要數ト認メラル書記官及屬員ヨリ成ルヘシ

書記官及屬員ハ書記官長ニ依リ任命セラルヘシ但該任命ハ執行委員會ノ確認ヲ受ク可キモノトス
書記官長ハ使節團若ハ執行委員會ノ總チノ會議ニ於テ其職權ヲ行フヘキモノトス

書記局ノ費用ハ萬國郵便聯合總理局ノ費用分配率ニ從ヒ聯盟員タル各國ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第六條 緒盟國ノ代表者及聯盟ノ役員ハ聯盟ノ事務ニ從事中外交官タルノ特權及免除ヲ享クヘタ又聯盟若ハ其ノ役員若ハ其ノ諸會議ニ出席中ノ代表者ノ占有スル建造物ハ治外法權ノ特典ヲ受クヘシ

第七條 本盟約ニ記名セス又本盟約ニ加盟スルコトヲ慾懃セラル國トシテ聯盟規約ノ議事錄ニ掲記セラレサル諸國ハ使節團ニ代表セラル國ノ三分ノ二ヲ下ラサル國ノ同意ヲ得ルニ非サレハ聯盟ニ加入スルコトヲ得ス右加入國ハ完全ナル自治國ニ限ラルヘキモノトス（屬領地及殖民地ヲ含ム）

國際的責務ヲ恪守スル誠實ナル決意ニ付有效ナル保障ヲ與フルコトヲ得且其ノ陸海軍ノ兵力及軍備ヲ聯盟ニ於テ定ムルコトアルヘキ主義ニ適合セシムヘキ國ニアラサレハ如何ナル國ト雖モ聯盟ニ加入スルコトヲ許可セラレサルヘシ

第八條 緒盟國ハ平和維持ノ爲ニハ自國ノ軍備ヲ其ノ國家的安全並國際的義務ノ共同履行ニ差支ナキ最低限度迄削減スルヲ必要ナリトスル主義ヲ認ム但シ各國ノ地理的位置及諸般ノ狀況ニ付テハ特別ノ考慮ヲ加フルモノトス軍備ノ削減ヲ實施スヘキ方策ハ執行委員會ニ於テ之ヲ作成スヘシ

尙ホ執行委員會ハ各國政府ノ考慮ト實行トニ供スル目的ヲ以テ武装解除ノ計畫中ニ指示セル兵力ノ程度ニ應シ如何ナル軍備及兵備ヲ以テ正當ニシテ且理由アルモノナルヤア決定スヘシ各國政府ニシテ此等ノ制限ヲ採用シタル以上執行委員會ノ許可ナキニ於テハ之ヲ諦ユルコトヲ得サルヘキモノトス

緒盟國ハ民業ニ依ル軍需品及武器ノ製造カ極メテ反對スヘキモノナルヲ認メ執行委員會ヲシテ如何ニセハ右製造ニ伴フ弊害ヲ防遏シ得ヘキカニ付献策ヲナシムルコトヲ約ス但自國ノ安全ニ必要ナル軍需品及武器ヲ自ラ製造シ得ナル諸國ノ必要ニ對シテハ充分ノ考慮ヲ加フヘシ緒盟國ハ軍事上ノ目的ニ適應セシメ得ヘキ諸工業ノ狀態並其ノ軍備ノ程度ニ付相互間ニ何等陰蔽スルコトナカルヘキヲ期シ且其ノ陸海軍計畫ニ付充分ニシテ隔意ナキ情報ノ交換ヲナスヘキコトヲ約

ス

第九條 第八條ノ規定ノ實施並陸海軍ニ關スル一般的問題ニ付聯盟ニ獻策セシムル爲常設委員會ヲ設置スヘシ

第十條 緒盟國ハ外部ノ侵犯ニ對シ聯盟員タル總チノ國ノ領土的保全並現在ノ政事的獨立ヲ尊重シ且之ヲ保持スルコトヲ遂行スルノ手段ニ付獻策スヘシ

期ス

第十一條 戰爭若ハ侵犯ノ威嚇又ハ危險アル場合ニハ其侵犯又ハ威嚇ノ如何ナルモノタルヲ問ハス執行委員會ハ此ノ義務ヲ斯カル犯侵若ハ侵犯ノ威嚇又ハ危險アル場合ニハ其侵犯又ハ威嚇ノ如何ナルモノタルヲ問ハス執行委員會ハ此ノ義務ヲ遂行スルノ手段ニ付獻策スヘシ

第十二條 緒盟國ニ影響アルト否トヲ問ハス本規約ニ依リ

總テ聯盟ノ關涉事項タルコトヲ宣言ス

締盟國ハ萬國平和ヲ防護セムカ爲賢明ニシテ有效ナリト認メ得ル如何ナル行動ヲモ執ルノ權利ヲ留保ス
國際的平和若ハ平和ノ基礎タル萬國間ノ良好ナル諒解ヲ擾亂セムトスル虞アル事態カ國際交際ノ上ニ發生シタル場合ニ
於テハ其ノ如何ナル場合タルヲ問ハス總テ之ニ就キ使節團又ハ執行委員會ノ注意ヲ喚起スルハ締盟各國ノ自由ナル權利
タルコトヲ宣言シ且之ヲ約定ス

第十二條 締盟國ハ其ノ相互間ニ發生シタル紛爭ニシテ外交上ノ普通手續ニ依リテ解決スルコト能ハナルモノアル場合ニ
ハ先ツ其ノ問題又ハ關聯事件ヲ仲裁裁判若ハ執行委員會ノ審査ニ附シ其ノ仲裁裁判決若ハ執行委員會ノ勧告アリタル後三
個月ヲ経過スルニアラサレハ如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約ス

仲裁裁判官ノ判決若ハ執行委員會ノ勧告ヲ遵守セル聯盟員ニ對シテハ三箇月後ト雖モ尙且戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約
ス

如何ナル場合ニ於テモ本條ニ依ル仲裁裁判官ノ判決ハ紛爭附議後相當ノ期間内ニ又執行委員會ノ勧告ハ同シク六箇月以
内ニ之ヲ行フヘキモノトス

第十三條 締盟國ハ其ノ相互間ニ發生スルコトアルヘキ紛爭若ハ不和ニシテ締盟國ニ於テ仲裁裁判ニ附スルヲ適當ト認メ
且外交上ノ手段ニ依リ圓滿ニ解決スルコト能ハサルモノアル場合ニハ全事件ヲ仲裁裁判ニ附スヘキコトヲ約ス

此ノ目的ノ爲ニ事件ヲ附議スヘキ仲裁裁判所ハ當事國ノ合意ニ依ルカ若ハ當事國相互間ニ現存スル何レカノ協約ニ規定
セラレタル仲裁裁判所タルヘシ

締盟國ハ裁判所ノ下スコトアリ得ヘキ如何ナル判決ニ對シテモ誠心誠意之ニ服スヘキコトヲ約ス判決ニ服從スルコトヲ
懈リタル場合ニハ執行委員會ハ該判決ヲ執行セムカ爲執リ得ヘキ最善ノ手段ニ付提議スヘシ

第十四條 執行委員會ハ常設國際司法裁判所ノ設置案ヲ作成スヘシ該裁判所ニシテ設立セラレタルトキハ當事國ニ於テ

前條ニ規定スル仲裁裁判ニシテ該裁判所ニ附スルヲ適當ト認メタル一切ノ事項ヲ審理判定スルノ權限ヲ有スヘシ

第十五條 聯盟員タル國家間ニ前記仲裁裁判ニ附セラレナル紛爭發生シ國交斷絕ニ導クヤモ計ラレナル場合ニ於テハ締盟
國ハ該事件ヲ執行委員會ニ附議スヘキコトヲ約ス

紛爭當事國ノ何レノ一方ト雖紛爭ノ存在ヲ書記官長ニ通告スルコトヲ得ヘク書記官長ハ右ニ關シ充分ナル審査並商量ヲ
爲サムカ爲必要ナル一切ノ準備ヲ爲スヘシ此趣旨ニ基キ當事國ハ一切ノ關係事實並書證ヲ添付シ該事件ニ關スル說明書

ヲ能フ限リ速ニ書記官長ニ送付スヘキコトヲ約ス執行委員會ハ遲滯ナク之カ公表ヲ命スルコトヲ得ヘシ

紛爭ヲ執行委員會ノ努力ニ依リ解決ニ至リタル場合ニハ適當ナル説明ヲ附シテ紛爭ノ性質及解決ノ條件ヲ指示スル説明
書ヲ公表スヘシ紛争ニシテ若シ解決ヲ見サル場合ニハ必要ナル一切ノ事實及説明ヲ具備シタル執行委員會ノ報告ニ同委
員會ニ於テ紛爭解決ノ爲正當且適當ナリト思料セル勧告ヲ附シ公表スヘシ

執行委員會ニ於テ紛爭當事國以外ノ國家ヲ代表スル委員カ全員一致ヲ以テ報告ヲ可決シタル場合ニハ締盟國ハ右勧告ニ
從ハムトスル何レノ當事國ニ對シテモ開戦セサルヘク又何レノ當事國タルヲ間ハス右勧告ニ服從スルヲ拒絶シタル場合
ニハ委員會ハ該勧告ヲ有效ナラシムル爲ニ必要ナル措置ヲ提議スヘキコトヲ約ス

此ノ如キ全員一致ノ報告成立シ得ナル場合ニハ過半數委員ハ其ノ義務トシテ又少數委員ハ其特權トシテ各ニ其ノ事實ト
信スル所ヲ指示シ且正當ニシテ適當ナリト思料スル勧告ヲ記載セル説明書ヲ作成スヘシ

執行委員會ハ本條ニ規定スル何レノ場合ニ於テモ紛争ヲ使節團ニ附議スルコトヲ得紛争ハ當事國二方ノ請求アルニ於テ
ハ之ヲ使節團ノ議ニ附セラルヘシ但右請求ハ該紛争カ委員會ニ附議セラレタル後十四日間以内ニ爲サルルヲ要ス

使節團ノ議ニ附セラレタル如何ナル事件ニ關シテモ執行委員會ノ行動並職權ニ關スル本條及第十二條ノ規定ハ總テ使節
團ノ行動並職權ニ對シ適用セラルヘキモノトス

第十六條 締盟國中ノ何レノ國ト雖第十二條ニ規定シタル盟約ニ違反シ若ハ之ヲ無視シタルトキハ右ノ事實ノミニ據リ他

聯盟國ノ全部ニ對シ戰爭行爲ヲ行ヘルモノトス看做サルヘク右ニ基キ他ノ締盟國ハ違反國ニ對シ直チニ一切ノ貿易若ハ金融上ノ關係ヲ斷テ其ノ國民ト監約違反國ノ國民トノ間ノ一切ノ交通ヲ禁止シ且監約違反國ノ國民ト他ノ何レノ國民（聯盟國タルト否トヲ問ハス）トノ間ノ一切ノ金融通商若ハ個人的交通ヲ禁遏スヘシ

斯ル場合ニ於テ執行委員會ハ聯盟諸國ノ有スル實效アル陸軍力若ハ海軍力ノ如何ナルモノカ聯盟々約保護ノ爲使用セラルヘキ武力ニ對シ個別的ニ貢献シ得ヘキカニ付勸告スルノ義務アルヘキモノトス

尙ホ締盟國ハ本條ノ規定ニ基キ執ラルヘキ金融的並經濟的措置ノ實行上生スヘキ損失及不便ヲ最々限度ニ止ムルカ爲其ノ措置ニ關シ締盟國相互間ニ支援ヲ與フヘキコト並聯盟規約保護ノ爲メ協議セル何レノ締盟國ノ兵力ニ對シモ自國領域拒セムカ爲締盟國相互間ニ支援ヲ與フヘキコト並聯盟規約保護ノ爲メ協議セル何レノ締盟國ノ兵力ニ對シモ自國領域内ニ於テ通路ヲ供與スヘキコトヲ約ス

第十七條 聯盟員タル一國ト非聯盟員タル他ノ國トノ間又ハ非聯盟員タル國ノ間ニ紛争發生シタルトキハ締盟國ハ執行委員會カ正當ト認メ得ル條件ヲ以テ右非聯盟員タル一國又ハ數國ニ對シ當該紛争ヲ解決セムカ爲聯盟員タル義務ヲ負擔セムコトヲ緒意スヘク該緒意ニシテ愛諾セラレタル場合ニハ前顯諸規定ニ聯盟カ必要ト認メ得ル變更ヲ加ヘテ之ヲ適用スヘキコトヲ約ス

前記ノ緒意ヲ爲シタルトキハ執行委員會ハ直チニ紛争ノ事情並採否ニ關シ審査ヲ開始スヘク而シテ其ノ狀況ノ下ニ最モ妥善且有效ト認メラルル行動ヲ採ラムコトヲ勸告スヘシ

從意ヲ受ケタル國カ當該紛争解決ノ爲聯盟員タルノ義務ヲ負擔スルコトヲ拒ミ聯盟員タル一國ニ對シ若シ聯盟員タル一國ニシテ之ヲ行フニ於テハ第十二條ノ規則違反ヲ構成スルカ如キ行爲ヲ行ヒタル場合ニハ其行爲ノ如何ナルモノタルヲ問ハスカル行動ヲ執リタル國ニ對シ第十六條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

紛争當事國ノ雙方カ斯カル通意ヲ受ケタル場合ニ當該紛争解決ノ爲聯盟員タルノ義務ヲ負擔スルコトヲ拒ミタルトキハ

執行委員會ハ戰鬪行爲ヲ防止シ且紛争ヲ解決セシムルニ至ルヘキ勸告ヲ爲スコトヲ得

第十八條 締盟國ハ共同利益上兵器及彈藥取引ノ監督ヲ必要ナリトスル諸國トノ該貿易ニ對シ聯盟ニ一般的監視ヲ委任スヘキコトヲ約ス

第十九條 今次戰爭ノ結果從來ノ統治國タル諸國主權ノ支配ヲ受ケサルコトトナリ且近代世界ノ世智辛キ狀況ノ下ニ於テハ未タ自立シ得サル人民ノ住居スル殖民地並領域ニ對シテハ此等人民ノ幸福及發達ヲ計ルハ文明ノ神聖ナル責務ニシテ該責務遂行ニ關スル保障ハ聯盟ノ規約中ニ包含セシメサルヘカラストノ原則ヲ適用ス可シ

該原則ニ實效ヲ與ヘムカ爲最良ノ方法ハ斯カル人民ニ對スル後見ノ任務ヲ其資源經驗又ハ地理的位置上最モ善ク該責任ヲ引受ケ得ル先進國民ニ依託シ此等先進國ハ聯盟ニ代リ受任國トシテ右後見ノ任務ヲ遂行ス可キコトトナスニ在リ委任統治ノ性質ハ人民發達ノ程度其領土ノ地理的位置其經濟的條件其他類似ノ事情ニ應シテ自ラ差異ナカル可カラス從來土耳古帝國ニ屬シタル或團體ハ獨立國民トシテ假承認ヲ受ケ得ル程度ノ發達ヲ爲セリ但シ此等團體ハ其ノ自立シ得ル時期ニ達スル迄ハ受任國ニ依リ與ヘラル行政上ノ獻策並幫助ニ服ス可キモノトス此等團體ニ對スル統治受任國ノ選定ニ付テハ主トシテ該團體ノ希望ヲ考慮セサルヘカラス

他ノ人民特ニ中央阿弗利加ノ人民ハ受任國ニ於テ其ノ領域内ノ行政ニ付責任ヲ負ハサル可カラサル程度ニアリ但シ受任國ハ施政上良心又ハ宗教ノ自由（但シ公序及道德ノミハ之ヲ維持スルヲ要ス）奴隸賣買武器及火酒類ノ取引ノ如キ惡弊ノ防遏要塞或ハ陸海軍根據地ノ建設警察ノ目的及其ノ領域防衛以外ノ爲ニスル土民ノ軍事的教練ノ禁止ヲ保障スヘキ條件ニ服シ又他ノ聯盟員タル諸國ノ通商貿易ニ對シ均等ノ機會ヲ確保スヘシ

又西南阿弗利加及或ル南太平洋島嶼ノ如キ他域ハ人口ノ稀薄又ハ地域ノ狹少ナルカ爲或ハ文明ノ中心ヲ距ルコト遠キカ爲若ハ委任統治國ニ地理的ニ接近セルカ爲及其ノ他ノ事情ニ由リ受任國ニ於テ其ノ構成部分トシテ自國法律ノ下ニ統治スルヲ以テ最善トス但シ受任國ハ土着人民ノ利益ノ爲前項規定ノ保障ヲ與フルコトヲ要ス

委任統治ノ各場合ニ於テ受任國ハ聯盟ニ對シ其ノ擔當ヲ委任セラレタル地域ニ付年報ヲ提出スヘシ受任國ノ行使スル權力監督又ハ行政ノ程度ニシテ締盟國ニ依リ豫メ協定セラレタルモノナキトキハ執行委員會ハ各場合ニ付特別法令或ハ特許狀ヲ以テ明確ニ之ヲ決定スヘシ

尙ホ締盟國ハ諸受任國ノ年報ヲ受理檢閱シ且委任全部ニ關スル條件ノ遵守ヲ保證スルカ爲聯盟ヲ補助セシムル目的ヲ以テ聯盟ノ所在地ニ委任統治委員會ヲ設置スルコトヲ約ス

第二十條 締盟國ハ自國並其ノ商業的及工業的關係ノ及フ總テノ國ニ於ケル男女及兒童ノ勞働ニ對シ公正且人道的ナル條件ノ確保維持ニ努ムヘク而シテ此目的ノ爲聯盟組織ノ一部トシテ常設勞働局ノ設置ヲ約ス

第二十一條 締盟國ハ聯盟員タル總テノ國ノ通商ニ對シ通過ノ自由並待遇ノ公正ヲ確保維持セムカ爲聯盟ニ依リ規定ヲ設クヘキコトヲ約ス但シ一九一四年乃至一九一八年ノ戰役中荒廢ニ歸セル諸地方ノ必要ニ關スル特殊協定ニ對シテハ特ニ考量ヲ加フルモノトス

第二十二條 締盟國ハ當該條約當事國ニ於テ承認スル場合ニハ既往ニ於テ一般的條約ニ依リ設置セラレタル總テノ國際的事務局ヲ聯盟ノ監督下ニ置クコトヲ約ス尙締盟國ハ將來建設セラルヘキ此種國際的事務局カ總テ聯盟ノ監督下ニ置カルヘキコトヲ約ス

第二十三條 締盟國ハ今後聯盟員タル如何ナル國ニ依リ締結セラルヘキ各條約又ハ各國際的約定ト雖遲滯ナク之ヲ書記官長ノ許ニ登錄スヘク書記官長ハ能フ限リ速カニ之ヲ公布スヘキコト茲斯カル條約又ハ國際的約定ハ其ノ登錄ヲ經ルニ至ル迄ハ總テ拘束ヲ生セサルヘキコトヲ約ス

第二十四條 適用不能トナレル條約及其ノ存續カ世界ノ平和ニ危險ヲ及ホシ得ヘキ國際的事態ニ付テハ使節團ニ於テ聯盟員タル諸國ニ對シ隨時其ノ再考ヲ促ス權利ヲ有スヘシ

第二十五條 締盟國ハ其ノ相互間ノ義務ニシテ聯盟規約ノ條件ニ抵觸スルモノハ總テ之ヲ廢棄スルモノトシテ本規約ヲ承

シタルコトヲ各自ニ承認シ且今後此規約ノ條件ニ抵觸スル如何ナル約定ヲモ締結セサル可キコトヲ誓約ス

本規約ノ記名國又ハ今後聯盟ニ加入スヘキ諸國ハ何レノ場合ニ於テモ本規約ノ締約國タル以前ニ於テ本規約ノ條件ニ抵觸スル何等ノ義務ヲ負擔シ居ル場合ニハ當該國ハ直チニ斯カル義務ヲ解除セシムルノ方法ヲ講スル義務アルヘキモノト

ス

第二十六條 本規約ノ修正ハ其ノ代表者ヲ以テ執行委員會ヲ構成スル列國及其ノ代表者ヲ以テ使節團ヲ構成スル列國ノ四分ノ三ニ依リ批准セラレタルトキニ其ノ效力ヲ生スヘシ

(四) 損害補償委員會

○ 落實ノ原則ニ關スル各國覺書案要旨

第一、佛國案

(佛國案ノ大體ハ第三次損害補償委員會ノ部ニ記載シタレトモ便宜ノ爲再掲ス)

- 一、過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ原狀回復ノ責任アルコト現時法律ノ原則ナリ（獨逸民法八二三三條二四九條引用）而シテ獨逸ハ老幼男女ノ生命身體自由財產ヲ侵害セリ
- 二、過去ノ懲罰將來ノ豫戒トシテ獨逸ハ加ヘタル損害ノ全額ヲ賠償セサル可カラス各國ハ賠償請求上同等ノ地位ニ在リトスルモ或種ノ損害ハ性質上他ニ優先シテ賠償ヲ受ケサル可カラス
- 三、侵掠セラレタル物ノ所有者ハ一般債權者ニ優先シテ其ノ物ヲ回復スル權利アリ蓋シ債務者ノ財產カ債權者ノ共同擔保タルハ債務者カ其ノ財產ノ適法所有者タル場合ニ限ル債務者ノ故意ヲ以テ其ノ物ヲ毀損シ其ノ他使用不能トナシタル場合ト雖所有者ハ此ノ優先請求權ヲ保有ス

第二、英國案

一、略ス

- 二、被奪物ノ現存スル場合ニハ所有者ニ返還シ且之ニ依テ生シタル損害辨償ヲ要求シ得
- 三、其ノ他ノ場合ニハ實質的辨償ノ方法ヲ以テス其ノ辨償ハ完全ナルト共ニ實際ノ程度ヲ越ニヘカラス
- 四、請求權ハ公私直接間接ヲ含ム國家ハ國民全體國民ノ一部若クハ個人ニ代リテ請求ス國家ハ自己ノ損失即チ現在及將來國民ノ負擔トナルヘキ犠牲及（脫字）ニ關シ賠償ヲ要求ス
- 五、（A）敵國ニ於テ責任ヲ負擔スヘキ行爲並ニ其ノ行爲ノ直接間接ノ結果如何ニ關シテハ加害者ハ其ノ行爲ノ自然的結果

果ヲ豫期シ意欲セサルモノト見做サルコトト法律ノ一般原則ナリ從テ行爲及其ノ直接ノ結果ニ對シ賠償義務アルノミナラス其ノ行然ノ自然的結果ニ對シテモ責任アリ即チ我等ハ戰爭ノ全費用額ヲ要求スル絕對的權利ヲ有ス

(B) 賠償ノ基礎タル損害ノ測定ニ關シテハ

(イ) 請求權ハ可成詳密ニ陳ヘ且立證方法ヲ具スヘシ

(ロ) 敵國侵略ノ結果證據書類ヲ紛失セル等ノ事實ニ基キ正確ナル性質若ハ額ノ不明ナルノ理由ノミニ依リ其ノ請

求權ヲ除外スヘカラズ

(ハ) 評價不能ナル漠然タル要求ハ除外ス

(ニ) 必要ナル場合ニハ假ニ若クハ留保ヲ以テ請求ヲ提出シ得

六、分科會ハ必要ト認ムル時ハ文明國ノ法典ヲ利用スルコトヲ得但本會議ノ定メタル原則ニ從フモノトス

七、分科會ハ専門家ノ證言ヲ需メ及公文書ヲ參照スヘシ

八、九、略ス

第三、米國案

一、行爲當時ニ於テ認メラレタル國際公法ニ違背シタル敵國行爲ニ直接基因スル一切ノ損害ヲ賠償セシム

二、白耳義及佛蘭西羅馬尼塞比亞黑山國ノ被占領地ハ可成原狀ニ回復セシム

其ノ方法ハ可成現物ノ返還ニ依リ然ラスムハ貨幣若クハ貨物ヲ以テ代償セシム

三、所在地如何ニ不拘非軍事的性質ノ財產ニ加ヘタル一切ノ物理的損害ヲ賠償セシム但直接獨逸ノ軍事行動ニ基因スルノ機會喪失ヲ含ム

四、獨逸ノ軍事行動ニ依リ直接非戰鬪員ニ加ヘタル一切ノ損害ヲ賠償セシム此損害ハ死亡危害強制労働及勤労並ニ報酬

損害ニ限ル

- 第四、伊國案ハ佛國案ニ對シテ左ノ如ク附加ス
- 一、敵四國ノ責任ハ連帶ナリ
- 二、共同債務者ノ資產ニ對シテ多數債權者アリ若クハ多數債務者連帶責任ヲ負フ場合ニハ優先權存セサル限り債務者ノ資產ハ各請求額ニ比例シテ分配セラル
- 三、賠償額ニ對スル利息ハ各國同一日附ヲ以テ進行ヲ始ムルコト

(附) 帝國委員ノ觀察

思フニ伊國カ敵國連帶責任ニ重キヲ置クハ塊洪國分裂ノ今日獨逸ニ對スル請求權ヲ確保セムト欲スルニ在リ帝國委員ノ觀測スル處ニ據レハ委員會ノ形勢ハ大體英國案ノ主義ニ贊成シ佛國案ノ先取特權及伊國案ノ連帶責任主義ヲ加ヘテ之ヲ要求ノ基礎トスルニ至ラムカト思ハル米國案ハ孤立スルモノノ如シ然レ共案ノ根據トスル所ハ聯合國カ米國大統領ニ要求シテ一九一八年十一月五日ノ通牒中ニ挿入セシメタル一節即チ海陸空ノ何レア問ハス獨逸ノ侵害ニ依リ聯合國ノ非戰鬪人民及其ノ財產ニ加ヘタル總テノ損害ハ獨逸之ヲ賠償スヘシトノ文言ニ在リ

○損害補償委員會第五、六、七次會合

一、日 時 二月十三、四、五日

一、出席者 森、岡、巽、

一、議題 要償範圍等ニ關スル主義原則討議

○米國委員ノ「ウヰルソン」十四箇條ヲ基礎トスル說

米國委員ハ自國覺書ヲ説明シ聯合國ハ客年十一月五日米國大統領ニ送致シタル回答ニ依リ無限ノ要償權ヲ有スル能ハ

ス蓋シ此際獨逸ノ目的トスル所ハ聯合國ヨリ要求セラルヘキ最大限ヲ知ラムトスルニ存シ聯合國カ米國大統領ノ十四箇條中二箇條ニ關シ特ニ或ハ意見ヲ留保シ（海洋自由ノ原則）或ハ其ノ解釋ヲ與ヘタル（損害補償範囲）ハ此以外ニ就ハ右十四箇條ヲ承諾シ其ノ要求範囲ヲ限局セルモノト解セサルヘカラサルヲ以テナリ故ニ聯合國ハ十四箇條以外ニ就テハ獨逸ノ爲シタル國際法違反行爲ニ對シテノミ要償權ヲ有スルニ過キスト論シ

○英國委員（Lord Sumner）ノ反對

英國委員ハ對之十九世紀ノ實例ヲ舉ケ國際慣例ハ戰勝國ニ戰費要求權ヲ與フルコト及ヒ「ウヰルソン」ノ十四箇條ハ單ニ顯著ナル大綱ヲ舉ケタルニ過キスシテ必シモ限局的性質ヲ有スルモノト解スル能ハサルコト等ヲ述ヘ

○米國委員ノ駁論

米國委員ハ最初獨逸ヨリ十四箇條ヲ討議ノ基礎トシテ承認スルコトヲ申出テタルヲ米國受附ケサリシ處其ノ後遂ニ聯合國ニ於テ是ヲ講和ノ條件トナスニ異議無キ旨ヲ表明スルニ至レル來歴ヲ述ヘ聯合國ハ業ニ既ニ承諾セラレタル右講和條件ノ實際ノ適用ヲ決定スルノ權能アルノミ主義其ノモノヲ變更スルコトヲ得スト辯駁シ

○英國委員（Hughes）ノ駁論

賠償ノ主義ヲ獨リ米國大統領ノ宣言ニ限局セムトスルハ見解彼キニ失ス聯合國ハ大統領ノ對獨通牒ヲ認容セリト雖ニ依テ其ノ權利ヲ制限セラレタルモノニ非ス一步ヲ讓ルモ白耳義ノ中立侵害ハ明カニ國際公法違反ナルヲ以テ白耳義ハ十四箇條ノ如何ニ拘ラス其ノ全損害即チ戰費ヲモ請求スル事ヲ得是レ米國案モ認ムル所ナリ然リ而シテ英國ハ白耳義中立條約當事國家トシテ參戰ヲ餘儀ナクセルモノナリ故ニ白耳義同様戰費ヲ賠償セシムルノ權利アリ又之ニ止ラス自耳義中立ノ保障ハ全世界平和ノ爲メ必要ナリシヲ以テ苟モ是カ侵害ニ對シテハ世界ノ各國共ニ起テ戰フノ權利アリ故ニ爾餘ノ諸國ハ悉ク戰費ヲ要求スルノ權利アリ又契約ハ平等ナル當事者間ニ成立スルモノニシテ戰敗國タル獨逸トノ間ニ契約ノ成立ヲ認ムル能ハス

○損害補償委員會第八、九次會合

一、日 時 二月十七日及十九日

一、出席者 日本側ヨリ森、長岡、巽

一、議 題 要償範圍等ニ關スル主義原則討議（承前）

一、論議

○佛伊白塞委員其所說ヲ反覆シ

○帝國委員（森）

賠償ノ一般方針ニ關シ本邦委員モ其ノ能度ヲ明カニスヘキ時機到來シタルヲ以テ森委員ヨリ大要左ノ如キ趣旨ヲ陳ヘタリ

「本件ハ既ニ遺憾ナク論議セラレタレトモ専門家諸氏並委員諸君ノ所說ヲ聞クノ機會ヲ得タルヲ謝スト共ニ討論終結ニ先チ一言日本委員ノ見解ヲ發表セムトス抑々戰費ハ敵國ノ挑戰的行動ニ依リ不得止結果トシテ生シタル負擔ニシテ猶ホ訴訟費用ノ如キモノナリ勝訴者其ノ費用ノ負擔ヲ免ル可キノ原則ハ絕對ニ必要ニシテ戰爭カ國家正當防衛ノ唯一ノ手段タル以上國ト國トノ爭ニ於テ此理ハ一層割切ナリ獨逸ハ歐洲ノミナラス極東ノ平和ヲモ脅迫シ遂ニ日本ヲシテ日英同盟ノ趣旨ニ基キ干オヲ取ラシムルニ至リ挑戰國タル獨逸ハ戰費ヲ支辨スルヲ至當トス且又米國覺書ノ承認バ正

義公道ニ基ク要債權ヲ限局スル事ナシト信ス此見解ニ依リ賠償ノ範囲ハ最モ廣汎ナルヘク日本委員ハ特ニ其ノ覺書ヲ提出セスト雖モ此趣旨ニ基キタル英國案ニ贊同スルモノナリ云々」

○米國委員ノ提議

米國委員ハ諸反対意見ヲ駁論セル後何レノ主張カ千九百十八年十一月五日ノ米國大統領宛聯合國回答及休戰條約第十九條冒頭規定ノ解釋トシテ正當ナルヤニ關シ軍事會議ノ意見ヲ求ヌムコトヲ提議シ

二、決定

意見交換ノ後第八回會議ニ佛國委員ノ提出シタル左記決議案中第二項ニ關シ可否ノ意見ヲ平和本會議ニ求ムルニ決ス當委員會ニテ米國ヲ除キ悉ク肯定意見ナリ

(一) 聯盟諸國ノ権利ハ一體ヲ爲ス (Droit des Puissances Alliées et Associées est intégral)

(二) 敵國ハ一切ノ損害ヲ賠償セサルヘカラズ但シ或種ノ債權ニ對シテハ優先順位ヲ與フルコトヲ留保ス (Enemis doit réparer tous les dommages, un rang de priorité étant réservé à certaines créances)

○損害補償委員會第十次會合

一、日 時 二月二十四日

一、出席者 日本ヨリ長岡、巽

(尙本日ヨリ葡萄牙委員二名出席、二月二十二日五國會議參照)

一、内 容

イ、議長ヨリ第一分科會ハ露國ノ蒙リタル損害ニ關シテモ審議セムコトヲ要求シ佛國ハ右損害ニ付提議スルノ勞ヲ執ル

コトアルヘキ旨ヲ述ヘタリ

ロ、前回ノ質問ニ關シ平和本會議ノ回答アル迄委員總會ヲ開催セサルニ決ス

○損害補償委員會第一分科會第一次會合

一、日 時 二月十五日自午後三時

一、出席者 本邦ヨリ森

一、議題

甲、役員決定

議長……………Lord Sumner (英國委員)

副議長……………Kleissn (伊國委員)

乙、調査進行方法討議

イ、議長、各國ヨリ請求ノ覺書ヲ提出シ之ヲ基礎トシテ比較研究ヲ始ム可シト提議シ

ロ、米國委員、各國可成損害各項目ノ計數ヲ提出シ調査ノ進行ヲ早ム可シト主張シ

ハ、白耳義塞爾比波蘭諸國委員、被侵害國ノ損害評價頗ル難事ナルヲ以テ詳細ノ數字ヲ提供スルニハ相當ノ時日ヲ要ス可シ故ニ先ツ損害ノ種類等一般ノ問題ヲ先ニスヘシト陳ヘ

ニ、佛國委員、之ニ後援シ損害ノ種類及其評價ノ方法ヲ先決問題トスヘシト主張シ

ホ、議長、折衷の裁定ヲ下シ先ツ損害ノ種類及評價ノ方法ニ付調査ヲ進ムヘキモ同時ニ損害ノ種類及出來得ヘクムハ

計數ヲモ附記シタル覺書ヲ提出セラレムコトヲ宣言シタリ

開會ニ先チ英國委員ハ優先賠償ニ關スル森委員ノ所見ヲ問ヒ且英國ハ船舶被害ノ賠償ヲ以テ被占領地ノ回復ト同順位ニ主張スルノ考ナリト陳ヘタルニ依リ森委員ハ之ニ同感ナリ海陸ノ間差等フ設クル理由ヲ見スト答ヘ置キタリ

○損害ノ種類ニ關スル本邦覺書

第一分科會第一次會合ノ議事ニ基キ損害ノ種類ニ關スル本邦覺書二月二十日左ノ如ク提出セリ

- (一) 戰費
- (二) 俘虜收容費
- (三) 敵國ノ不法行爲ニ依リ商船ニ關シ蒙リタル損害
 - (A) 船舶ノ損害
 - (B) 積荷ノ損害
 - (C) 乗客及乗組員ノ人的並物的損害
- (四) 敵國ノ不法行爲ニ依リ個人ノ蒙リタル損害
 - (A) 人的損害(生命身體等ニ關スル損害)
 - (B) 財產其ノ他ノ權利ニ關スル損害

(訂正増補ノ權ヲ留保ス)

○損害補償委員會第一分科第二次會合

一、日 時 二月十七日午後

一、出席者 森

一、内 容

甲、佛國大藏省書記官ヨリ第一分科會調查ノ参考トシテ被害地復舊援助ニ關スル佛國法律案ノ説明アリ

乙、各國ハ賠償ヲ要求セムト欲スル各自ノ損害ノ種類ニ關スル覺書ヲ二月二十二日迄ニ提出シ之ヲ基礎トシテ調査ヲ進ムルニ決シタリ

○損害補償委員會第一分科會第三、四、五、六次會合

一、日 時 二月二十四、二十七、二十八日及三月一日

一、出席者 日本ヨリ長岡

一、議題 損害ノ種類ニ關スル各國覺書表審議

(一) 審議ノ内容

損害ノ種類ニ關スル列席各國委員提出覺書ヲ總テ網羅セル表ヲ書記局ニ於テ作製シ之カ一應ノ審議ヲ了セリ但シ審議トハ各委員提出ノ損害種類ニ付要償權アリヤ否ヤヲ研究セルニ非スシテ其ノ記載ハ要償セムトスル種類及範圍ヲ明瞭ニ表示シ居ルヤ否ヤヲ考究セルニ過キスト雖種類中過度ノ要求ニ係ルモノハ概シテ其ノ範圍ヲ明確ニシ金額算定ノ規準ヲ明カニスル爲提出各委員ニ於テ修正スルコト、ナレリ

(二) 過度ノ要求ヲ爲セル國

過度ノ要求中最顯著ナルハ次ノ如シ

イ、伊國委員 ハ備船料ノ賠償ハ潜水艇戦ニ基クトノ故ヲ以テ其ノ騰貴ノ爲ニ國家及個人ノ蒙レル損害其ノ他物價ノ騰貴爲替相場ノ下落ニ依ル損害等ニ關シテ要求ヲ爲セリ

ロ、佛國委員 ハ千八百七十年戰役ノ賠償金其ノ他ノ損害ヲ要求セルカ議長ハ今回戰役ノ賠償問題ヲ研究スル本會ハ右要求ヲ審議スルノ權限ナシト述ヘ佛國委員ハ本問題ハ之ヲ委員會總會議ノ際追討議ヲ留保シタシト述ヘタリ

(三) 議長ノ要償最小限及最大限要求

尙議長ハ強テ要求スル次第ニハ非サルモ出來得ヘクムハ各國委員ヨリ其ノ要償ノ最小限及最大限ヲ承知シタシトノ提議ヲ爲シ各委員ハ之ニ餘リ重キヲ措キ居ラサル模様ニテ佛國委員ノ如キハ話シ序ニ長岡委員ニ最小限ハ零最大限ハ無窮大トセハ可ナラムト述ヘタル趣ニシテ今日迄右ニ對シ回答ヲ爲セルハ二國ニ過キサルモ議長ニ於テハ最初ヨリ此提議ヲ重要視シ居ル模様ナリ

○損害補償委員會第一分科會第一次會合

一、日 時 二月十五日

甲、役員選舉

議長、英國委員「カントリフ」卿 (Lord Cunliffe) (前英蘭銀行總裁)

副議長、佛國委員「ルショール」 (Loucheur)

乙、在敵國金銀高及原料製造品取調ノ件

敵國ニ於ケル金銀保存高並聯合國要求ニ對シ支拂ニ當テ得ヘキ原料品製造品ノ取調ヲ爲スコトトナレリ
丙、在聯合國敵財產明細表提出ノ件

聯合國內ニ存在スル敵國政府及人民所有ノ諸種財產明細表ヲ各自調製提出スルコトトナレリ

○損害補償委員會第一分科會第二次會合

一、日 時 二月十七日

乙、内 容

甲、要求シ得ヘキ敵國金銀現額計上

敵國所有金銀現在高ニシテ聯合國ヨリ要求シ得ヘキ額ハ

金	一億六千萬磅
銀	二千萬磅

ト計上ス

乙、要求スヘキ物品並所要額各國ヨリ申出ノ件

賠償ノ一方法トシテ敵國ニ生産スル原料品並製造品ヲ要求スルノ案提出セラレ各國ノ要スル物品並所要高ヲ申出ルコトトナリタリ

○損害補償委員會第一分科會第三次會合

一、日 時 二月十八日

一、内 容 賠償ノ一部ニ當ツヘキ敵國石炭產出額ノ調査

佛國委員ノ陳述左ノ如シ

イ、戰前獨逸石炭產額ハ一箇年二億八千萬噸ニシテ戰後一箇年六千萬噸ノ輸出ヲ爲ス事ヲ得ヘシト信スルカ故ニ一箇年六千萬噸ヲ以テ敵國ニ對シ要求シ得ヘキ額ト看做スヘシ

ロ、佛國ハ右ノ内一箇年三千萬噸ヲ要求スヘク而シテ其ノ價格ハ一噸約三十法ト計算スヘシ

○参考 要償方法ニ關スル各國ノ意見ニ付帝國委員ノ觀察

以上ノ三會合ニ於テ得タル印象トシテ

イ、佛國側ハ苟モ敵國ニ存在スルモノニシテ金銀物品等要償シ得ヘキモノハ總テ之ヲ徵求シ以テ自國戰費ノ恢復被害地ノ復舊ヲ欲スルモノノ如ク

ロ、其他ノ歐洲諸國又大體佛國ト所見ヲ同シクシ

ハ、英國側ノ所說ハ反之頗ル穩健ニシテ其ノ要償方法過重ナラス敵國ヲシテ經濟上不可能ノ地位ニ立タシメス數十年

ニ涉リテ徐々ニ要償ヲ完結セシムルコトニ付最善ノ方法ヲ講セムトノ意思ヲ抱ケルモノノ如ク

ニ、米國側ハ未タ明カニ其ノ意見ヲ發表セサレトモ敵國ヨリ其ノ金ノ全部ヲ供給スルコトニ付異議ヲ述ヘタルコトア

ルニ徵シ共ノ要償ニ關スル態度ハ英國側ト大差ナキ様見受ケラレタリ

○損害補償委員會第一分科會第四乃至第八次會合

(二月二十三日巴里發電)

第四次會合以後ノ經過左ノ如シ

第一、敵國ニ要求スヘキ原料品製造品

(A) 石炭

輸出可能額年六千萬噸 (價格一噸三十五法)

内 各國要求額ハ

佛 國 一年三千萬噸

羅馬尼 石炭 百五十萬噸、^{ゴーラス}骸炭 四拾萬噸

塞爾比 三 百 萬 噸、骸炭 拾五萬噸

「チエック、スロヴアツク」五百萬噸、骸炭 四萬噸

白耳義 ハ瓦斯製造ノ爲メ特殊ノ石炭ヲ多少要スヘシ

伊太利 未定

(B) 「ボツタシユーム」

聯合諸國要求總額一箇年三、四萬噸

(C) 材木

佛 國 年八拾萬噸

希臘 拾二萬噸

伊太利 百五拾萬噸

英國 要求額ヲ攻究スヘシ

(D) 染料
輸出可能額年約二億二千七百萬馬克英國ハ「アニリン」染料中特殊ノモノハ頗ル巨額ヲ買取ル見込
米國ハ戰時中染料工業發達ノ爲メ今後輸入ノ必要無カルヘク其他ノ諸國ハ別段ノ申出ナシ

(E) 砂糖

英國及希臘ハ相當額ヲ要求スヘシ

(F) Amber Graphite.

賠償支拂ノ一部ニ充ツヘキ物品トシテハ重要ナルモノニ非ストシテ削除ス

第二、敵國支拂能力及其ノ方法ニ關スル英佛米委員ノ意見

(イ) 英國委員ノ說ニ依レハ賠償額ハ頗ル巨大ニ達スヘシト雖モ之カ要求ヲ爲スニハ單ニ敵國ノ支拂能力ノミヲ計算ノ基礎トシ不可能ノ要求ヲ爲スヘカラス敵國ヲシテ陸海軍備ヲ最小限度迄縮少セシメ其ノ生産力ヲ助長シ國民ノ勤儉努力ニ訴ヘテ之ヲ完済セシムヘク其ノ要償ノ期間ハ約五十年トス而シテ敵國カ全力ヲ盡シシテ支拂義務ニ任シ其ノ誠意アルヲ認ムルニ至ラハ相當期間ノ後賠償ノ一部ヲ免除スルモ可ナリ

賠償ノ總額ハ未定ナレトモ會テ英國首相ノ述ヘタル所ニ依レハ約二百四拾億磅ナリ

(ロ) 佛國委員ノ說ニ依レハ賠償總額ハ約一萬億法ナリトス而シテ

(二) 即時ニ要求スルモノハ

金 約四拾億法

商船	二拾五億法
海底電線	一億法
外國ニ於ケル敵國官民財產	六拾億乃至一百億法
敵國官民所有ノ外國證券	五拾億乃至一百億法
家畜	拾五億法

合計 百九拾億法乃至二百八拾億法

(二) 五拾年間ニ亘リテ要求スルモノハ賠償額ヲ假ソニ英國首相ノ述ヘタル如ク六千億法トスルモ之レカ支拂ニハ元利ヲ合セ一箇年間約三百億法乃至三百五十億法ヲ要シ内原料品製造品代價額約四十億法乃至五十億法ヲ差引き残額一年二百五十億乃至三百億法宛トナルヘシ而シテ敵國カ之カ支拂ニ應スルハ必シモ不可能ノ事ニハアラサルヘシ

(ハ) 米國委員ノ說ニ依レハ

敵國カ最初二箇年間ニ支拂得ヘキ額左ノ如シ但シ内容ヲ舉ケス

平和調印後六箇月間十八億弗

次ノ六箇月間十二億弗

次ノ一箇年間二十四億弗

合計五拾億弗

其ノ後二箇年十五億弗宛支拂フコトヲ得ヘク其ノ後三十五箇年間繼續セシメ

結局三十七箇年間ニ合計五百七十九億弗ヲ支拂フコトヲ得ヘク之レヲ以テ完結トナスヘシ

以上三國委員ノ意見ハ第三次會合末尾^{〔参考〕}トシテ記載シタルモノト大差ナク只金ニ付テハ米國全然之レヲ要求スルノ意思ナク英國ハ其ノ一部ヲ取ルモ可ナラムトノ意見ナル如ク又賠償金ノ一部トシテ徵求スル原物品製造品ニ付テハ英國ハ佛國ト其ノ意見ヲ異ニシ物品徵求ヲナスニアラスシテ其ノ欲スル物品ハ賠償金ヲ以テ寧ロ之レヲ買取ルノ意ニシテ米國ニ至リテハ全然物品ノ要求ヲナササルモノト推測セラル

○損害補償委員會第二分科會第九次會合

一、日 時 二月二十四日

一、内 容

甲、敵國民間銀行並金銀站敵國財源ニ付明細ニ敵國ヨリ報告ヲ求ムルコト・ス

乙、佛國委員ノ敵國財產課稅提議

イ、佛國委員 ハ賠償ヲ得ル方法トシテ敵國財產ニ二割五分ノ稅ヲ課セシムルノ案ヲ提出シ且ツ敵國財產總額ハ八千億萬馬克アルヘシト述ヘタルニ

ロ、米國委員 ハ課稅ノ案ハ實行方法ニ困難アルヘシトテ反對シ

ハ、英國委員 ハ敵國ヲシテ其ノ財產ニ課稅セシムルトキハ英佛諸國ニモ同様ノ課稅ヲ見ルヘキ恐レアリトテ贊意ヲ表セス

丙、佛國委員ノ敵國財產一部徵求提議

イ、佛國委員 ハ賠償要求トシテ即時拂一百五十億馬克以後毎年支拂フヘキ高八十億馬克乃至一百億馬克ナルニ付其ノ不足額ニ對シテハ敵國ノ財源ノ一部ヲ徵求セムコトヲ述ヘ

丁、列國ノ要償範圍並帝國委員ノ意見
要スルニ

ロ、米國委員 ハ之ニ對シ佛國委員カ曾テ毎年二百五十億法ノ要求ヲナサムト述ヘタルニ今回之ヲ八十億馬克ニ減シタルヲ指摘シテ詰リタルニ

ハ、佛國委員 ハ前回ノ數字ハ單ニ要求額ヲ示シタルニ過キスト輕ク回答シタリ

イ、米國ノ意見ハ直接損害以外ニハ假令巨額ノ戰費ヲ要求スルモ實際ニ於テ領收不可能ナルヘシト云フニ在リ然ル

ロ、佛國 ハ戰費ヲ包含スル要求巨額ヲ豫想シ即時要求シ得ヘキ額ハ徵求シ得ヘキモ其ノ後年々ノ徵求額ハ元利五百厘ニテ五十億ノ濟崩シヲスルモ殆ト不可能ノ巨額ヲ要スル（要求額ヲ假ソリニ六千億法トスレハ其ノ元利年金約三百三十億法）計算ナルカ故ニ石炭其ノ他敵國內ニ生産スル物品ノ徵求トナリ尙巨額ノ不足ヲ生スルヲ以テ更ニ進ムテ遂ニ敵國內ノ財源ヲ要求スルカ或ハ敵國ノ總財產ニ對シ過重ノ財產稅ヲ課セムトスルノ提案ヲナスニ至レリハ、英國 ハ米國ノ如キ具體的ノ案ヲ會議中ニ提議セナリシモ「カントリフ」卿（Lord Calthorpe）カ巽委員ニ内示セル案ニ依レハ要償總額五千一百億金貨馬克ニシテ即時拂一百億金貨馬克ト計算シ殘額ニ對シ平和後二年間ハ年二分其後七年間利子遞加シ八年目ヨリ五分五厘（内五厘ハ濟崩シ）即チ二百七十五億金貨馬克ヲ每年要求スルノ趣旨ナルモ是亦不可能ノ巨額ナルカ故ニ今日迄公表ヲ躊躇シ居レリ

ニ、帝國委員ノ意見 佛國提案財產稅ノ如キハ英米之ニ全然反對シ實行不可能ナルヘク結局難問トシテ殘ルヘキモノハ利子問題タルヘク低率ノ利子ヲ課スルカ或ハ又全然無利息トシテ之カ解決ヲ求ムルコトニ至ラムカト想像セラル

○損害補償委員會第三分科會、第一次會合

八八

一、日 時 二月二十四日

一、出席者 日本ヨリ長岡

一、内 容

甲、役員推選

議長 Hughes.

副議長 英國(電文不明)

乙、本分科會ハ第一及第二分科會ノ事業進捗スル迄開會セサルコトニ決ス

(五) 責任委員會

○責任委員會第三次會合

一、日 時 二月十四日午前

一、出席者 日本側ヨリ安達公使、立博士

一、議事

分科會ニ於ケル調査方法ニ關スル諸般ノ打合セラ爲シ來十七日以降毎日開會シテ調査ノ進捗ヲ計ルコトニ決セリ

○責任委員會第四次會合以後ノ経過

◎二月十八日巴里發電

分科會ニ於ル佛國委員ノ提案

(イ) 提案ノ要旨

該提案ハ

(A) 戰爭開始

(B) 白耳義及「ルユクサンブル」ノ局外中立侵害

(C) 戰事中獨國官憲ノ犯シタル國際法違反

ノ諸行為ニ關シ講和條約締結前可成速カニ中立國及獨逸ヨリ獨逸官廷及最高責任者ノ外ニ尙直接責任者ノ引渡シヲ受ケ聯合側五大國ノ任命ニ係ル判事ヨリ構成セラル可キ特別裁判所ニ於テ審判處罰セムトスルニ在リ

(ロ) 英國委員ノ態度

九〇

英國委員ハ戰爭開始自耳義及「リュクサンブル」ノ局外中立違反ノ如キ特別ノ問題ノ審理ハ多大ノ時日ヲ費シ且事件ノ性質上裁判ノ目的ヲ達スルコト至難ナレハ右以外(脱)ヲ終了スルヲ得策ナリトシ

(ハ) 米國委員ノ態度

米國委員ハ未タ其意見ヲ發表セサルモ安達委員ニ爲シタル内話ニ依レハ英國委員ト同意見ナルモノ、如シ

◎三月六日巴里發電

一、英國ノ新案提出

責任委員會ノ設定ノ目的ハ前陳ノ通前獨帝以下最高責任者處罰ニ關シテ研究スルニアル處第二分科會(戰爭開始並白耳義「リュクサンブル」中立侵害ニ關スル分科會)ニ於テハ當初具體的ノ處罰ヲ謀セムトスル英佛兩國委員ノ主張アリタレトモ米國委員ノ不同意アリタル爲メ二月廿七日ノ會議ニ

英國委員ヨリ

(一) 戰爭開始ニ關スル責任ノ審理ハ戰前永キ年月ニ亘リ歐洲諸國ニ起レル諸事件ヲ取調フル等多大ノ時日ヲ費スヲ要シ處罰ノ時期ヲ失スルノミナラス右責任ハ寧ロ政治道德上ノ問題ニ關シ法律問題トシテ責任者處罰ノ理由トセサルヲ適當トスヘタ

(二) 白耳義及「リュクサンブル」中立侵害ハ條約ノ侵犯ニシテ專ロ國家全體ノ行爲ト目スヘキカ故ニ本問題ニ付

テモ獨帝其ノ他要路者ノ個人的刑事責任ヲ問ハサルヲ至當トス

トノ新案ヲ提出シタルニ大體探決セラレ字句修正ノ爲メ立案委員會ノ議ニ附スルコト、ナリタルヲ以テ獨帝其ノ他最高責任者處罰ノ目的ヲ達セムカ爲メニハ第二分科會ノ目的タル國際法ノ慣例違反トシテノ責任ヲ問フノ外ナキニ至レ

リ

二、國際裁判所設立問題

(イ) 立案委員會ノ報告

然ルニ第三分科會ニ於テハ國際裁判所ノ設立ニ付米國委員ノ斷乎タル反對アリテ意見纏ラサル爲メ(不明)英米佛及羅馬尼委員ヨリ成ル立案委員會ヲ組織シ之レカ審議ヲナシムル事トナシタル處三月四日本委員會ノ報告ヲ討議スル爲メ第二分科會ヲ開催ス

委員會報告ノ要旨ハ違反行爲ニ關スル裁判權ニ付キ國内裁判權(假令ハ犯人カ聯合國ニ俘虜タル場合ノ如キ)ト聯合國代表裁判官ヨリ成ル國際裁判(五大國ヨリ各三名ノ裁判官白希羅塞四國ヨリ各一名ヲ任命ス)トヲ認メ後者ハ

(イ) 犯罪カ聯合國中數ヶ國ノ軍人非軍人ニ對シテ爲サレタル場合(假令ハ獨逸俘虜ノ收容陣地ニ於ケル獨逸官憲ノ措置)

(ロ) 敷國ノ戰爭ニ付指揮權ヲ行使セル高級官憲ニ對シ

(ハ) 敷國ニ亘リ人道違反ノ行爲ヲ命シ又ハ之カ禁遏若ハ緩和ヲ命セサリシ點ヨリシテ前獨帝ニ對シ

(ニ) 其他交戰國ノ法律ニ違反セルモ之ヲ他ノ裁判所ヲシテ審理セシムルヲ適當ト認メタル一切ノ犯人ニ對シ管轄權ヲ認メムトスルニアル處右四點ニ同シ米國委員ハ特ニ讓歩ヲナシ國際法違反行爲ハ凡テ各國軍事裁判所ヲシテ其ノ軍事法規ニ依リ審理處罰セシムベク右軍事裁判所ハ犯罪カ裁判所々屬國領土内ニ於テ爲ナレタルカ若クハ被害者又ハ被害物件カ裁判所ト同一國籍タル場合ニ管轄權ヲ有スベク而シテ一罪カ數國ノ軍事裁判所ニ屬スル場合ニハ關係裁判所ハノ國際裁判所ヲ構成シテ合同審理スヘキ旨ヲ宣言シ居レリ

(一) 米「ランシング」ノ反對

第一分科會ノ席上米「ランシング」氏ハ國際裁判所ハ米國參戰前犯サレタル國際法違反行爲ヲモ審理スヘキコト、ナルヲ以テ米國トシテハ之ニ贊成スルコトヲ得ス尤モ米國ハ敷國ニ亘ル犯罪ニ就テハ關係國際裁判所ハ國際委員

會ノ組織ヲ提議スヘシト述ヘタル處

- 英佛委員ハ國際裁判所設定ノ趣旨ハ啻ニ自國ニ對スル復讐ノ意味ニ非ス希臘塞耳比波蘭等ノ外全世界ニ於テ行ハレタル人道違反ノ行爲ヲ懲罰シ正義ヲ其ノ正當ノ（不明）ニ回復スルニアルヲ以テ國內裁判所ハ此目的ヲ達スルニ充分ノ權威ヲ有セサルヘカラス殊ニ佛國刑法ノ如キ犯罪カ佛國領土内ニ行ハルヲ要スル上國際法違反行爲（例ヘハ「テロリズム」）ハ必シシモ之ニ規定セラレ居ラナルヲ以テ終ニ懲罰ノ手段ナキニ至ルヘキナリ米國中立當時ニアリテモ「ルシタニヤ」號事件ノ如キ人道違反ノ行爲トンテ米國ノ輿論ヲ激昂セシメタルニ非スヤ然ルニ國際裁判所カ同國參戰前ノ犯罪ヲ審理スヘキコト、ナルヲ以テ贊成シ得ストハ諒解ニ苦ム所ナリ米國カ今日迄聯合國ト共ニ血ヲ流シ來タリタルニ最後ノ時期ニ到リ吾人ヲ見捨ツルカ如キコトナカラムコトヲ希望ストテ兩委員トモ國際裁判所特設ヲ最後迄主張スヘシト極言シタルニ對シ
- 米「ランシング」ハ「ルシタニヤ」號事件ハ米國ニ對スル犯罪トシテ米國裁判所ノ管轄ニ屬スヘキヲ以テ本件ニ就テハ議論ヲ爲スヲ好マサルカ必要ノ場合ニハ何等カ適當ノ措置ヲ爲スヘシト述ヘ
- 英國委員ヨリ右報告ヲ再度立案委員會ノ議ニ附セムト提議スルヤ米「ランシング」氏ハ英佛ニシテ飽ク迄其意見ヲ主張スルニ於テハ米國ハ其委員ヲ立案委員會ヨリ脱退セシムルノ外無シト述ヘ決定ヲ見ルニ到ラサリシカ
- 佛希臘兩國委員ヨリ國際裁判權ヲ認ムルトスルモ米國ハ參戰以前ノ犯罪ニ就テハ裁判ノ際留保ヲ爲スヲ得ヘシト云ヒ
- 伊國委員ヨリ各聯合國ハ國際裁判所ニ列スルノ權能ヲ有ストノ意味合ニテ其ノ設定ヲ認メテハ如何ト提議シ
- 結局各委員ノ提議ヲ參酌スヘシトノ條件ノ下ニ米國委員ハ遂ニ本件ヲ更ニ立案委員會ノ議ニ附スルニ同意シ散會セリ

(ハ) 米國ノ反対原因

右會議ノ席上米國カ特ニ最近國際裁判所設定ニ反対スルニ至レル理由ニ付佛國委員「ラルノード」カ安達ニ内話セル所ニ依レハ「ウヰルソン」大統領ハ特ニ歸國以來三回引續キ大統領選舉ニ當選セムトスル希望ヲ抱クニ到リタル處右當選ニ付在米獨逸人等ノ援助ヲ得ルカ爲メ前獨帝皇太子等ノ國際裁判所ニ引致セラル、ニ至ラサル様斡旋シ以テ其ノ心ヲ收メムトスルニ基クモノナル由ナリ

(六) 交通委員會

○交通委員會第二次會合

一、日 時 二月十日

一、出席者 日本ヨリ安達公使佐藤大佐
分科會設置

英國ノ提案タル他國內自由通過ノ原則トナルヘキ協定案ヲ討議シ米國委員ハ大體ニ於テ此案ニ賛成セシカ佛國委員ハ先ツ
國際的ニ取扱フヘキ水路港灣鐵道ノ性質之ヲ適用スヘキ各水路港灣鐵道ヲ決定シ而シテ後自由通過等一般ノ問題ノ講究ニ
移ルヘシト論シ結局二個ノ分科會ヲ設ケ

第一分科會ハ委員十名(五大國各一、小國全體ヨリ五名)ニテ自由通過等一般的問題ノ研究ニ任シ

第二分科會ハ委員九名(五大國各一、小國全體ヨリ四名)ニテ水路鐵道港灣ニ關スル直接ノ審議ヲ爲シ
兩分科會トモ其ノ決定案ヲ作リタル後本委員會ニ之ヲ報告シ決定ヲ求ムルコトトナレリ
第一分科會ニハ安達第二分科會ニハ佐藤出席ノ筈

○交通委員會第一分科會第一次會合

一、日 時 二月十三日

一、出席者 安達公使(委員)佐藤大佐(傍聴者)
一、議 題 國內自由通過協定ニ關スル英國案討議

國內自由通過協定ニ關スル左記ノ議案英國ヨリ提出セラレタルカ之ニ付キ逐條討議開始セラレタリ
伊國委員ヨリ該協定案中 Charges (賦課、同案第二條参照)ノ外ニ特ニ運賃ニ關シテモ同一ノ原則ヲ設クヘキコトヲ提議
シ英佛側ハ之ニ對シ主義上贊成ノ模様ナリシカ若シ愈其ノ通過ヲ見ル場合ニハ我國ノ鐵道港灣等ニモ影響アリト思ハル
尙本件討議遲延ノ爲メ起草委員ヲ設クルコトニ決ス

○國內通過ノ自由ヲ規定スル條約案

第一條 締約國ハ陸路水路(又ハ空中路)ニ依リ各自ノ版圖又ハ其ノ管理スル地方ヲ通過スヘキ人貨物船舶(及航空機)ニ對
スル通過自由ノ主義ニ贊同スルコトヲ宣言ス

依テ各締約國ハ他ノ締約國ニ向ヒ又ハ他ノ締約國ヨリ來リテ自國ノ版圖外ノ二地點間ヲ移動スル人貨物船舶(及航空機)
ヲシテ鐵道航行シ得ヘキ河川運河(又ハ空中路)ノ何れニ依ルヲ問ハス利用シ得ヘキ最便宜ノ通路ニ依リ其ノ版圖ヲ通過
シ及上記ノ目的ノ爲公海ヨリ來リ其ノ領海ヲ通過シテ公海ニ向フヲ得シムル爲充分ナル便益ヲ供與スヘシ

前記ノ人貨物船舶(及航空機)ハ不當ニ停滯セラルルコトナカルヘク又衛生上ノ目的ノ爲必要ナルモノ及其ノ版圖ニ入ル
自國臣民又ハ人民又ハ内國人ノ貨物船舶(及航空機)ニ對シ均シク課セラルヘキモノヲ除クノ外通過ニ關シ何等租稅又ハ
關稅ヲ課シ又ハ制限ヲ付セラルルコトナカルヘシ

第二條 交通機關ノ施設維持又ハ改良其ノ他ノ通過ニ附隨スルコトアルヘキ一切ノ便益又ハ役務ニ關スル賦課ハ其ノ如何
ナルモノタルヲ問ハス運輸ノ狀況(同版圖内ノ他ノ地點間ノ輸送ニ對スル賦課ニ相當スル賦課タルコトヲモ含ム)ヲ考慮
シ相當ナルヲ要シ且通過國ヲ含メル一切ノ締約國ノ人貨物船舶(及航空機)ニ對シ均等ナルヘキモノトス又直接又ハ間接
ニ全行程ノ或部分ニ於テ既ニ輸送用ニ供シ又ハ將來輸送用ニ供スヘキ船舶其ノ他ノ交通機關ノ國籍又ハ原產地ノ如何ニ

ヨリ便益ニ對シ賦課ヲ爲シ又ハ制限ヲ加フルコトナカルヘシ

第三條 締約國ニシテ特殊ノ理由ニ因リ特定ノ通路ニ對シ通過自由ノ原則ノ適用ヲ欲セサルトキハ該締約國ハ別表所定ノ
方式ニ依リ其ノ希望ヲ通告スヘシ爾後ニ於テハ右通告後六箇月以内ニ他ノ締約國ヨリ通過ニ關スル便益供與方ヲ要求ス
ル場合ノ外該締約國ハ其ノ通路ニ依リ通過スルノ便益ヲ供與スル何等ノ義務ヲ負フコトナシ若前記ノ期間内ニ該要求ア
ルトキハ第五條ニ依リ之ヲ措辨スヘシ

第四條 本條約ノ規定ハ戰時ニ於ケル中立國又ハ交戰國ノ權利又ハ義務ニ影響ヲ及ホシ又ハ國際聯盟ノ保障ノ下ニ締結セ
ラレタル條約ノ違反ヲ構成スヘキ何等ノ義務ヲ締約國ニ負ハシムルモノト解釋スヘカラス又締約國ヲシテ其ノ版圖内ニ
入ルコトヲ禁止セラレタル旅客、又ハ公衆ノ衛上若ハ風俗上ノ理由ニ因リ又ハ動植物病豫防ノ理由ニ因リ輸入ヲ禁止セ
ラレタル貨物ノ通過ヲ許容スルノ義務ヲ負ハシムルコトナシ旅客及貨物・善意ニテ通過スルモノナルコトヲ確保スル爲
及水路其ノ他ノ交通機關ノ安全ニ對スル危險ヲ避クル爲相當ノ豫防手段ヲ執ルコトハ締約國ノ自由タルヘキモノトス

第五條 締約國中ノ一國ノ本條約上ノ義務ノ履行ニ關シ生スル問題ニシテ圓滿ナル解決ヲ見サル場合ニハ締約國ノ何レカ
ノ一國ノ請求ニ依リ別則所載ノ方法ニ依ル考量ニ付セラルヘキモノトス
別則中言及セル裁判所ノ判決ヲ遵奉セサルニ因リ又ハ別則ニ定メタル他ノ事由ニ因リ懈怠アル國ハ其ノ懈怠ノ繼續スル
限り本條約ニ依リ當該國ノ人貨物船舶(及航空機)ニ對シ付與セラルル何等ノ特權ヲモ要求スル權利ヲ有セサルモノト

ス

○附 記

英國委員カ本案ヲ提出シタル際空中ニ關スル問題ハ交通委員會ノ權限外ナリト認ムルモ他日同問題ヲ議スルコトアル
場合ニ於ケル規定ノ形式ヲ示サムカ爲該案中ニ括弧ヲ附シテ空中事項ヲモ記入シ置ク旨說明有リタルカ之ニ對シ佛國
委員ニ於テ空中問題ニ關シテハ權限ヲ有セサル旨述ヘタル結果同問題ハ討議セサルコトニ成リタリ

○交通委員會第一分科會第一次會合

一、日 時 二月二十日

一、内 容

自由通過協定ニ關スル英國案並之ニ對シ米佛伊希臘葡萄牙諸國ヨリ各別ニ提出シタル修正意見ニ付對照審議ヲ行ヒタルノミニシテ何等終局的ニ決定シタルコトナシ

○交通委員會第一分科會第三二次會合

一、日 時 二月二十四日

一、内 容

英國ノ提出ニ係ル自由通過協定案ノ審議ヲ了シ英米外四國委員ヨリ成ル起草委員ニ附託セリ

○交通委員會第二分科會第一、二次會合

一、日 時 二月十八日及二十一日

一、議 題 國際河川協定案討議

英佛兩國委員ヨリ特別ニ提出セル國際河川協定案ヲ逐條對照シテ討議シタリ

イ、兩案ノ差異

該提議ニ關シテハ右二案ノ間ニ多少ノ差異アリ

(一) 英國案 ハ國際河川トハ河川又ハ River system ニシテ專ラ其水上交通 (exclusively water borne commerce) に依リ二國以上ノ領土ニ到達シ得ヘキモノヲ云フト定メ又

(1) 佛國案 ハ二國以上ノ領土ヲ分界シ又ハ貫通スル河川ヲ國際河川ト認メ是等河川ニ付テハ自然ノ儘航行シ得ヘキ (naturalement navigable) 地點ヨリ海ニ至ル迄ノ部分ニ限リ本協定ノ規定ヲ適用シ尙國際協定ニ依リ特別ニ指定セラレタル其ノ他ノ河川並運河ニモ之ヲ適用セムトスルモノナリ

ロ、兩案ノ趣旨

(1) 國際河川ニ關シテハ締約國ニ均等ナル航行權ヲ認ムルコト

(1) 専ラ其ノ維持改良費ニ充ツヘキ取立金ノ外如何ナル課金ヲモ徵收シ得サルコト

(ii) 國際委員會ヲ設置シテ當該河川ノ行政ニ當ランムルコト等ヲ定メムトスルニアリ

ハ、米日兩國委員ノ提議

第二次會合ニ於テ

米國委員 ハ本協約案ハ主トシテ航行自由ノ原則ヲ定メムトスルモノナル處米國ト加奈太又ハ「アラスカ」ト加奈太ニ跨ル河川ハ何レモ航行ヨリモ寧ロ漁業灌溉砂金採集等重キヲ爲スモノナルニ付此等河川ハ本協定ノ適用外ニ置クコトトシタシト提議シ尤モ各國船舶ニ對シ航行ノ自由ヲ與フルコトハ勿論ナリト附言シタルニ依リ

日本委員 ハ朝鮮及樺太ニ於テ日本ト支那若ハ露國ノ領域ニ跨ル河川モ其ノ航行ノ狀況ニ顧ミ本協定ヨリ除外セラルヘキモノナルコトヲ述ヘタリ

右米國委員ノ提議ハ伊自等ノ委員ヨリ反對說出ヲ何等決定ヲ見ス次回ノ會議ニ於テ討議ヲ續行スルコトナレリ

(七) 財政委員會

○國際聯盟財政部創設ニ關スル佛國大藏大臣ノ私案要領

(一月二十五日第二回聯合與國總會議ニ提出、同日議事甲並第一次財政委員會議事乙參照)

第一、財政部ノ組織

一、本部所在地

二、構成員數

三、委員長ハ一定強國代表者中ヨリ一年宛交代選舉

四、左記義務ヲ引受クル中立國ハ財政部ニ代表者ヲ出シ又敵國ヨリ受領スヘキ債權ニ關シ聯合國ノ直後ニ若クハ同時ニ

請求ノ權利ヲ認ム可シ

A 領土内ニ於ケル平和條約財政條項ノ執行例ヘハ敵國財產差押

B 國際協約ニ基因スル財政上ノ義務ノ逋脫防止

C 戰爭ノ爲メ權利ヲ横奪セラレタル有價證券所有者ノ保護

次ニ國債ヲ廢棄スル國ハ聯盟ニ加入ヲ許ササルヘシ

五、財政部ノ經費ハ各國カ敵國ヨリ受領スヘキ年賦金ノ一部ヲ以テ之ニ充ツヘシ其ノ割合ハ財政部之ヲ定ム

第二、財政部ノ權限

一、行政權 財政管理ヲ目的トスル總テノ國際委員若クハ組織ヲ統轄ス特ニ聯合國ニ納付スル年賦金支拂保證ノ爲メ平

和條約ニ於テ敵國ニ設置スル收入監視委員ヲ取締ル

二、裁判權

A 平和條約財政條項ノ意義ヲ解釋シ其ノ適用ヲ監督ス

B 平和條約ノ適用ニ關シ國家國際委員等ノ間ニ生スヘキ財政經濟上ノ爭議ヲ裁決ス

C 國際協約ニ基ク財政上ノ義務ノ回避防止

D 支拂期日ヲ決定シ又債務國ニ對シテ支拂延期ヲ許容ス

E 履行強制ノ爲メ債務國ニ課スヘキ追加手段ヲ聯合國ニ要求ス

F 國債ヲ廢棄シ若クハ特定期間内ニ債權者ト協定スルコトナクシテ支拂ヲ停止スル國ハ除名ス

三、財政上ノ權力

A 國際財政委員ノ定ムル權利ノ配分及年賦金ニ關スル見積ヲ取纏ム又關係當事國同意ヲ以テ債權國債務國間ニ於テ決済ヲ便宜ニシ權利轉付ニ效力ヲ賦與ス平和條約ニ定ムル義務ノ不履行ノ國ニ對シテハ此決済ハ強制的ナリ

B 自己ノ受領スヘキ年賦金ノ全部又ハ一部ヲ特定ノ國債ノ擔保トシテ轉付スルコトヲ希望スル國アルトキハ財政部ハ擔保ノ履行確保ノ手段ヲ取ル

C 財政部加入國ニ對シ一定利率ヲ以テ貸付ヲ行フ但該國ノ受領スヘキ年賦金ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ス貸付ハ二箇年以内償還債券ノ形ヲ以テ行フ債券ハ爲替ニ關シテ金ト同一ノ通用力ヲ有ス又各國ノ連帶保證責任ヲ要ス

D 當事國家ノ要求アルトキハ賠償ニ基ク債務(Credit) 決済ノ爲メ多數國家ニ振當ラレタル爲替手形ノ交換所タルベシ

四、其ノ他ノ權力

A 義務ヲ履行セサル國ノ債務ノ解決中斯ル國ノ債權者ニ提供スヘキ擔保ノ性質ノ決定

B 戰爭ニ關係ナキ事情ノ爲ミニ所持ヲ失ヒタル有價證券所持者ノ保護ニ關スル立法統一ノ爲メ國際會議召集

○財政委員會第二次會合

一、日 時 二月十三日自午前十時

一、議事

平和條約中ニ載スヘキ財政問題各國覺書摘要ノ件

前回ノ決議ニ基キ講和會議ニ於テ織スヘキ一切ノ財政問題ヲ列舉スル目的ヲ以テ英佛伊白ヨリ提出ジタル覺書等ヲ各對照シ摘要表ヲ作製スルコトヲ書記局ニ命シ書記局ハ即刻ヨリ着手セリ

○財政委員會第三次會合

一、日 時 二月十七日

一、內容

佛伊兩國委員ノ差支ニ依リ單ニ相談會トシテ書記局ノ作製セル問題摘要ニ付修正整理ヲ行フ

○財政委員會第四次會合

一、日 時 二月十九日

一、內容

前回修正整理シタル覺書摘要表ニ付更ニ各問題ニ付修正整理ヲ行フ

○財政委員會第五、六、七次會合

一、日 時 二月二十日、二十四日、二十六日

一、出席者 森(第五次)巽(第六、七次)

一、議題

甲、覺書摘要表ノ議了並之ヲ本委員會ノ報告書トスルノ件

覺書摘要表ニ付各問題ノ審議ヲ一ト通リ完了ス依テ此修正済摘要表ヲ本委員會ノ報告書トシ二月一日平和會議ニ提出スルコトニ決定セリ(本摘要表ニ關シテ第八次會合記事末尾參照)

乙、塊國公債利子支拂ニ關スル舊塊洪國各政府代表者會議宛電文案

第六次會合ニ於テ五國會議ノ諮問ニ依リ(二月二十四日講和打合會參照)在維納舊塊洪國各政府代表者會議宛テ左ノ電文案ヲ可決シ五國會議ニ送附ス

「聯合國並其ノ與國政府ハ塊地利洪牙利其ノ他關係諸政府間ニ於テ各自ノ負擔スヘキ國際義務ニ關スル協定案不成立ノ爲メ來ル三月二日ヲ支拂期トスル塊洪國債利札ノ支拂不能ニ陷ルノ危險存スルモノト認ム聯合國並其ノ與國政府ハ其ノ關スル限りニ於テハ今回協同資金ヲ以テ三月ノ利札支拂ヲ爲スニ當リ如何ナル措置ヲ取ルト雖右ハ塊洪國債義務ノ分擔ニ關スル平和會議ノ決定ヲ標準トスルコトナカルヘキコトヲ宣言ス」

○財政委員會第八次會合

一、日時 二月二十八日

一、出席者 異

一、內容

甲、平和條約中ニ載スヘキ財政問題一覽表確認

過日ノ決議(前回ノ記事議題甲參照)ニ基キ二月一日五國會議ニ提出セラルヘキ報告書ノ内容ヲ正式ニ確認ス其ノ全文左ノ如シ

「財政委員會ニ於テ考慮スヘキ財政問題トシテ提出セラレタル問題中數多ノ問題ハ講和會議ニ依リ任命セラレタル他ノ委員會ノ權限ニ屬シ既ニ講究中ナルヲ以テ當委員會ハ茲ニ提出スル報告中ヨリ是等ノ問題ヲ除去シタリ

他ノ委員會ニ於テ又ハ最高會議自ラ財政ニ關係アル問題ヲ議スル場合ニハ財政委員會ノ諮問ヲ求メラレ度事ヲ建議ス

第一部、講和條約ニ載セラルヘキ諸問題

(A) 財政問題

第一、或敵國カ其ノ全部ノ債務ヲ辨済シ能ハナル場合ニ於テハ該國家ヲシテ其ノ辨済スヘキ債務ノ順序ヲ自ラ選擇セシムヘキカ並聯合國ニ於テ其ノ順序ヲ決定スヘキカノ問題ヲ考慮セサルヘカラス此問題ハ特ニ左ノ諸點ニ關聯シテ講究スルコトヲ要ス

一、賠償金

二、戰前ノ公債其ノ他ノ債務

三、戰時中ノ公債其ノ他ノ債務

四、國內ニ保有セラル公債其ノ他ノ債務

五、國外ニ保有セラル公債其ノ他ノ債務

六、休戰中ニ生シタル債務

第二、或事情ノ下ニ於テハ債務國ニ對シ國債支拂ノ擔保ヲ保有スル債權者ノ權利ニ變更ヲ加フルコトヲ許スヘキ力並變更ヲ強要スヘキカノ問題モ考慮スヘシ

第三、戦争ニ基キ敵國內ニ於テ賦課セラルル特別諸税納附ニ關スル聯合國民ノ義務ノ問題

第四、領土變更ノ場合ニ於テハ次ノ諸問題ヲ生ス

一、公債義務ノ分擔

二、當該國ノ其ノ他ノ債務ノ分擔

三、貨幣制度ニ關聯スル義務ノ繼承

四、割讓地ニ於ケル國有並其ノ他ノ公有財產移轉ノ條件及國家以外ノ公共團體ノ債務ノ分擔

五、割讓地ニテ營業スル私設會社ニ屬スル公共企業（鐵道ノ如キ）ニ關シ採用スヘキ財政の方策

（B）貨幣問題

第一、講和條約ニ於テ創設セラルル國債ヲ表示スヘキ貨幣ノ決定

第二、現存ノ國債ヲ表示スル貨幣ニ變更ヲ加フヘキヤ否ヤノ問題

第三、領土ノ變更ヨリ生スル貨幣問題

第四、金ノ強制引渡ノ敵國貨幣ニ反ホス影響

第二部、會議ニ提出セラレタル其ノ問題

第一、軍事公債ノ整理、再割當再引受ニ關スル聯合國間ノ協定

第二、外國爲替維持ニ關スル聯合國間ノ暫定的協定

第三、敵國ノ仕拂フヘキ賠償ヲ擔保トシテ資金ヲ求ムル聯合國ニ對スル融通ノ問題

第四、中立國ニ於テ資金調達ニ關スル聯合國間協調ノ問題

第五、露國ニ於ケル聯合國ノ財政上ノ利害關係

第六、敵ニ於テ利權ヲ有スル聯合國國民ノ權利及利益ノ保護

（イ）質權及抵當權ノ擁護

（ロ）港灣水路鐵道ヲ國際的トスルコトヨリ生スル諸問題

第七、土耳其摩洛哥支那等ノ諸國ニ現存スル國際的管理機關ヨリ敵國分子ヲ除去スルコト

第八、

（イ）聯合國國民ト敵國民間ニ存スル戰前債務ノ決済右決済機關設立ニ關スル諸問題

（ロ）閉業清算及敵國財產賣却ニ因ル收入金ノ處分

委員會ハ佛國藏相ノ國際聯盟財政部設立案ニ關シテハ後日別ニ報告スヘシ」

○委員會ノ右報告ニ關スル參考資料

イ、報告中ニ列舉セル問題ハ單ニ講和會議ニ於テ議セラルヘキ問題ヲ拾ヒ上ケタルニ止リ其ノ內容ニ關シテハ何等議決アリシニ非ナルコト本委員會ノ性質ノ然ラシム所ナリ

ロ、第一部A第三ノ問題ハ白耳義ノ希望ニ依リ挿入セル問題ナリ白耳義ノ希望ハ戰時中獨逸ニ納付セル非常課徵金ノ問題ヲ講和會議ニ上シ之ヲ回収スルニアリシト察セラルモ英國委員ノ質問ニ對シ佛國大藏大臣（問題ノ紹介者）ハ將來獨逸ノ財政的負擔ハ莫大トナル可ク聯合國國民ニシテ獨逸ニ入ル者其ノ他ノ關係上之カ負擔ノ責ヲ負フ事アラハ其ノ苦痛大ナルヘキヲ以テ平和會議ニ於テ聯合國國民ノ納稅義務ニ制限ヲ加ヘムト欲スルコト之カ主張ナリト答辯セリ

ハ、Bノ第四ハ英國ノ提案ナリ賠償第二分科會ニ於テ佛國ハ獨逸ノ（脱字）ヲ取ル可キコトヲ主張スルニ反シ米國ノ反對論英國ノ制限說アルニ對照スヘシ

ニ、第二部第一乃至第五ハ委員會ニ於テ最モ議論アリシ處ニシテ始メハ聯合國間ノ問題ナル題目ノ下ニ掲ケラレタリ然ルニ米國委員ハ斷然是等ノ問題全部ヲ除去スヘシ聯合國側ノ問題ヲ報告スル事ハ本委員會ノ目的ニ非スト主張シ

之ニ對シ伊佛兩國委員頑強ナル反對アリ尤モ佛國ハ露國ニ於ケル聯合國ノ利益擁護策ヲ講スルヲ以テ主眼トスルモノ如ク伊國ノ目的ハ戰後ト雖依然聯合國間財政的相互援助ノ政策ヲ繼續シ殊ニ英米等ノ援助ヲ希望スルニ在リ右第一ノ問題ノ意味如何ニ關シ米國委員ノ質問ニ對シ伊國委員ハ聯合國四國若クハ五國（日本ヲモ入ルルノ意ナルヘシ）ノ共同公債ヲ發行シ軍事共同ノ整理ヲ行ヒ以テ利率ノ低下ヲ計ルコト其ノ目的ナリト答タルニ依リ其ノ一班ヲ知ルニ足ル可シ英米委員ハ稍冷笑的態度ヲ以テ之ヲ迎ヘ米國委員ハ聯合國間財政援助ニ關スル交渉ハ總テ華盛頓ニ於テ開始セラレ度巴里ニ於テ交渉スルヲ得ス之レ米國政府ノ訓令ナリト陳ヘタリ英國委員亦聯合國間財政援助ニ關スル交渉ハ總テ華盛頓ニ事件ニ關係アルニ國若クハ數箇國ノ隨意交渉ニ任ス方適當ナリト主張セリ佛國委員ハ自說ノ破レムトスル形勢ニ在ルヲ察シ折衷の考案トシテ是等ノ問題ヲ報告本文（第一部）ヨリ除外シ別ニ第二部ニ其ノ他ノ問題ナル題目ノ下ニ附隨的ニ掲タル事ヲ提議シ各委員ノ承諾ヲ得タル次第ナリ其ノ意味ハ本委員會ハ是等ノ問題ヲ以テ平和會議ニテ考慮スヘキ適當ナル問題ト思考スルモノニ非サルモ重大問題ナルヲ以テ其ノ採否ヲ五國會議ノ裁決ニ委スルノ意味ナリホ、第六以下ハ本委員會ノ權限内ナルヤ否ヤニ付疑ヲ存シタルヲ以テ第二部ニ掲ケタル次第ナリ

乙、國際聯盟財政部設置問題

（イ）佛「クロツツ」藏相私案調査報告（英國委員）

財政委員會ハ右報告書ノ件ヲ議シタルノ後國際聯盟財政部設置問題ニ付前顯佛國大藏大臣私案（本調書第一〇二頁參照）ノ調查報告ノ任ニ當レル英國委員「モンターギュ」（Montagu）ノ提出セル報告書ヲ基礎トシテ審査セリ其ノ報告ハ佛國藏相案ヲ換骨奪胎シテ極メテ無害ナル權限ニ改メントスルモノニシテ其ノ要領次ノ如シ

第一、國際聯盟財政部設置ノ必要ニ付テハ佛國藏相ノ說ニ贊成ス但シ是等ノ永久的財政問題ノ處理ヲ目的トスル國際機關ノ權能ハ平和條約ノ條件履行強制ノ爲メ必要トスル機能トハ嚴ニ區別スヘシ此點ニ關シ次ノ二前提問題ノ保留ヲ必要トス

（一）財政部ハ國際聯盟其モノノ構成員タラサル國家ヲ包含スルヲ得ス又聯盟ノ一員タル國家ヲ除外スルヲ得ス之レ國際聯盟主唱者ニ依リ中立國及敵國ヲモ成ルヘク速ニ加入セシメムト企圖セル事實ニ對照シ極メテ重要ナル點ナリ

（二）財政部ノ權能ハ國際聯盟自身ノ機能ト異ナル性質若ハ種類ノ機能タルコト困難ナリ又當初ヨリ餘リニ決定的タルヘカラス漸次發達ノ餘地ヲ與ヘ置クノ必要ナルコト聯盟自身ノ機能ニ於ケルト同様ナリ

第二、依テ英國委員ノ提議左ノ如シ

國際聯盟財政部ノ設立ヲ必要トス財政部ハ國際聯盟ノ執行委員會（Executive Council）ノ構成員タル總ヘテノ國家ヲ以テ組織ス

第三、財政部カ國際聯盟自身ノ威信ヲ（不明）若ハ之ヲ蠶食スルカ如キコトアルヘカラス又財政部ノ構成及機能ノ故ヲ以テ國際聯盟ノ開設ト共ニ開始セムトスル國際政治ノ新時代ニ於テ財政部カ不當ナル特恵的地位ヲ占ムルモノナリトノ誤解ヲ生セシメサルコト必要ナリ

第四、財政部ノ構成員タル國家ノ代表者ハ當該國大藏大臣ノ任命スル財政専門家タルヘシ尤モ重要問題ニシテ聯盟ノ希望アル時ハ大藏大臣（若ハ之ノ代表者）（脱）スヘキ旨ノ規定ヲ設クヘシ

第五、財政部ノ權能トシテ提議スル處左ノ如シ

（一）國際聯盟ヨリ財政問題ニ關シ諮詢アリタル時ハ之ニ對シ意見ヲ具陳ス

（二）國際爭議スル財政問題ニシテ裁判所ニ交付スヘキモノヲ起草ス

（三）特別ナル財政問題處理上必要ナル國際委員會ヲ指名シ之レヲ監督ス

（四）國際聯盟ノ留意ヲ必要ト認ムル財政問題ヲ調查シ之レニ付執行委員會（Executive Council）ニ建議ス

（五）國際上ノ利害關係アル財政問題討議ノ爲メ國際會議（此會議ニハ聯盟以外ノ國家モ代表者ヲ出スコトアル

第六、佛國藏相ハ平和條約中賠償條項ヲ國際聯盟ノ手ニ委ネムコトヲ提議スト雖モ此點ニ付テハ五國會議ハ既ニ賠償委員會ニ命スルニ執行手段講究ヲ以テシ此目的ノタメ三分科會設ケラレタリ故ニ斯ノ如キ任務ヲ以テ必シモ聯盟ニ不適當ナル任務ナリト斷言スルニハ非ナルモ今此問題ヲ議スルヨリモ賠償委員會ノ報告ヲ待ツコト至當ナリト信ス而シテ賠償ノ執行ヲ財政部ノ任務ノ一トスルニ於テハ重大ナル困難ヲ生スヘシト信ス故ニ資金支拂執行ノ爲メ何等カノ聯合國間ノ機關ヲ必要ト爲サハ少クトモ現在ヨリハ國際聯盟トハ別箇ノモノタルコトヲ要ス尤モ該機關ノ決定若ハ行動ヨリ生スル爭議ハ聯盟ニ對スル訴願ノ目的タルヲ妨ケス又其ノ中ニ財政問題ヲ包含セハ財政部ノ意見ヲ載スルコト有ルヘキ旨規定スルヲ妨ケス（報告以上）

(ロ) 財政部設立ノ必要認定可決

之ニ對シ佛國委員ハ前掲英國委員ノ所見ハ財政部設立ノ必要ヲ認ムルモノナリトテ他ノ委員ノ意見ヲ問フ米國委員ハ財政部設立ノ可否ヲ決スルコト本委員會ノ權限ナルヘキヤニ付キ疑有ル旨ヲ述ヘタルモ佛國委員ハ是レ明カニ本委員會ニ對スル五國會議ノ諮詢事項ノ一ナレハ之ニ對シ決定ヲ與フルコト至當ナリト述ヘ結局國際聯盟財政部設立ノ必要ヲ認ムト云フ動議可決セラレタリ

(八) 經 濟 委 員 會

○ 經 濟 委 員 會 第 三 次 會 合

一、日 時 二月十一日自午後三時

一、議題 该委員會ニ於ケル討議題目左ノ通り決定ス
「講和會議經濟委員會ニ關スル取極草案」

第一條 過渡的措置

戰爭及(脫)ニ繼テ來ルヘキ改造期間中如何ナル經濟的共通措置ヲ必要トルカラ攻究スルコト

甲、荒廢地域復興ノ爲ニ必要ナル原料及其ノ他物資ヲ適當ニ供給スルコト

乙、戰爭ノ爲ニ最モ疲憊ヲ極メタル諸國ヲ經濟的に復興セシムルコト

丙、聯盟國及與同ノ需要ニ對スル供給ニ障害ヲ與ヘサル範圍内ニ於テ中立國及從前ノ敵國ニ對シ給養ヲ爲スコト

第二條 恒久的通商關係

經濟的障壁ヲ撤廃シ且國際通商ニ於ケル通商條件均等主義ヲ鞏固(?)ナル基礎ノ上ニ樹立スル爲ニハ通商上如何ナル措置カ可能ニシテ且望マシキモノナルヤフ攻究スルコト

本件ニ關聯シ特ニ左ノ如キ問題ヲ生スヘシ

稅制ノ改訂並ニ港灣設備及課金ヲ包含スル諸制度ノ改訂

原產地ニ關スル虛偽的記述及記號「ダンピング」等ヲ含ム不正競爭手段特殊ノ場合ニ際シ必要ト認メラルヘキ一時的若クハ其ノ他ノ除外及留保

第三條 契約及要價

次ノ二項ヲ攻究スヘキコト

一一二

(一) 交戦國臣民若ハ人民ヲ當事者トスル戰前ノ契約合意商事上ノ義務及爲替手形ニ關シ如何ナル規定ヲ設クヘキ
ニ關スル規則ニ因リ發生セル損害又ハ侵害ニ對シテハ要債權ヲ兩者ニ認ムヘキヤ否ヤ若シ之ヲ認ムトセハ其ノ基礎如何

ヤ

(二) 徵發清算差押若ハ敵ノ財產營業ノ有價讓渡特許商標營業ニ關スル記述意匠若ハ版權ノ取扱若ハ使用對敵通商
敵國カ當事國タリシ經濟的性質ヲ有スル條約若ハ協約ノ孰レヲ復活セシメ孰レヲ廢棄セシムヘキヤヲ攻究スヘキコト
通的行動ヲ採ルヘキヤヲ攻究スヘキコト

第五條 經濟的條約ノ廢棄若ハ復活
聯盟國及與國ハ戰後當分舊敵國人カ個人若ハ會社トシテ或營業及職業ニ從事スルヲ禁止シ若ハ制限スル爲如何ナル共通的行動ヲ採ルヘキヤヲ攻究スヘキコト

(工業所有權版權郵便電信ニ關スル協約モ亦本項ニ於ケ攻究セラルヘシ)

第四條 舊敵國人

聯盟國及與國ハ戰後當分舊敵國人カ個人若ハ會社トシテ或營業及職業ニ從事スルヲ禁止シ若ハ制限スル爲如何ナル共

通的行動ヲ採ルヘキヤヲ攻究スヘキコト

第五條 經濟的條約ノ廢棄若ハ復活

(工業所有權版權郵便電信ニ關スル協約モ亦本項ニ於ケ攻究セラルヘシ)

(九) 國際勞働法委員會

○國際勞働法委員會第三次乃至第八次會合

(二月十七日巴里發電)

一、場所 佛國勞働省

一、議長 米國委員「ゴンバース」

一、內容 英國案討議

甲、白耳義委員ノ提議

第三回委員會ニ於ケ白耳義委員ハ英國案ハ單ニ常設ノ組織ヲ作ルニ止マルモ更ニ進ンテ平和條約ニ參加セル各國ヲシテ婦人勞働者ノ夜業禁止及黃燐燐寸製造禁止ニ關スル一九〇六年ノ「ベルン」協約及少年勞働者ノ夜業禁止並婦人及少年勞働者ノ一日ノ最長勞働時間限定十時間ニ關スル一九一三年ノ「ベルン」協約案ニ加入セシメムコトヲ希望シタルカ之ニ對シ英國委員ハ出來得ル丈ヶ速ニ第一回國際勞働法會議ヲ開催シ其ノ際此等ノ事項ヲ決スヘク當面ノ問題トシテハ具體的ノ規定ヲ平和條約自體ニ包含セシムル必要ナシト思惟スル旨ヲ答ヘタリ

乙、日本委員ノ留保宣明

第四回委員會ニ於ケ逐條審議ニ入ルニ先立チ日本委員ハ政府ニ請訓スルノ必要上其ノ意見ノ發表ヲ留保スルコトアルヘキ旨宣明シタリ

丙、讀會ノ順序決定

第三回迄ノ討論ヲ第一讀會トシ逐條審議ヲ第二讀會トシ第三讀會トノ間ニ各國委員ハ萬國政府其ノ他相當ノ筋例ヘハ屬主組合勞働者組合)ト打合セヲ爲スヘキコトニ一致セリ

丁、逐條討議(講和會議調書其一第五二頁以下掲載條文參照)

「ブレアンブル」(前文) 討議後廻シトナル

第一條 字句ノ修正アリテ左ノ如ク可決ス

「國際聯盟加盟者タル各締約國ハ茲ニ「ブレアンブル」(前文)ニ列舉シタル事項ヲ促進スルタメ常設ノ機關ヲ設定スルコト及其ノ目的ヲ以テ以下各條ノ規定ヲ承諾ス」

第二條 討論延期

第三條

第一項

本項ニ付テハ日本委員ハ

(一) 履主及労働者ノ組合ナキ諸國ニ於ケル代表者ノ選任

(1) 婦人労働者ノ地位

ニ關シ質問ヲ發シタルカ

(一) ニ對スル原案者ノ答辯ニハ原案ハ組合ノ組織ヲ發達セシムル目的ニテ起案セラレタリ而シテ世界中ノ組合ノ形體ヲ存セサル國ハ極メテ稀ナリ然レトモ若シ已ムヲ得ナル時ハ協約案ノ規定ニ依リ政府ノ責任ヲ以テ履主及労働者ノ代表者ヲ選任スルノ方法ヲ開クヘキ旨答ヘタリ

(二) ニ付テハ委員會ハ婦人ハ男子ト平等ノ原則ノ下ニ代表者ニ選任セラレ得ヘキコトヲ決議セリ
次テ農民代表者ニ就キ討論アリタルカ結局農業労働者モ他ノ労働者ト同様代表セラルヘキモノニシテ顧問選任ノ際ニ農業労働者ノ爲ニ充分ナル機會ヲ與ヘラレ得ルモノトシテ原案ヲ可決ス

第二項

農業ヲ包含セシムルタメ原案 Industrial Organization ノ Industrial 削除說出タルモ英語ニテハ Industrial

Agricultureヲ包含スルモノトシテ保存スルコトナリ佛語ノ翻譯ニテハ Profession ノ語ヲ用ウルコトナリタリ
第三項

顧問ノ員數ニ關スル日本委員ノ質問ニ依リ顧問ヲ二名以下ト限リタルハ各委員毎ニ二名ノ意ニ非ス又集會毎ニ二名ノ意ニ非ス各問題(subject)毎ニ二名ノ意ナルコトトシテ可決ス

本項末段ハ既揭案文中ニハ省略シタルカ修正ノ上左ノ如ク決ス

「顧問ハ總會ノ集會ニ出席スルコトヲ得ルモ委員ノ要求ニ對シ議長ノ特別ノ許可アリタル場合ノ外發言スルコトヲ得ス顧問ハ投票權ヲ有セス」

第四項

左ノ通り可決ス

「委員ハ總會ノ議長ニ宛タル書面ヲ以テ其ノ顧問ノ一人ヲ自己ノ代表者ニ指名スルコトヲ得此場合ニハ顧問ハ發言及投票ヲナスコトヲ得」

第五項

左ノ通り可決ス

「委員及其ノ顧問ノ氏名ハ各締約國政府之ヲ國際勞働局ニ通告スルモノトス尙各顧問ハ現實ニ於テ二名以上ノ多數トナルヘキコト其ノ全員ノ氏名並職務(special qualifications)ハ之ヲ國際勞働局ニ通知スヘキコトヲ可決ス」

第六項

左ノ通り可決ス

「委員及其ノ顧問ノ信任狀ハ總會ニ於テ検査スルコトアルヘシ總會ハ出席委員三分ノ二ノ多數ヲ以テ本條ノ規定ニ依リ指名セラレタルモノニ非スト認メタル委員又ハ顧問ノ參加ヲ拒絶スルコトヲ得」

第四條 第一項

政府委員ノ投票權ニ付米國ノ反對意見アリ結局本問題ハ第十八條ト同時ニ討議スルコトシテ之ヲ延期スルコトトセリ

第二項

本件獨立ノ投票權ノ意義ニ付討論アリ individually ト改メ(脱)又ハ労働者代表者ハ同一國ノ他ノ代表者ノ意見ニ頗著ナク獨立ニ發言シ投票スルノ權ヲ有スルノ意義ニ可決セラレタリ

第二項 可決

第三項 條文左ノ通

「若シ第三條ノ規定ニ據リ總會議ニ於テ締約國ノ委員ノ一人(?)參加ヲ拒絶シタルトキハ本條ノ規定ハ恰モ該委員ノ任命セラレサリシモノト看做ス」

尙本項ニ付討議ノ上政府ハ必要ナル場合ニハ總會ノ各會合ニ付新タル委員ヲ任命スルコトヲ得出席ヲ許容セラレサリシ委員ハ次ノ會合迄再ヒ任命セラルルコトヲ得サル旨可決セラル

第五條

左ノ如ク修正可決

「總會ハ國際聯盟ノ首都又ハ前會合ニ於テ出席委員三分ノ二以上ノ多數決ニ依リ定メタル其ノ他ノ場所ニ於テ開催ス」

尙國際聯盟ノ首都ニ就テハ白耳義委員ヨリ白耳義内ニ置クヘキ旨ノ希望アル旨ヲ述ヘタリ

第六條 原案可決

第七條

第一項

支配部ヲ組織スヘキ員數ニ付テハ白耳義委員ノ提議ニ依リ決議ヲ延期ス

第二項 左ノ如ク修正ス

「支配部ハ時々委員ノ中ヨリ議長ヲ選任シ又其手續ハ自ラ之ヲ設クヘシ支配部ハ自ラ其ノ會合ノ時期ヲ決定スヘシ支配部ノ特別會合ハ支配部委員十名以上ヨリ書面ニ依ル請求アリタル場合ニ之ヲ開ク」

第八條

第一項 字句修正アリシモ意義既掲案文ノ通

第二項 原案可決

第三項 原案可決

第八條 「A」トシテ左ノ規定ヲ插入ス

「國際勞働局ノ局員ハ理事ニ於テ爲シ得ル限り該局ノ有效ナル活動時期等ニ考慮シテ異リタル國籍ノ人ヨリ選ヒ之ヲ任命スヘシ」

第九條

語句ニ修正アリテ左ノ意義トナレリ

「國際勞働局ノ職務ハ工業生活勞働及傭使ノ條件ノ國際調節(International adjustment of conditions of industrial life, labour and employment)ニ關スル各種報告ノ蒐集及分配特ニ國際協約締結ノ目的ヲ以テ總會ニ提出スヘキ事項ノ審查並ニ總會ヨリ命セラレタル特種ノ調査ヲ包含ス」

該局ハ總會ニ附セラルヘキ議案ヲ準備ス

「該局ハ國際的爭議ニ關シ本協約ノ規定ニ依リ要求セラルル任務ヲ實行ス該局ハ國際的利害關係アル工業及傭使

ノ問題ニ付佛文及英文其ノ他支配部カ便宜ト思惟スル國語ヲ以テ定期刊行物ヲ編輯發行ス」

次ニ本條ニ左ノ一項ヲ追加セリ

「且ツ一般ニ本條ニ掲ケタル職務ノ外國際勞働局ハ總會ヨリ依頼セラレタル職務權限及義務ヲ有スルモノトス」
第十條 ハ左ノ通リ

「各締盟國ノ政府當局者ハ工業及傭使ノ問題ニ關シ國際勞働局ノ支配部ニ於ケル當該國ノ代表者又ハ如斯代表者ナキ時ハ此ノ目的ヲ以テ政府ノ任命シタル他ノ資格アル官吏ヲ以テ直接理事ト通信スルコトヲ得」
本條ハ外務省ヲ經由セス政府ノ該當局カ國際勞働局ト直接通信スルコトヲ認ヌタルモノニシテ政府當局以外ノモノト雖利害關係アルモノハ總テ直接ニ國際勞働局ト通信シ得ルヤニ付テハ更ニ特別委員會ニテ是等ノ事項ヲ起案スルコトトナセリ

第十一條

原案ノ通リ可決

尙本條ハ國際聯盟委員會ニモ正式ニ提出セラレ何等異議ナカリシ旨英國委員ヨリ報告セリ

第十二條 字句修正ノ上左ノ通可決

「總會又ハ支配部ノ會合ニ出席スル委員及其ノ顧問ノ旅費及生活費ハ各締盟國ノ支辨トス國際勞働局及總會並ニ支配部ノ會合ニ關スル其ノ他一切ノ費用ハ國際聯盟ノ一般資金ヨリ國際聯盟幹事之ヲ理事ニ交付ス

理事ハ本條ノ定ムル處ニ依リ交附ヲ受ケタル金錢ノ支出ニ付國際聯盟幹事ニ對シ責ニ任ス」

追ツテ總會及ヒ國際勞働局ハ國際聯盟組織ノ完了ヲ待ツテ假ノ規定ヲ設ケ事業ヲ開始スルコトヲ得セシメムトノ希望提出セラレ此種假規定ヲ設クルコトニ關スル追加條項ヲ起案スルコトニ決セリ尙ホ本條第一項ノ委員ニ付テハ政府委員ノ外雇主代表委員及ヒ勞働者代表委員ヲモ包含ス

第二章

第十三條 原案可決

第十四條 日本委員ノ提議ニ依リ左ノ通リ修正ノ上可決セリ

「理事ハ總會ノ書記ト成リ且ツ總會ノ開會ヨリ四ヶ月前ニ各締盟國ニ到著スル様議案ヲ回附スヘキモノトス」

第十五條 左ノ通り修正可決

「議案ノ回附後各締盟國ニ於テハ一種又ハ數種ノ事項ヲ議案中ニ包含セシムルコトニ對シ正式ニ反對ヲ唱フルコトヲ得此反對ノ論旨ハ理事ニ宛テタル理由ヲ記載シタル書面ニ依リ之ヲ開陳スヘク理事ハ之ヲ各締約國ニ回附スヘキモノトシスノ如キ反對アリタル事項ト雖モ會議ニ於テ三分ノ二ノ多數ニ依リ之ヲ審議スルコトヲ可トスト決シタルトキハ議案ヨリ除外セラレサルモノトス」

總會ニ於テ三分ノ二ノ多數ノ投票ヲ以テ一定ノ事項ヲ總會ニラ審議スヘキコトヲ可決シタルトキハ該事項ハ次期ノ總會ノ議案ニ包含セラルヘキモノトス」

第十六條 左ノ通り修正可決

「總會ハ其ノ手續ヲ定メ其ノ議長ヲ選舉スヘシ又一定ノ事項ニ付キ審查報告スヘキ委員ヲ任命スルコトヲ得本條ニ該當スル事項ニ付テハ總會ノ決議ハ單純多數ノ投票ニ依リ之ヲ決ス」

○國際勞働法委員會第九次乃至第十二次會合

一、議題

英國案逐條討議(承前)

○第十六條更ニ修正追加ヲ爲シタリ即チ

(二月二十一日巴里發電)

「第二項 本協約ニ於テ明カニ異リタル規定ヲ設ケタル場合ヲ除ク外凡テノ事項ハ出席委員投票ノ單純多數 (simple majority) ニ依リ之ヲ決ス」

第三項 投票數カ總會々員トシテ任命セラレタル委員數ノ半ハニ達セサルトキハ其ノ投票ハ效力ヲ生セス
○第十七條 原案可決(但用語ハ別ニ起草委員會ヲ設ケ適當ニ修正セシムルコトヲ)
〔總會ハ凡テノ委員並 Technical experts ヲ加フルコトヲ得

専門家ハ Advisers ニシテ投票權ヲ有セス」

○第十八條 第三條及第四條討議

第十八條ノ討議ニ入リタル處之ニ關聯シ前顯第三條第四項(?)ニ付キ英米委員ノ間ニ意見ヲ異ニシ盛ンナル討論ノ末採決ヲ留保シタル總會ニ於ケル政府委員投票權ノ問題再議ニ附セラレ又々盛ンナル討議アリ白國委員ハ豫テ一應提出シ置キタル修正案カ今ヤ専門家勞働組合及社會黨代表者ノ賛成ヲ得タル旨ヲ述ヘ更ニ之ヲ提出シタルカ依然トシテ米國及佛國委員ノ反對アリ特ニ米國委員「ゴンバース」ハ政府委員二名トシ政府代表ニ重キヲ置クハ民本主義ニ反シ且何等理由ナシトテ執拗ニ反對シタル而已ナラス議長ニ於テハ採決スルニ當リ賛否ヲ指名點呼ニ問フヘキ旨ヲ述ヘタリ之ニ反シ英國委員ノ熱心ナル駁擊アリ結局英國案ニ白國修正ヲ加ヘタルモノ十對四票ニテ可決セラレタリ四票ハ米國二名佛國一名(他ノ二名ハ缺席及玖馬一名ナリ可決セル案ニ依レハ政府ハ二名ノ代表者ヲ任命シ投票權ハ一人一票トス即政府委員二票非政府委員二票内雇主代表者一票勞働者代表者一票トナル右ノ結果第三條第一項ハ左ノ通修正セラレ

第四條第一項全文ハ削除セラレタリ

「總會ハ必要ニ應シ少クモ毎年一回之ヲ開ク其ノ委員ハ各締約國ニ付四名宛トシ内二名ハ政府委員他ノ二名ハ雇主及勞働者ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ」

第十八條ノ討議ニ入り

○第十九條 第三項、原案可決

第一項、原文可決(既掲案文中「國際協約ノ形式中ニ包含セラルモノトス」トアルハ原文 Shall be embodied in the form of an international convention. ナ)

○第二項、原案可決

○第三項、語句修正アリ冒頭左ノ通改メラル

「協約カ最後ノ投票ニ於テ三分ノ二以上ノ賛成ヲ得タル時ハ云々」

第四項、「締約國ハ決議事項ニ付」以下ノ部分ハ討論三日ニ亘り結了スルニ至ラス本項ニ關シ伊太利委員ハ左ノ意味ノ修正意見ヲ提出シタリ

「本委員會ノ意見ニ依レハ總會ニ於テ三分ノ二ノ賛成ヲ得テ可決シタル協約ハ總會ニ參與シタル各國ニ於テ一年内ニ之ヲ實行スル義務ヲ負ハサルヘカラス但各國政府總會ノ決定ニ對シ國際聯盟ノ執行委員會(Executive Council)ニ控訴スル權利ヲ有ス執行委員會ハ總會ニ於テ該問題ヲ再議スベキコトヲ命スルコトヲ得總會ニ於テ爲シタル第二回ノ決定ニ對シテハ最早控訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス」

之レニ對シテ先ツ白耳義委員ハ如斯ハ超國家的議會(Supernational parliament)ヲ樹立スルモノニシテ將來ノ組織トシテハ望ムヲ得ヘキモ現在ニ於テ實行シ得ヘカラス又各國ノ經濟狀態ハ決シテ一律ニアラス勞働者保護法ハ結局經濟ノ發達ヲ促成スルモノナルニセヨ經濟のニハ一時生產ヲ阻害スルモノナル故富メル國ニ適用シ得ヘキコトモ後進國貧弱國及白耳義ノ如キ侵略ニ依リ慘害ヲ受ケタル國ニハ採用シ難キモノアルコトヲ述ヘ次テ米國委員モ自國憲法上採用シ難シトナシ日本委員モ亦伊國ノ修正案ニ反對スルト共ニ日本ノ特種ノ地位ヲ説明シ多數ノ國ニ必要ナル改革事項モ之ヲ其ノ儘直チニ日本ニ採用スル時ハ工業ノ爲メノミナラス勞働者ノ爲メニモ不利益ナルコトアリ從テ日本ハ此種改革案ニ就テハ之ヲ承諾シ實行スルニ付猶豫期間ヲ設ケ又ハ本條(?)ニ變更ヲ加フルノ必要アルヘキ旨ヲ述ヘ伊太利委員ハ提案ノ撤回ヲ(脱)佛國委員ハ之レヲ翌日ノ會議ニテ附議シタキ旨ヲ述ヘ結局後廻ハシトナリタリ

○第十九條、語句修正ノ上可決左ノ通り

「上記ノ如ク批准セラレタル協約ハ時々之レヲ國際聯盟ノ幹事局 (Chancery) ニ登録スヘシ而シテ該協約ハ其内ニ規定セラルコトアルヘキ批准ニ關スル條件ノ下ニ於テ之レヲ批准シタル國若クハ後日之レヲ批准シタル國ニ對シ拘束力ヲ生ス」

○第二十條、原案可決左ノ通り

「若シ最後ノ審議ヲ受クル爲メ總會ニ提出セラレタル協約ニシテ投票三分ノ二ノ多數ノ賛成ヲ得サリシ場合ト雖モ締約國中ノ各國ハ其ノ相互ノ間ニ於テ此種協約ヲ採用スル權利ヲ有シ此ノ如ク採用セラレタル協約ハ關係國ノ政府ヨリ之ヲ國際勞働局ノ理事ニ通牒シ理事ハ之ヲ國際聯盟幹事局ニ登錄ス」

○第二十一條、字句ノ修正アリ「支配部ノ定ムル」ヲ「支配部ノ請求スル」ト改メテ可決ス意義ハ既掲案文ニ同シ

参考

國際勞働機關設置ニ關スル英國案第十八條第四項ノ規定ハ同案ノ骨子ニシテ國際勞働總會三分ノ二ノ多數ニ依リ決議シタル事項ハ各國共其ノ立法部ニ於テ否認シタル場合ノ外之ヲ批准施行スヘキ義務ヲ生セシメムトスルモノニシテ是ニ對スル贊否ハ大體ニ於テ國際勞働法制度ニ加入スルヤ否ヤヲ次スルト同様ナル次第ナル處委員會ニ於ケル各委員ノ態度ニ徵スレハ皆少クトモ英國案ニ贊成スヘキハ勿論更ニ進ンテ議會ノ否認權ヲモ奪ヒ絕對ニ各國ニ對シ拘束力ヲ生セシメムトノ意図モアル程ニテ英國案ヨリモ更ニ各國ノ自由ヲ多カラシムル提案ハ容易ニ成立スル見込ナシ只憲法上ノ關係ニ於テ主トシテ米國ノ立場ヨリ本條其儘ノ適用ヲ困難トスル事情有ルヲ以テ文句ノ上ニ修正ヲ試ミ實行ニ支障無カラシメムトセル次第ナリ本邦委員ハ本條項ノ重大ナルニ鑑ミ差シ當リ贊否ヲ留保シ置キタルカ二十一日ノ會議ニ於テ本條ニ關スル討議ハ後廻シトナシ英國案ノ逐條討議ヲ終リタル後更ニ再議スヘキコトニ決定シタレトモ該逐條討議モ追々進捗シ二月末頃迄ニハ一應結了スヘキカト思考セラル

○國際勞働法委員會第十三次會合以後

(1月二十五日巴里發電)

一、議題 英國案逐條討議(承前)

甲、第十八條(承前)

一、第十八條ニ關スル佛國ノ修正意見

イ、提議

前顯第十八條修正ニ關スル伊國案ハ佛國委員其ノ趣旨ニ贊成シテ決議ヲ延期シタルカ右ニ付佛國委員ハ二月二十日ノ會議ニ於テ左記ノ修正意見ヲ提出シタリ

「委員會ハ國際聯盟事業ノ爲ニ假リニ採用セラレタル措置ニ應スル唯一ノ途トシテ第十八條末項ノ條文ニ同意スルモ國際勞働法制ニ關シ可成急速ニ國際討議會(（脱）International Assembly)ヲ設置シ之ニ伊國委員發案ノ如キ權限(後ニ「一定條件ノ下ニ國際法ノ效力ヲ有スヘキ規約ヲナス可キ權限」ト修正)ヲ附加セムコトノ希望ヲ表明ス」

委員會ハ又斯カル議會ニ於テ協約ヲ議決スルニ付各國ノ經濟上ノ利益ノ程度ヲ考量セサルヘカラサルモノト認ム」

ロ、議論

○右ニ對シ英國委員ハ此ノ案ハ長時間ノ議論ヲ要ス可ク委員會ハ理論的決議ヲ爲スヨリモ多クノ重要ナル實際的手段ヲ講セサルヘカラス尤モ佛國委員ノ提案ニ對シテハ委員會ニ於テ或特權ノ制度ヲ設ケムトスルニ非ス特ニ斯カル改革ハ各國民及其ノ代表機關ニヨリ要求セラレタル時初メヲ實行シ得ヘキモノナルコトヲ諒解セラル

ナラハ必スシモ反対スルモノニ非スト述へ

○米國委員モ米國ノ立場ヨリ此種ノ決議ヲ爲スコトニナサムトシタルニ

○佛國労働組合代表者ニシテ佛國委員ノ顧問トシテ出席セル「シユオー」ハ佛國委員ノ要求ト委員會ノ承諾ヲ得テ要領左ノ如キ陳述ヲ爲セリ

「問題ハ單ニ労働社會ノ希望ヲ反響セシムルニ止ラス實際上ノ效果ヲ擧ケムトスル彼等ノ決心ヲ考慮スルヲ要ス此ノ決心ハ既ニ一九一六年七月以來發表セラレタル處ニテ労働組合聯合會ハ其ノ當時今回ノ佛國提案ニ類似セル國際組織ヲ含メル労働法制案ヲ提出シタリ斯ル方針ヲ執ルコトノミニ依リ労働不案(脱)シ得ヘシ労働者ノ法律的保護ニ關スル國際結合ノ單純ナル若返リ(Rejuvenation)ノミニテハ労働者ハ満足セサルヘシ之ハ理想派ノ意見ニ非シテ日々労働社會ノ運動ニ接觸セル實際家等ノ意見ナリ戰爭ノ結果トシテ労働者ノ希望スル處ハ渺クトモ新天地ヲ創設セムトスルニ存ス即此原則ヲ單ニ決議ノ形ニ於テノミナラス將來實行ノ表示トシテ採用セラレタシ然ラナレハ労働者ノ不信ハ益々增加シ現下ノ狀態ニテハ重大ナル結果ヲ惹起スル處アリ」

ハ、尙二三討議ノ後本件ノ決議ハ之ヲ見合セタリ

二、第十八條末項討議

イ、日本委員ノ贊否留保主張

日本委員ハ本項ハ法律上並實際上甚タ重大ニシテ第四回及第十回委員會ニテナシタル聲明ノ如ク其ノ贊否ヲ留保セサル可カラサルモノナリト述ヘタリ

ロ、本案中一箇年以内トアルニ對シ

ア、佛國委員ハ之ヲ最少限トナスコト明カニ爲サムト述ヘタルニ對シ

B、日本委員ハ帝國議會開期ノコトヲ説明シ一年ニテハ不足ナルヘキ旨ヲモ述ヘ置キタリ

ハ、本項ノ決議ニ就テハ玖馬委員モ留保ヲナセリ

ニ、米國委員ノ反對及提議

米國委員ハ憲法上ノ見地ヨリ斯カル規定ハ米國ニテハ豫メ上院ニ諦ルコトナクシテ束縛ヲ受クルコト能ハサルニ依リ米國大統領ハ之ニ署名セル法律(?)又將來モ國際労働總會ニテ決議セラレタル協約(?)ヲ立法部ニテ承認セラレサル限り承諾實行スヘシトモ憲法上ノ理由ニテ承知スルコト能ハストテ左ノ如キ追加案ヲ出セリ

「但此約束カ締約國中ノ或國ノ憲法又ハ組織法ト合致セサルトキハ此限ニ在ラス此ノ如キ場合ニ於テハ斯カル締約國ハ成立セル協約ヲ十分有效ナラシムル立法ノ實現スル様最善ノ努力ヲ爲ス義務アルモノトス」

ホ、英國委員ノ本件ヲ懸案トスヘシトノ提議

本件ノ討議ハ二十二日ニ瓦リ同日英國委員ハ米國委員ノ述ヘタル困難ヲ分拆シ委員會ニテ議定スルコト困難ナレ

ハ本件ハ懸案ト爲シ米國ヲ初メ各國トモ猶ホ専門家ニ諮リ新形式ヲ案出セムコトヲ提議シ

ヘ、白國委員ノ提議

A、提議

白國委員ハ將來各國カ労働會議ノ決議ニ平等(?)ナル拘束ヲ受クルノ必要ヲ說キテ平和會議ニ左ノ提案ヲ爲サムコトヲ發議シタリ

「委員會ハ或國ノ憲法カ労働法ノ問題ニ付或種ノ條約ヲ締結スルコトヲ許サルモノアルヲ認メ此事情力國際労働立法ヲ行フ爲一ノ機關ヲ設クルコトニ對シ妨害トナレルコトヲ講和會議ニ通告スヘシ故ニ委員會ハ一同(?)國際労働總會ヲ開催スルニ先チ斯カル國ニ於テ労働事業ニ關シ國際的義務ヲ負擔スルノ權限ヲ獲得シ得ル様必要ノ手段ヲ取ルヘキ旨ノ宣言ヲ爲スコトヲ要求セラレタシトノ趣意ヲ平和會議ニ請求ス」

B 取消

右提案ニ對シテ討議ノ後白國ハ發議ヲ取消スニ至リタリ
ト、同項ノ討議ハ後廻シトナル

乙、第二十二條

白國委員ノ修正案ニ就キ討議ノ上多少ノ變更ヲ加ヘテ原案ニモ之ヲ插入スルコトニ決セリ即前掲ノ本件ニ關スル案文
中「若シ」ノ次ニ「承認セラレタル雇主又ハ勞働者ノ組合ヨリ (by a recognized employers' or workers' organization) ヲ加フ
丙、第二十三條、相當期間内トアルヲ例ヘハ二箇月以内ト云フ如ク限定セムトノ白國委員ノ提議アリタルモ否決セラレ
原案ノ通可決ス

○國際勞働法委員會其後ノ經過

(三月一日及三日巴里發電)

甲、英國案逐條討議

第十八條(承前)

同條末段ニ關シ英國委員ヨリ米國ノ立場ヲ斟酌シテ更ニ提出シタル修正案ニ對シ米國委員ハ尙満足セス別個ノ提案ヲ
爲シタルモ贊成者無ク英國案ハ米國委員ノ反対並日本及伊國委員ノ留保アリタルモ他ノ諸國委員ハ贊成シ多數ニテ採
用ト宣言セラレタリ即左ノ通

第四項 「議會カ協賛ヲ與ヘサル場合ノ外」ヲ削リ末尾ニ左ノ文句ヲ加フ

「但シ協約カ「コムバテント、オーソリチー」ノ合意ヲ得サリシ場合ハ此限ニ在ラス (unless convention fails to obtain
the consent of the competent authorities)」

第五項トシテ左ノ一項ヲ加フ

「聯邦國家ノ場合ニ於テ協約ニ關スル(不明)ノ立法權ニシテ一聯邦ヲ組織スル州ノ議會ニ在ル時ハ締約國ハ協約ヲ
各州ニ通知シ各州ハ各別ニ協約ニ參加スル事ヲ得斯ル州ノ參加ノ通告カ聯邦國家ノ政府ヲ通シテ各自ニ爲サレタル
時ハ其州ニ關シテハ協約ノ批准アリタルモノト看做ス」

第二十四條

本條ニ關シ白國委員ヨリ國家ノ外委員自身ニモ苦情ヲ提出シ得ルコトヲ認メ又支配部ニ付テハ國家又ハ委員ヨリ苦情
ノ提出アリタル場合ノ外自己ノ發意ニ依リ查問委員ノ活動ヲ要求シ得ルコトヲ認メムトノ提議アリ其ノ結果左ノ一項
ヲ追加スルコトヲ可決シタリ

「支配部ハ自己ノ發意ニ依リ又ハ總會ノ委員(デレグート)ヨリ苦情ヲ接受シタル時ハ上記ト同一ノ手續ヲ執ルコト
ヲ得」

第二十五條

イ、米國委員ノ質問

本條ニ關シ米國委員ヨリ「獨立ノ地位ニアルモノ」ノ意義ニ付質問アリタルニ對シ英國委員ヨリ言葉ノ嚴正ナル意味
ニ於テ雇主ニモ非ス又雇人ニモ非サル知名ノ人物ヲ指シタルモノニシテ例ヘハ退職ノ法律家カ當面ノ各種經濟問題
ニ關シ公平ヲ以テ知ラレタル故ニ專任(脫)命アリ

ロ、白國委員ノ修正提議

次ニ白國委員ヨリ修正意見アリテ可決セラル即第三項トシテ左ノ通插入
「任命セラレタル人物ノ資格ハ支配部ノ審査ニ附セラル支配部ハ出席委員三分ノ二ノ投票ニ依リ本條ノ要求スル資
格ヲ有セスト認メラレタル人物ノ任命ノ承諾ヲ拒絶スルコトヲ得」

ハ、波蘭委員ノ主張

波蘭委員ヨリ查問委員ノ議長ハ獨立ノ地位ニアルモノヨリ選任セラル可キコトヲ主張シ白國及伊國委員ノ贊成アリタルモ英米兩國委員ハ之ニ反対シ英國委員ヨリ查問委員ハ一國政府カ協約ニ依ル義務ノ遵守ヲ怠リタル場合ニ之ヲ審査スルモノニシテ雇主ト労働者トノ間ニ於ケル争ノ判定ヲ爲スモノニ非スト反駁シ採決ノ結果波蘭委員ノ提案ハ敗レタリ

第二十六條

辭句ノ修正ニ付テハ起卿委員會ニ附スルコトトシ原案可決シタリ

第二十七條

本條ニ關シ

- 米國委員ハ制裁問題ハ調印國ノ義務ニ關スル第十八條ノ問題カ決定セラル迄留保セラルヘキコトヲ求メタルカ
- 佛國委員ノ顧問タル「ジユオーネ」氏ハ之ニ反対シテ第二十七條ニ對シテハ直ニ決定ヲ爲スヘキコトヲ主張シ制裁ノ規定ハ最重要ニシテ之無クシテハ國際勞働法制ノ統一(Uniformity)ヲ得ムトスル總テノ努力ハ無效タルヘキ事ヲ主張セリ
- 白國委員モ亦「ジユオーネ」ノ說ニ賛成シ之ハ國家ニ對シ國際勞働法制ノ承諾ヲ強制セムトスル手段ノ問題ニアラスシテ協約印後約束ヲ守ラサリシ政府ニ對スル制裁ノ問題ナリ此手段ハ慎重ニ考量セラレタルモノニシテ處罰條項ノ適用カ國際聯盟ノ權限(ディスクレッショニ)ニ委セラレタル以外ニ何等處罰規定ノ設ケラレサリシコトハ白國雇主カ意外トシテ白國委員ニ注意シタル所ナリ然レトモ目下ノ處ニテハ處罰ノ性質ヲ規定スルコトノ不可能ナルコトハ英國委員ト見解ヲ同ジウスル所ナリ、故ニ本條ニ付テハ次ノ如キ修正ニ止メタル旨ヲ述ヘタリ即チ本條第一項「非行有ル國ニ對シ執ルヘキ經濟的措置(The measures if any of an economic character against a defaulting state)」ト爲ス之ニ次イテ

第二十八條

- 米國委員ハ再ヒ本條ノ延期ヲ主張シ提案カ全權ノ承認ヲ得難カルヘキコトヲ述ヘタルカ
- 英國委員ハ之ヲ駁シ聯邦制度ノ國ニ對シテモ他ノ諸國ト同様ニ有效ニ拘束スヘキ方法ヲ案出セサルヘカラス單ニ困難ニ打勝ツコトヲ得ナルヘシトノ假定ハ之ヲ認ムル能ハスト論駁シ
- 採決トナリ本條ハ白國委員ノ修正ノ通り可決セラレタリ

- 第二十九條 同條中裁判所ノ構成ニ付テハ差當リノ措置トシテ海牙常設仲裁裁判所裁判官ヲ利用セムトスルコトニ關シ討議有リタル後第三項ニ付テハ「國際紛爭平和處理協約ニ依リ」以下ヲ削リ左ノ語句ヲ加フルコトニ修正可決セリ
- 「二人ノ委員其中一人ハ苦情提出國ヨリ一人ハ苦情ヲ提出セラレタル國ヨリ他ノ一人ハ國際聯盟ノ執行局ヨリ選任セラレタル委員ヲ以テ組織シタル仲裁裁判所トス」

- 第三十條 本條ニ關シテハ第十八條ト關聯セルタメ同條ノ語句ニ付キ決定有ルマテ討論ヲ延期ス
- 第三十一條 同條ニ關シ英國委員ハ左ノ修正案ヲ出シ可決シタリ

「英國領土(British dominion)及印度ハ持立(Separate)ノ締約國ノ如ク本協約ノ下ニ於テ同一ノ權利義務ヲ有ス前項ノ規定ハ締約國ノ何レノ植民地又ハ屬領地(Possessions)ナリトモ該國ノ申出ニ依リ國際聯盟執行局ニ於テ完全ニ自治ヲ有スト認メラレタルモノニ之ヲ適用ス

本協約ノ規定ノ結果採用セラレタル協約ハ完全ニ自治ヲ有セサル植民地屬領地又ハ保護國ニハ之ヲ適用セス但シ該締約國カ協約ヲ適用スル事ヲ明ニ決定シ且各締約國カ完全ニ自治ヲ有セサル植民地屬領地又ハ保護國ニ斯ル協約ヲ適用スル事ヲ考慮スヘキ旨ヲ約束シタル時ハ此限ニ在ラス」

第三十六條

同條ニ關シ英國委員ハ左ノ修正案ヲ出シ可決セリ

「出席委員ノナシタル投票三分ノ二ノ多數ニ依リ總會ニ於テ採用セラレタル本協約ノ改正ハ國際聯盟執行局ヲ構成スル代表者ノ諸國及國際聯盟ノ代表部（Body of Delegates）ヲ構成スル代表者ノ諸國ノ四分ノ三カ批准シタル場合ニ其ノ效力ヲ生ス」

第三十八條

同條ニ關シテハ左ノ通修正可決セリ

「第一回總會ハ一千九百十九年十月之ヲ開ク、場所及ヒ議案ハ本案添附ノ「スケジュール」ノ定ムル所ニヨル

第一回總會ノ召集及ヒ組織ニ關スル手筈ハ「スケジュール」ニ於テ指定セラレタル政府之ヲ爲ス該政府ハ總會ニ提出ス可キ書類ノ準備ニ付「スケジュール」ニ記載シタル如ク組織セラレタル國際委員會ノ援助ヲ受ク

第一回會合及ヒ其ノ後ト雖モ國際聯盟カ一般資金ヲ設ケ得ル（不明）ニ開カル會合ノ費用ハ萬國郵便聯合ノ國際局ノ費用分擔法ニ從ヒ締約國之ヲ負擔ス

國際聯盟ノ設立セラル迄ハ前數條ノ規定ニ從ヒ聯盟幹事ニ宛ツヘキ總テノ通信ハ國際勞働局理事之ヲ保存シ國際聯盟幹事ノ任命セラレタル場合ニ理事ハ之ヲ幹事ニ引繼クヘキモノトス常設國際裁判所ノ設立セラル迄ハ本協約中ノ國際裁判所ハ國際聯盟ノ執行局ノ任命シタル三人ヨリ成ル裁判所トス」

尙ホ第一回總會ノ場所ニ就テハ英國委員ヨリ華盛頓ヲ推薦シ未タ決議ニ至ラサルモ他ノ委員ニ於テ大ナル反對意見ナキ様子ナルヲ以テ結局同地ニ決スルコトト認メラル

第七條ニ關スル附則ニ就テハ白國委員修正提議アリ英國委員ハ之ヲ斟酌シテ折衷案ヲ出シ結局支配部ヲ構成スル二十

第七條ニ關スル附則ニ就テハ白國委員修正提議アリ英國委員ハ之ヲ斟酌シテ折衷案ヲ出シ結局支配部ヲ構成スル二十

四名ノ委員ノ内政府委員十二名其ノ内八名ハ主要工業國（Chief industrial country）タル締約國ヨリ（主要ナル工業國如何ハ國際聯盟ノ執行局ニ於テ決ス）他ノ四名ハ右八箇國ヲ除キタル他國ヨリ選出スルコトト可決シタリ
（英國案逐條討議以上但第三十條以下ハ茲ニ掲ケタル三箇條ヲ除ク外電報未着ナレトモ次ニ掲クル修正全文ニ依テ
経過ノ大體ヲ知悉シ得ラルヘシ）

右英國案第二讀會（逐條討議）ハ二月二十八日終了シタルカ修正セラレタル英國案全文左ノ通

○常設國際勞働局設置ニ關スル協約案

（注意 該案中ニハ後日ノ會議ニ於テ更ニ修正セラレタルモノアリ）

前文

國際聯盟ハ世界ノ普遍ノ平和ヲ樹立スルコトヲ目的トスルモノニシテ而モ斯ノ如キ平和ハ唯社會的公正ヲ基礎トスル場合ニ於テノミ之ヲ樹立スルヲ得ヘキモノナルコトヲ慮リ多數ノ人民ニ對シテ不正ニシテ酷薄ナル現在ノ勞働條件ハ世界ノ平和ニ對シ不安ヲ釀生シ之ヲ脅威スルノ素因タルヘク例ヘハ一日又ハ一週ニ於ケル勞働時開ノ最大限度ノ規定ヲ含メル勞働時間ノ規律、失業ノ費防、最低賃金ノ制定、職業ニ起因スル疾病及災害ニ對スル勞働者ノ救護、少年及婦人勞働者ノ保護、老廢者ニ對スル備救、本國以外ノ諸國ニ於テ從業セル勞働者ノ利益ノ保護、組合設立自由ノ原則ノ公認及其ノ他ノ方法ノ如キ諸般ノ條件ノ改善ヲ以テ刻下ノ急務ナリト信シ且若一國ニ於テ勞働ニ關スル人道的ノ條件ヲ採用スルヲ怠ルコトアラハ是則他ノ諸國ニ於テ斯ノ如キ條件ノ改善ヲ企圖スル上ニ付障害ヲ及ス所以ナルコトヲ思ヒ公正ト人道トノ念慮ニ基キ世界ノ恒久ノ平和ヲ確立スルノ目的ヲ以テ各締盟國ハ茲ニ左記ノ協約ヲ承認ス

第一章 組 織

第一條 國際聯盟ノ加盟者タル各締約國ハ前文ニ舉示シタル事項ヲ達成セムカ爲茲ニ常設機關ヲ設置スルコトトシ且其ノ

目的ヲ以テ茲ニ以下各條ノ規定ヲ承認ス

第二條 常設機關ハ(一)各締約國代表者ノ總會及(二)第七條ニ規定スル支配部ニ依リ統制セラルヘキ國際勞働局ヲ以テ成立ス

第三條 各締約國代表者ノ總會ハ毎年一回及必要アルミニ之ヲ開ク總會ハ各締約國ニ就キ四名宛ノ代表者ヨリ構成セラルヘク就中二名ハ政府委員タルヘク他メ二名ハ各當該締約國ニ於ケル使用者及勞働者ヲ代表スルモノタルヘシ

委員ハ會議議案ノ各事項ニ付二名以内ノ顧問ヲ帶同スルコトヲ得各締約國ハ當該國內ニ於テ最善ク傭主又ハ勞働者ヲ代表スル産業的團體ノ存在スルニ於テハ右團體トノ協議ニ依リ非政府委員及顧問ヲ選任スヘキコトヲ約定ス

各委員ハ各會議ニ付二名以内ノ顧問ヲ帶同スルコトヲ得顧問ハ之ヲ帶同セル委員ノ要求アリ且第十七條ニ依リ選任セラル議長ノ特別ノ許可アル場合ノ外發言スルコトヲ得ス

委員ハ議長ニ宛タル書面ヲ以テ其ノ顧問ノ一名ヲ自己ノ代表者ニ指名スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該顧問ハ投票ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

委員及其ノ顧問ノ氏名ハ各締約國政府ニ於テ之ヲ國際勞働局ニ通告スヘシ

委員及其ノ顧問ノ信任狀ハ總會ニ於テ之ヲ審査スルコトアルヘシ總會ハ出席委員三分ノ二ノ多數ニ依リ本條ノ規定ニ基キ指名セラレタルモノニ非スト認メタル委員又ハ顧問ノ參加ノ拒絶スルコトヲ得

第四條 各委員ハ總會ニ附議セラレタル一切ノ事項ニ付各個的ニ投票スルノ權利ヲ有スヘシ

締約國中ノ一國カ其ノ任命權ヲ有セルニ拘ラス非政府委員ノ人ヲ任命セサル場合ニ於テハ他ノ非政府委員ハ總會ニ列席シ及發言スルコトヲ得ルモ投票スルコトハ之ヲ許サレサルヘシ

第三條ノ規定ニ依リ總會カ締約國ノ委員ノ一人ノ參加ヲ拒絶シタル場合ニ於テハ當該委員ハ之ヲ任命セラレナリシモノト看做シ本條ノ規定ヲ之ニ準用ス

第五條 總會ハ國際聯盟ノ首都又ハ前回ノ會議ニ於テ出席委員三分ノ二以上ノ多數決ニ依リ定メラレタル右以外ノ場所ニ於テ之ヲ開催ス

第六條 國際勞働局ハ聯盟組織ノ一部トシテ國際聯盟ノ首都ニ設置セラルヘシ

第七條 國際勞働局ハ附屬規程ニ依リ任命セラレタルモノヨリ成立セル支配部ノ統制ヲ受クヘキモノトス支配部ハ時々部員ノ中ヨリ議長ヲ選任スヘク且自カラ其ノ手續ヲ定メ及其ノ會合ノ時期ヲ決スヘシ

特別會議ハ支配部部員十名以上ヨリ書面ニ依ル請求アリタル場合ニ於テハ之ヲ開クヘキモノトス

第八條 國際勞働局ニ理事ヲ置ク理事ハ支配部ニ於テ任命セラルヘク支配部ノ指揮ヲ受ケ國際勞働局ノ事務並依囑セラルタル他ノ任務ニ付責ヲ負フ

理事又ハ其ノ代表者ハ支配部ノ各會議ニ出席スヘシ

第一次ノ理事カ任命セラルルニ至ル迄其ノ職務ハ附屬規程ニ依リ指名セラレタル者ニ依リ執行セラルヘシ

第九條 國際勞働局ノ局員ハ理事ニ於テ該局ノ有效ナル活動ニ付考慮ヲ加ヘ爲シ得ル限り各異國籍人ヨリ之ヲ選任スヘシ

第十條 國際勞働局ノ職務ハ產業生活及勞働條件ノ國際的調節ニ關スル情報ノ蒐集並分配及特ニ國際協約締結ノ目的ヲ以テ總會ニ提出セラルヘキ事項ノ審査並總會ヨリ命セラレタル特殊ノ調査ヲ爲スニ在ルモノトス

該局ハ總會ニ附セラルヘキ議案ヲ立案ス

該局ハ國際的爭議ニ關シ本協約ノ規定ニ依リ要求セラルル任務ヲ實行ス

該局ハ國際的利害關係アル產業及傭使問題ニ付佛文及英文其ノ他支配部カ適當ト認ムル國語ヲ以テ定期刊行物ヲ編輯發行スヘク且一般ニ本條ニ掲ケタル職務ノ外國際勞働局ハ總會ヨリ依囑セラレタル職任及權限ヲ有スルモノトス

第十一條 各締約國ノ政府當局ハ產業及傭使ノ問題ニ關シ國際勞働局ノ支配部ニ於ケル當該國ノ代表者又ハ如斯代表者ナキ場合ニ於テハ此ノ目的ヲ以テ政府ノ任命シタル他ノ資格アル官吏ヲ以テ直接理事ト通信スルコトヲ得

第十二條 國際労働局ハ其ノ權限内ノ事項ニ付國際聯盟幹事ノ援助ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 各締約國ハ總會又ハ支配部ノ會議ニ出席スル當該委員及其ノ顧問ニ對シ旅費及手當ヲ支給スヘシ

總會並支配部ノ會議及國際労働局ニ關スル前項以外ノ費用ニ付テハ國際聯盟ノ一般資金ヨリ國際聯盟幹事之ヲ理事ニ交付スヘキモノトス

理事ハ本條ノ定ムル所ニ依リ交附ヲ受ケタル金錢ノ支出ニ付國際聯盟幹事ニ對シ責ニ任ス

第七條 附 則

國際労働局ノ支配部ハ政府ノ代表者十二名及使用者ヲ代表セル總會ノ委員ニ付選任セラレタル者六名並労働者ヲ代表セル總會ノ委員ニ付選任セラレタル者六名ヲ以テ組織スルモノトス政府ノ代表者十二名中八名ハ主要工業國タル締結國ヨリ選定セラルヘク他ノ四名ハ右ノ以外ノ諸國ヲ代表セル總會ノ委員ニ付選定セラルヘシ

各締約國ハ其ノ領土及殖民地ノ自治ナルト否トヲ問ハス之ト共ニ一人以上ノ部員ヲ選任スルコトヲ得ス

主要工業國ノ何レカニ就テハ國際聯盟ノ執行局之ヲ決定ス

支配部部員ノ任期ハ之ヲ三年トス缺員ノ補充方法其ノ他之ニ類似ノ事項ハ總會ノ承認ヲ經テ支配部之ヲ定ム

第二章 手 繢

第十四條 總會ノ議案ハ支配部ニ於テ各締約國政府其ノ他第三條ノ目的ノ爲ニ認メラレタル代表的團體ノ爲シタル提議ニ付審議シ之ヲ定ムヘシ

第十五條 理事ハ總會ノ書記トナリ且總會ノ開期四箇月前ニ各締約國ニ對シ議案ヲ送達スヘキモノトス

第十六條 各締約國ハ議案中一定ノ事項ヲ包含セシムルコトニ對シ正式ニ反對スルコトヲ得右反對ノ論旨ハ理事ニ宛テタル理由書ニ依リ之ヲ表明スヘク理事ハ之ヲ各締約國ニ送達スヘキモノトス尤前段ノ反對アリタル事項ト雖三分ノ二ノ多數ノ投票ヲ以テ之ヲ審議スヘキモノトシタル場合ニ於テハ議案ヨリ之ヲ削除セラルコトナカルヘシ

總會カ出席委員三分ノ二ノ多數ノ投票ヲ以テ一定ノ事項ヲ總會ニ於テ審議スヘキ旨ヲ可決シタルトキハ該事項ハ次期ノ總會ノ議案ニ加ヘラルヘキモノトス

第十七條 總會ハ自カラ其ノ手續ヲ定メ且其ノ議長ヲ選舉スヘク及一定ノ事項ニ付審查報告ノ任ニ當ルヘキ委員ヲ任命スルコトヲ得

本協約ニ於テ明ニ異タル規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外一切ノ事項ニ付テハ出席委員投票ノ單純多數ニ依リ之ヲ決スヘシ

如何ナル場合ニ於テモ投票總數カ總會ノ出席委員ノ半數ニ達セサルトキハ投票ハ其ノ效力ヲ生スルコトナカルヘシ

第十八條 總會ハ特別委員會ニ於テ専門委員ヲ參加セシムルコトヲ得

専門委員ハ顧問トシテ投票權ヲ有セサルモノトス

第十九條 總會ノ議案ノ事項ニ關シ或提案ヲ採決決定シタル場合ニ於テハ右提案ハ國際協約案中ニ包含セラルヘキモノトス

前項ノ協約案ハ最終ノ審議決定ニ附スル爲更ニ總會ニ提出セラルヘキモノトス

協約カ最終ノ投票ニ於テ三分ノ二以上ノ賛成ヲ得タルトキハ總會ニ依リ之ヲ採用セラルヘク而シテ總會ノ議長及理事ノ署名ニ依リ證明セラレタル該協約ノ正本ハ之ヲ國際聯盟ノ幹事ニ寄託セラルヘキモノトス

各締約國ハ當該協約カ關係廳ノ合意ヲ得サリシ場合ノ外總會終了後一年以内ニ右協約ノ正式ノ批准ヲ通告シ且其ノ實行ニ付必要ナル手續ヲ講スヘキコトヲ約定ス

聯邦國家ノ場合ニ於テ協約ニ關スル立法權カ聯邦ヲ組織スル各州ノ議會ニ在ル場合ニ於テハ締約國ハ協約ヲ各州ニ通知スヘク各州ハ各別ニ右協約ニ參加スルコトヲ得ルモノトス右參加ノ旨聯邦政府ヲ通シテ理事ニ通告セラレタルトキハ其ノ州ニ關シテハ該協約ハ批准セラルレタモノト看做ス

第二十條 批准セラレタル協約ハ理事ニ於テ之ヲ國際聯盟ノ幹事局ニ登録スヘク而シテ右批准セラレタル條約ニ規定セラルコトアルヘキ條件ニ從ヒ之ヲ批准シタル國若ハ後日之ヲ批准スヘキ國家ニ對シ拘束力ヲ有スヘシ

第二十一條 最終ノ審議ニ付スルカ爲ニ總會ニ提出セラレタル協約ニシテ出席委員ノ投票三分ノ二ノ多數ノ賛成ヲ得ナリシ場合ニ於テモ締約國中ノ各國ハ各其ノ國家内ニ於テ右協約ヲ採用スルノ權利ヲ有ス斯ク採用セラレタル協約ハ當該國政府ヨリ之ヲ國際勞動局ノ理事ニ通告スヘク理事ハ之ヲ國際聯盟幹事局ニ登録スヘキモノトス

第二十二條 各締約國ハ其ノ當事者タル協約ノ規定ノ實施ニ付執リタル措置ニ關シ國際勞動局ニ對シ年々報告ヲ爲スヘキコトヲ約定ス此ノ報告ハ支配部ノ請求スル一定ノ様式ニ依リ且一定ノ事項ヲ包含スヘキモノトス理事ハ右報告ノ概要ヲ次期ノ總會ニ報告スヘシ

第二十三條 傭主又ハ労働者ノ組合ヨリ締約國中ノ或國カ其ノ法權區域内ニ於テ其ノ當事者タル協約ニ付如何ナル關係ニ於テナリトモ現實ニ遵守スルコトヲ怠リタル旨國際勞動局ニ對シ申告シタル場合ニ於テハ支配部ハ此ノ申告ヲ當該被告國ニ移牒シ且同國ニ對シ之ニ付其ノ適當ト認ムル陳述ヲナスヘキ旨催告スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ被告國ニ於テ相當ノ期間内ニ陳述書ヲ提出セス又ハ之ヲ提出スルモ支配部カ充分ナリト認メナル場合ニ於テハ該部ハ右ニ關スル報告及陳述書有ルトキハ合セテ之ヲ公表スルノ權利ヲ有スヘシ

第二十五條 締約各國ハ他ノ締約國ニシテ協約ヲ現實ニ遵守セサルモノト認ムル場合ニハ國際勞動局ニ異議ヲ提起スルコトヲ得

支配部ニ於テ右異議ヲ以テ審理委員ノ審理ニ附スルヲ適當ナリト認ムル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ從ヒ先之ヲ當該被告國ニ移牒スルコトヲ得

若支配部ニ於テ該異議ヲ以テ被被告國ニ移牒スルノ必要ヲ認メサルカ又ハ右移牒ヲナシタルニ拘ラス之ニ對シ相當ノ期間内ニ該異議ノ提出國ニ於テ充分ナリト認ムル陳述書ヲ受領セサル場合ニ於テハ支配部ハ該異議ヲ審査シ之ニ關スル報

告ヲナスカ爲ニ審理委員ノ任命ヲ要求スルコトヲ得

資格ヲ有セス認メタル者ノ選任ヲ拒絶スルコトヲ得

支配部ハ自己ノ發意ニ依リ又ハ總會ノ委員ヨリ異議ヲ受理シタルトキハ上記ト同一ノ手續ヲ執ルコトヲ得

第二十三條第二十四條又ハ第二十五條ニ依リ申告提起セラレタル事案カ支配部ニ於テ審理セラルル場合ニ於テ異議ヲ被レル國家カ支配部ニ其ノ代表者ヲ有セサルトキハ右國家ハ支配部ニ於ケル當該事案ノ審理手續ニ參加スルカ爲其ノ代表者ヲ差遣スルコトヲ得

事案審理ノ期日ハ異議ヲ被レル國家ニ對シテ之ヲ通告セラルヘシ

第二十六條 審理委員ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ組織スヘシ

各締約國ハ本協約實施ノ日ヨリ六月以内ニ產業上經驗アル者三名就中一名ハ使用者ノ代表者一名ハ労働者ノ代表者及他ノ一名ハ獨立ノ地位ニアル者ヲ選任スヘク審理委員ハ右選任セラレタル者ノ各名簿ニ依リ選定セラルヘシ前項被選任者ノ資格ニ付テハ支配部ハ其ノ出席部員ノ投票三分ノ二ノ多數ニ依リ本條ノ要求ニ適セサル支配部ノ要求アル場合ニ於テハ國際聯盟ノ幹事ハ各名簿ヨリ一名宛即二名ノ者ヲ選任シテ審理委員ヲ組織シ内一名ヲ委員長ニ指名スヘシ但右三名ハ何レモ異議ニ直接關係アル國ニ於テ選任シタルモノタルコトヲ得ス

第二十七條 締約各國ハ第二十五條ノ規定ニ依リ異議カ審理委員ニ付託セラレタル場合ニ於テハ該異議ニ直接關係アルト否トニ拘ハラス異議ノ事項ニ關シ自己ノ有スル一切ノ情報ヲ審理委員ニ提供スヘキコトヲ約定ス

第二十八條 審理委員ニ於テ異議ニ付審査ヲ遂ケタルトキハ審理委員ハ當事者間ニ於ケル係爭事件ノ決定ニ付關係アル事實ノ一切ノ點ニ互レル判定ヲ包有シ且該異議ニ對シ執ラルヘキ手段及其ノ期間ニ付適當ト認ムル勸告ヲ含有セル報告ヲ作成スヘシ

尙該委員ニ於テ相當ト認メ且他ノ諸國ニ於テモ之カ採用ヲ公正ナリトセル事項ニ付非行アル國ニ對シ執ラルヘキ措置ア

第二十九條 國際聯盟ノ幹事ハ審理委員ノ報告ヲ以テ異議ニ關係アル各國ニ通報シ且之ヲ公表セシムルモノトス當該國ニ於テハ一月以内ニ審理委員ノ報告ノ採否ニ付之ヲ聯盟幹事ニ通告スヘク若之ニ反對ナル場合ニ於テハ更ニ該異議ヲ國際裁判所 (International Court) に提起スルカ否カニ付亦之ヲ通告スヘシ

第三十條 締約國 何レタルヲ間ハス第十九條ニ規定シタル措置ヲ所定期間内ニ執ルコトヲ怠リタル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ之ヲ國際裁判所ニ提起スルノ權利ヲ有スヘシ

第三十一條 異議ニ關スル國際裁判所ノ決定ハ之ヲ以テ終審トス

第三十二條 國際裁判所ハ審理委員ノ爲シタル一切ノ判定及勸告ニ付之ヲ確認シ變更シ又ハ取消スコトヲ得ヘク尙其ノ決定ニ於テ適當ト認メ且他ノ諸國ニ於テモ之カ行使フ公正ナリトセル事項ニ付非行アル國ノ商業ニ對シテ執ラルヘキ措置ヲ指示スルコトヲ得ヘキモノトス

第三十三條 若所定期間内ニ審理委員ノ報告中ニ列舉セラレタル勸告又ハ國際裁判所ノ決定ノ履行ヲ怠リタル國アルトキハ他ノ締約國ハ當該國ノ商業ニ對シ審理委員ノ報告又ハ裁判所ノ決定ニ於テ右ニ付指示セラレタル措置ヲ執ルコトヲ得

第三十四條 非行アリタル國ハ時期ノ如何ヲ論セス支配部ニ對シ審理委員ノ勸告又ハ裁判所ノ決定ニ基キ必要ナル措置ヲ採リタル旨ノ通告ヲ發シ且其ノ申立ヲ確證セムカ爲審理委員ノ設置ヲ聯盟幹事ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第

二十六條乃至第二十九條第三十一條及第三十三條ノ規定ハ之ニ適用セラルヘク若審理委員又ハ國際裁判所カ非行アリタ

ル國ニ對シ有利ナル報告又ハ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ他ノ諸國ハ當該國ノ商業ニ付執リタル各般ノ措置ヲ停止スヘキモノトス

第三章 一般規定

第三十五條

英國領土及印度ハ特立ノ締約國ト看做シ本協約ノ下ニ於テ各締約國ト同一ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フヘキモノトス

前項ノ規定ハ締約國ニ屬スル何レノ殖民地又ハ屬領地ナルトヲ問ハス當該締約國ノ申出ニ依リ國際聯盟ノ執行局ニ於テ完全ニ自治ヲ有スト認メラレタルモノニ付之ヲ適用ス

本協約ノ規定ニ基キ採用セラレタル諸協約ハ完全ニ自治ヲ有セサル殖民地屬領地又ハ保護國ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ該締約國カ協約ノ適用ヲ明定シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス各締約國ハ完全ニ自治ヲ有セサル殖民地屬領地又ハ保護國ニ付テモ右協約ノ適用ヲ考慮スヘキコトヲ約定ス

第三十六條 本協約ニ加盟セサル國家ニ在リテ將來國際聯盟ノ一員トナリタル場合ニ於テハ當然ニ本協約ニ加盟シタルモノト認定ス

第三十七條 出席委員三分ノ二ノ多數ニヨリ總會ニ於テ採用セラレタル本協約ノ改正ハ國際聯盟執行局ヲ構成セル代表者ノ屬スル諸國及國際聯盟代表部ヲ構成セル代表者ノ屬スル諸國ニ依リ批准セラレタル場合ニ於テ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第三十八條 本協約又ハ本協約ニ基キ爾後締約國間ニ於テ締結セラレタル協約ノ解釋ニ關スル疑義及爭議ハ常設國際裁判所ノ決定ニ委ヌヘキモノトス

第四章 過渡的規定

第三十九條 第一回總會ハ一千九百十九年十月之ヲ開クヘシ場所及議案ハ本協約ノ附屬規程ニ基キ講和會議之ヲ定ム第一回總會ノ召集及組織ニ關スル措置ハ該附屬規程ニ於テ指定セラレタル政府之ヲ行フ當該政府ハ總會ニ提出スヘキ書類ノ準備ニ關シ附屬規程ニ記載シタル國際委員會ノ援助ヲ受クヘシ

第一回總會及其ノ後ト雖國際聯盟一般資金ノ設定前ニ開催セラル會議ノ費用ハ萬國郵便聯合國際事務局ノ費用分擔法

ニ從ヒ各締約國之ヲ負擔ス

一四〇

第四十條 國際聯盟ノ設立セラル迄前數條ノ規定ニ從ヒ國際聯盟ノ幹事ニ宛テラレタル一切ノ通信ハ國際勞働局理事之ヲ保存シ國際聯盟幹事ノ任命ト共ニ理事ハ之ヲ幹事ニ引繼クヘキモノトス

第四十一條 常設國際裁判所ノ設立セラルニ至ル迄本協約ニ依リ決定ヲ經ヘキ爭議ハ國際聯盟執行局ノ任命シタル二人ヨリ成ル裁判所ニ委ヌヘキモノトス(協約案以上)

附 記

一、本委員會ハ二月二十八日ヲ以テ英國案ノ「ブレアントブル」及各條ノ第二讀會ヲ終了シ十日間休會シ其間日本國政府其

他ノ筋ト交渉ヲ遂クル事トシ三月十一日ヨリ第三讀會ヲ開ク事トナリタリ

二、以上ノ外委員會ハ第二讀會ヲ終了シタル英國案ヲ中立國ニ通報シ合セテ第一回總會ニ中立國ヲ招待スヘキコトヲ五國會議ニ申出ツルコトヲ可決シタリ

乙、伊國委員ノ提案及第一回國際勞働法總會ヲ急速ニ開催スルノ提議

國際勞働法ニ關スル伊國委員ハ二月二十四日ノ會議ニ左記ノ提案ヲ爲シ之ヲ英國案討議ノ後審議シ平和條約ノ社會條項Social clausesトシテ採用セラルル爲メ講和會議ニ提出スルコト及講和條約締結後遲クトモ二箇月以内ニ第一回國際勞働法ノ總會ヲ開催スヘキコトヲ提議シタリ

一、工場及手工場ニ於ケル最長勞働時間ハ一日八時間トスルコト

二、一週間ニ於ケル最長勞働時間(日曜ヲ包含ス)ヲ規定スルコト

三、農業賃銀勞働者(Farm wage worker)ノ一週間ニ於ケル最長勞働時間ヲ規定スルコト

四、工場及手工場ニ於ケル婦人ノ勞働並燐寸製造工場ニ於ケル白燐使用ニ關スル「ベルン」協約ノ更新

- 五、工場及手工場ニ於ケル未成年者協約ヲ擴張スルコト
- 六、少年勞働ノ最低年齡制限ニ關スル一般的規則(Uniform rule)ノ採用
- 七、法律ヲ以テ工場手工場及土地上(on the land)ニ於ケル最低賃銀ヲ確定スル事ヲ各國ノ義務トスルコト
- 八、同一作業ニ對シテハ男女同一賃銀タルコト
- 九、工場手工場及田園企業(Farm undertaking)ノ管理及事業(Management and working)ニ付勞働者カ之ヲ監査スルノ權ヲ認ムルコト
- 工場手工場及田園企業ニ對スル規則ヲ作ル場合ニ勞働者ヲ參加セシムルコト
- 十、各國民ニ對シ疾病傷害老廢出產及失業ニ關スル最低強制社會保險ノ設定

十一、當該國ノ政府及勞働組合間ノ協約ニ依リ管理セラル移住ノ自由(Liberty of migration controlled by agreement between the Governments and the trade and labour unions of the countries directly interested)

十二、左記原則ノ下ニ移住ニ關スル規則ヲ制定スルコト

- (A) 外國人及其ノ家族ニ對シ其勞働及社會ニ關スル法制上自國勞働者及其ノ家族ト同一ノ待遇ヲ附與スルコト又其ノ賃銀ニ付テハ自國勞働者ヨリモ低廉ナラサルヘキコト
- (B) 勞働者移入國ニ於テ外國勞働者ニ對シ外國人タル故ヲ以テ賦課スル一切ノ租稅ヲ免除スルコト
- (C) 勞働者移出國ハ其ノ勞働者ニ對シ各般ノ救護及保護ヲ與ヘムカ爲ニ勞働者移入國ニ向ケ委員ヲ差遣スルノ權利ヲ保留スルコト右勞働者移入國ニ於テハ前記ノ委員ヲ承認シ之カ職務ノ執行ヲ援助スルノ義務ヲ負フコト
- (D) 各國ハ一定ノ期間後ニ勞働及社會的保護ニ關シ其ノ直轄殖民地ニ本國法ノ適用ヲ擴張スルコトヲ約スヘク又若殖民地ノ情況ニ依リ外國及自國勞働者ノ均等待遇ニ關シ同一ノ法制ヲ施行スルコト能ハナル場合ニ於テハ其ノ保護國領土又ハ自治殖民地ニ對シ同一ノ法制ヲ擴張施行スルニ適切ナル一切ノ措置ヲ講スルヲ約スルコト(本項

本條原文次ノ通り

- A) The same treatment, in the matter of social and labour laws, for the foreigner and his family, as for the native workman and his family, and his wage rate not to be lower than that of the native workman.
- B) Exemption of all the taxes on the foreign workmen because they are foreigners in immigration countries.
- C) Right reserved to the country, from which the workmen have immigrated, to send delegates for all forms of assistance to the workmen and for their protection. Obligation of the country, to which the workmen go, to recognize the said delegates and help them in carrying out their duties.
- D) Pledge of all the countries, who: acquiesce to extend in a determined lapse of time to their crown colonies their own laws, with regard to labour and social assistance, or should it be impossible to adapt the same laws for the equal treatment of foreign and native workmen to the conditions of the colonies, a pledge to seek by all available means to extend the same laws to its protectorates, to the dominions and to self-governing colonies.

十一、國際聯盟ニ加入セル各國ニ於テハ其ノ政府ニ依リ承認ヤハシタ々社會共助ニ關スベ組合ニ於テ相互の役務(Service) ハ爲メル

◎参考

國際勞働法委員會ニ關シ既掲ノ外參考トナルヘキ事項次ノ如シ

一、英國委員努力ノ目的

委員會ニ於ケル能度其他ヨリ觀察スルニ英國委員ハ差當リ提出案ノ如キ本問題ニ關スル國際機關設立ノ事業ヲ成立セシメムコトニ努力シ是ヨリ進ムテ勞働狀態改良ニ關スル具體的ノ諸問題即チ勞働時間及年齢ノ制限等ノコトハ一ヲ述べタリ

切本年十月ニ開カムトスル國際勞働總會ニ讓ラムトセルモノト認メラル

二、英國委員ノ日米兩國加入希望

右ノ結果英國委員ハ其ノ提案第十八條第四項ニ關シ米國ハ條約批准制度及聯邦制度ノ關係上日本ハ法制及實際上特殊ノ影響アル關係上特ニ之カ承諾ヲ困難トスル處此ノ兩國ヲシテ如何ニモシテ列國(?)國際機關ニ加入セシメムト努力シツアリ本邦委員ニ對シ其ノ旨ヲ内話シタルノミナラス英國首席委員ハ牧野全權ヲ訪問シテ本邦參加ノ希望ヲ述べタリ

三、印度

英國案第三十四條ニ於テ印度ヲ獨立ノ協約加盟者トナセルニ鑑ミ本邦委員ハ英國委員ヲ訪ヒ印度ハ勞働狀態改良ニ關シ他ノ文明諸國ト歩調ヲ共ニスル能ハサルモノ多々有之ヘク又第十八條第四項ノ適用ニ關シ印度ニハ議會ナク去リトテ倫敦ノ英國議會ニテ印度ノ爲協約ノ取捨ヲ決スルコトモ能ハサルヘシ如何ニスルヤト質問シタルニ英國委員ハ其ハ尤ノ質問ナリ印度ハ事情ヲ異ニスルヲ以テ萬事特例ヲ設ケサルヘカラス此ノ關係ニ於テ日本ト趣ヲ同シウスト云フヘシ又第十八條第四項ノコトハ無論印度ノ關係迄英本國ニテ決スルコ(脱)ルカ印度ト雖一種ノ議會(カウンシル)アリテ之ヲシテ決セシムル途ナキニ非スト答ヘタルカ此問答ハ第三十四條ニ關スル英國委員ノ修正案ノ出ツル以前ニ行ハレタルモノナリ

四、勞働者本位ノ傾向

米國委員ノ立場ニモ依ルコトナルカ何事ニモ勞働者ノ利益ヲ本位トシテ議論セムトスル風アリ今回ノ委員會ニ於テ國際機關ノ設置ノミナラス勞働狀態改良ノ具體的諸問題ヲ解決セムト意氣込居リ又英米以外ノ委員ヨリモ此種問題ニ關スル提案提出セラレ居ルニ付之等ハ鮮クトモ委員會ノ議題トナルハ勿論ナリ「コンバース」ハ本月末ニハ歸米ノ必要アル由ニテ來ル十一日以後ハ餘程取り急ギ議事ヲ進ヌムトスル模様アリ

五、佛委員ノ努力

佛國委員ハ本件國際勞働立法事業ヲシテ英國案ニ於ケルヨリモ一層立チ入リテ世界各國ヲ拘束スルモノタラシメムコトニ努力シ且ツ其ノ實現ヲシテ一日モ速カナラシメムト焦慮セリ此點ニ付キ我方ト立場ヲ異ニスルヲ以テ動モスレハ我委員ノ態度ヲ喜ハサル口吻アリ

六、白國委員ノ熱心

白國委員ハ存外本問題ニ熱中シ五國以外ノ諸國ヨリ出スヘキ委員ノ内二名迄白國ヨリ出シ且ツ工業トシテ自國ノ地位ヲ主張スルコト一再ナラス英國案ノVoteニ於ケル支配部(「ガーニング、ホライ」)ノ組織案ニ於テ五大國ノミ必ス該支配部委員タルコトヲ改メ全部互選トナサムコトヲ主張シ五國委員中ニモ賛成ヲ計リシ處英國委員ハ原案維持ノ考ニ付キ採決ノ際成ルヘク原案賛成者ヲ多カラシメム爲メ當時偶々病氣引籠中ナリシ本邦委員ノ出席ヲモ希望シ來リ本邦委員其レニ應シタル程ナリシニ其間ニ白國委員熱心運動シタルモノノ如ク遂ニ英國委員ヨリ進テ前顯ノ如キ修正案(本調書第一三〇頁「第七條ニ關スル附則」参照)ヲ出スコトトナリ本件解決ヲ告ケタリ尤モ主要工業國八箇國ノ内ニ本邦ノ割込ミ得ル事ハ大體間違ナカルヘキ見込ナリ

七、伊國委員ノ努力

伊國委員ハ本國際勞働立法事業ヲ各國ニ對シ一層拘束力ヲ有スルモノトナサムトスル事ニ於テ佛國委員ト態度ヲ同ウスル外農業關係ノ勞働者ニモ本事業ノ適用ヲ及ボサシメムコトヲ熱望シ居レリ

八、「ベルン」ノ各國社會黨大會ト國際勞働法委員會

(イ) 該大會ノ決議廻附

最近「ベルン」ニ開カレタル各國社會黨委員會ノ決議ハ其後同會委員ヨリ佛國首相ニ提出セラレ勞働問題ニ關スル

○勞働國際規定決議文(要領)

(「ベルン」各國社會黨大會ヨリ廻附)

モノハ過日講和會議書記局ヨリ本委員會ニ廻附セラレタルカ其ノ要領次ノ如シ

現時資本家ハ賃銀制度ノ下ニ勞働者ノ利益ヲ壟斷シ以テ其利潤ヲ増大セんコトニ努メツツアル處此方法ニシテ制止セラレサルニ於テハ勞働者ノ心身ハ遂ニ撲滅セラルヘキヲ以テ資本制度ノ廢止極モテ必要ナルモ此事タル國際的規定ヲ俟ツニアラサレハ實行スルコト困難ナリ是ヲ以テ本國際社會主義大會ハ「リーズ」及「ベルン」ニ於テ國際平和大會ノ可決シタル決議ニ基キ最小要求トシテ左記ノ事項ヲ要求ス

一、十五歳以下ノ小兒ハ工業ニ從事セシムルヲ得ス

二、十五歳以上十八歳以下ノ幼者ノ勞働時間ハ一日六時間ヲ超ユルヲ得ス

尙ホ右ノ者ニ對シテハ一日少クトモ二時間技術的補修教育ヲ授クヘシ

三、土曜日ニ於ケル婦女ノ勞働時間ハ四時間ヲ限トシ午後ハ或種職業中必要ノモノヲ除ク外之ヲ從業セシムヘカラス婦女ヲシテ夜業ニ從事セシムヘカラス又成規時間外ノ宅業ヲナサシムヘカラス婦女ヲシテ其ノ健康ヲ保持スルニ不可能ナル勞働鑛山業又ハ地下或ハ高處ニ於ケル勞働ニ從事セシムヘカラス又分娩前後十週間ハ勞働セシムルヲ得ス各國凡テ出產保險制度ヲ設クヘシ婦女ハ同一業務ニ於テハ男子ト同様ノ賃銀ヲ得ヘシ

四、男子勞働時間ハ一日八時間即チ一週四十八時間ヲ超ユカラス午後八時ヨリ午前六時迄ノ夜業ハ技術的理由又ハ職業ノ性質ニ基ク場合ノ外之ヲ禁ス夜業ニ對シテハ晝間勞働ヨリ高率ヲ以テ賃銀ヲ支拂フヘン各國凡テ土曜日半日労働制度ヲ採用スヘシ

五、有ラユル勞働者ニ對シ土曜日ヨリ月曜朝ニ至ル間少クモ三十六時間ノ繼續休息ヲ與フヘシ

六、危險性ヲ帶フル勞働ニ於テハ健康ヲ保持シ災害ヲ避クル爲一日ノ勞働時間ヲ八時間以下ニ制限スヘシ有毒材料ノ使用ハ代用品ヲ求メ得ル場合ハ之ヲ禁ズヘシ

白鱗ヲ「マツチ」製造ニ使用スルコトハ遲帶ナク是ヲ禁止スヘシ鐵道用車輛ハ五箇年以内ニ有ラユル車輛ニ適應スヘキ連結機ヲ備フヘシ

七、勞働者保護ニ關スル有ラニル法律命令ノ原則トシテ宅業ニモ之ヲ應用スヘク社會保險制度モ亦宅業ニモ之ヲ適用スヘシ宅業ハ一、健康上重大ナル災害ヲ來タシ易キ勞働

二、食料品工業ニ就テハ之ヲ禁止スヘシ

八、各國凡テ勞働者ニ對シ自由ニ結社集會スルノ權利ヲ認ムヘク或種勞働者ヲ自餘勞働者ヨリ異ナリタル特殊的地位ニ置キ又ハ勞働者ニ結社集會ノ權利ヲ供與セサル法律及命令ハ之ヲ廢止スヘシ移住勞働者ハ其ノ移住セル國ノ勞働者ト同一ノ程度ニ於テ結社勞働組合ヘノ參加及ヒ同盟罷工ノ權利ヲ許容セラルヘシ結社及集會ノ權利ヲ考查スルニ際シ干涉スルモノハ罰セラルヘシ何レノ外國勞働者ト雖其ノ屬スル職業ノ雇主ト勞働組合間ニ締約セラレタル貨銀及勞働條件ヲ要求スルノ權利ヲ有ス若シ前記ノ締約ナキ場合ニハ當該地方ノ慣習的貨銀率ヲ要求スルノ權利ヲ有ス移住ハ之ヲ禁止スヘカラス移民ノ入國ハ原則トシテ之ヲ禁止スヘカラス但シ左ノ場合ニハ此ノ限ニアラス

(一) 經濟的不景氣ニ際シ當該國並ニ外國ノ勞働者ノ利益ヲ保護スル爲一時移民ノ入國ヲ制限スル場合
(二) 公共ノ健康ヲ保持スル爲移民ノ入國ヲ暫時禁止スルコト

(三) 移住民ニ對シ其自國語ノ讀方又ハ書方ヲ或限度ニ於テ要求スルコト

九、何レノ勞働者ト雖モ勞働組合ニ關スル行為ニ依リ放逐セラルコトナシ斯ル事件ニ關スル訴訟ハ普通裁判所ニ於テ行ハルヘシ

一〇、男女孰レヲ問ハス勞働者ノ平均賃銀ニシテ生活ノ基本的標準ヲ滿スニ不充分ナルカ又ハ勞働組合ト雇主間ニ定メタル一般的契約ヲ實行スルコト不可能ナル場合ニハ政府ハ勞働者及雇主ヨリ同數ノ代表者ヲ出サシメ法定最低賃

銀ヲ定ムル爲勞働局ヲ設立スヘシ

一一、失職者ヲ減少シ且ツ失業保險ヲ容易ナラシムル爲メ各國ニ現在スル勞働取引所ハ(脫)ニ關スル報道ヲ出來得ル限り敏捷且ツ完全ニナシ得ル様聯合スヘシ各國凡テ失業保險制度ヲ採用スヘシ

一二、各國凡テ國營保險制度ヲ採用スルコト右ノ外尙ホ寡婦孤兒不具ニ對スル保險及養老保險制度ヲ採用シ自國民ノミナラス外國人ニ對シテモ一律是ヲ適用スルコト

一三、海員保險ニ關スル特別法ヲ制定スヘシ

右特別法制定ニ關シテハ海員協會是ニ參與スヘシ

一四、右各項ノ實施ハ主トシテ各國勞働者及ヒ工業監督官是ニ當ルモノトス右監督官ハ技術衛生及ヒ經濟各方面ノ専門家ヨリ任命シ勞働者及ヒ雇主モ包含スルモノトス

一五、本條約ヲ實施シ且ツ今後猶國際勞働規定ヲ改善スルノ目的ヲ以テ締盟國ハ國際聯盟及國際勞働組合ノ兩者ニ屬スル各國ノ代表ヨリ成ル一委員會ヲ設クヘシ(以上)

(四) 該大會ノ本委員會ニ及ス勢力如何

前記ノ如ク該大會ノ委員カ佛國首相ニ會見シタル外英國ノ「ヘンダーソン」等ハ當時直チニ「ロイド、ジョージ」ニ會見シタル事實アルモ之レカ爲メ別段英國委員ノ態度ニ變更ヲ來シタル形跡ナシ尙本委員會ニ參加ノ米國委員「ゴンバース」及白國委員「ヴァン、デル、ヴェルト」ハ「ベルン」大會ニ參加ヲ拒絶シタル行態リモアルコトトテ全然該大會ノコトニ付冷淡ナル口吻ヲ漏ラシタルコトアリ照レトモ既掲ノ如ク(第十八條討議參照)曩ニ伊國委員カ提出シタル國際總會ノ決議ヲシテ互ニ國際條約タルノ效力ヲ有セシメムトノ希望ヲ本委員會ニテ決議セムト提議セルニ關シ同國委員ノ之ヲ撤回シタルニ不拘佛國委員更ラニ之レヲ提出シ遂ニ委員會ノ採決ヲナス迄ニ至リタルハ想フニ「ベルン」會

外務省政務局

千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書（其四）

（自三月一日至同三月十五日）

大正八年三月二十五日 調